

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画

～愛される「見付の五階」をめざして～

(資料編)



2024年3月

磐田市教育委員会

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画
～愛される「見付の五階」をめざして～
(資料編)

2024 年 3 月
磐田市教育委員会

例 言

1. 本書は史跡旧見付学校附磐田文庫の保存活用計画を作成するにあたって整理・入手・発見した資料を収録したものである。
2. 本文は磐田市教育委員会教育部文化財課が執筆・編集した。
3. 第一副築の移築建物に関する調査や資料の提供については、古山晴海氏の協力を得た。沿革誌の借用及び複写については磐田北小学校より協力を得た。建造物の実測にあたっては所有者の理解と協力を得た。また、以下の方々より多大な協力、教示を得た。厚く感謝申し上げます。
大久保家 矢奈比売神社 淡海国玉神社 久野隆 見付三社氏子崇敬者会
名倉愼一郎 五島康司 小杉達 見付宿を考える会 寺田伊勢男 松浦美恵子
4. 第5章第1節は公益財団法人文化財建造物保存技術協会に、同章第2節については株式会社フジヤマに、同章第3節は株式会社シン技術コンサルに、同章第4節は株式会社文化財保存計画協会に、それぞれ委託した調査業務の報告書を再編集・加筆したものである。

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画 資料編 本文目次

- 第1章 見付学校関係資料
 - 第1節 古写真・古図面
 - 第2節 所蔵資料
 - 第3節 事業関係資料
- 第2章 磐田文庫関係資料
- 第3章 淡海国玉神社関係資料
- 第4章 大久保家関係資料
 - 第1節 大久保邸内の建造物等
 - 第2節 大久保家所蔵資料
- 第5章 各種調査報告
 - 第1節 建物の現況調査
 - 第2節 植生調査
 - 第3節 石垣調査
 - 第4節 地盤調査

第1章 学校関係資料

第1節 古写真・古図面

（1）古写真

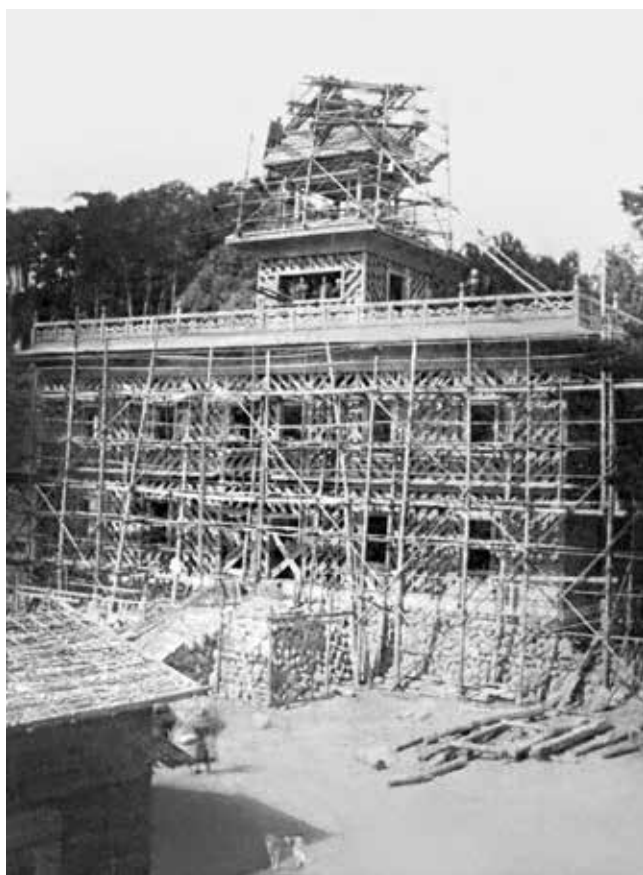
市が所蔵する写真類を提示する。



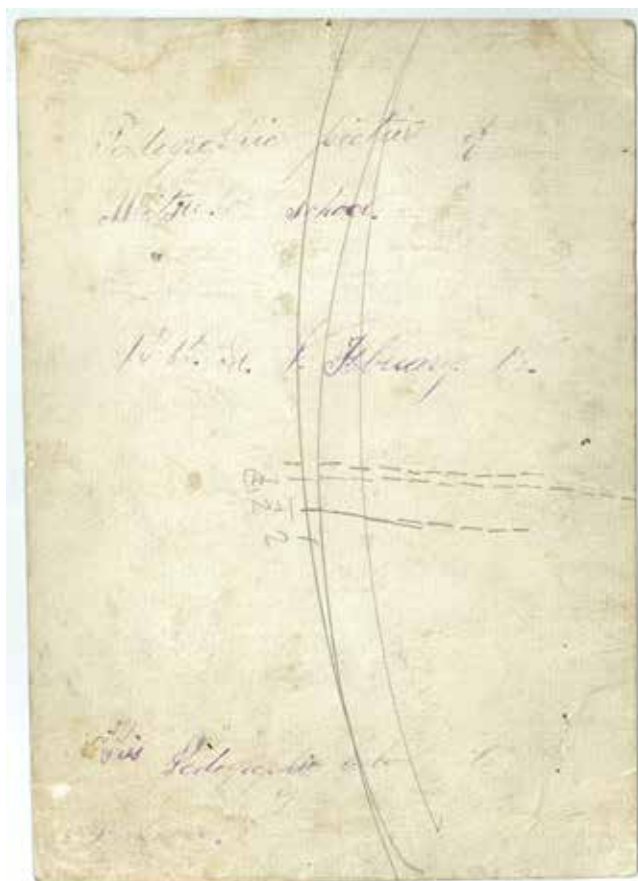
開校式当日の見付学校（明治8年8月7日）



開校式当日の見付学校（カラー補正写真）



建設中の見付学校
明治8年2月18日



【写真の英文裏書】

Podographic Picture of
Mitsuke school

2535. A. J. February 18.

This Podographic belook to
ly

F □ □ □ □ □ □ (撮影者サイン)



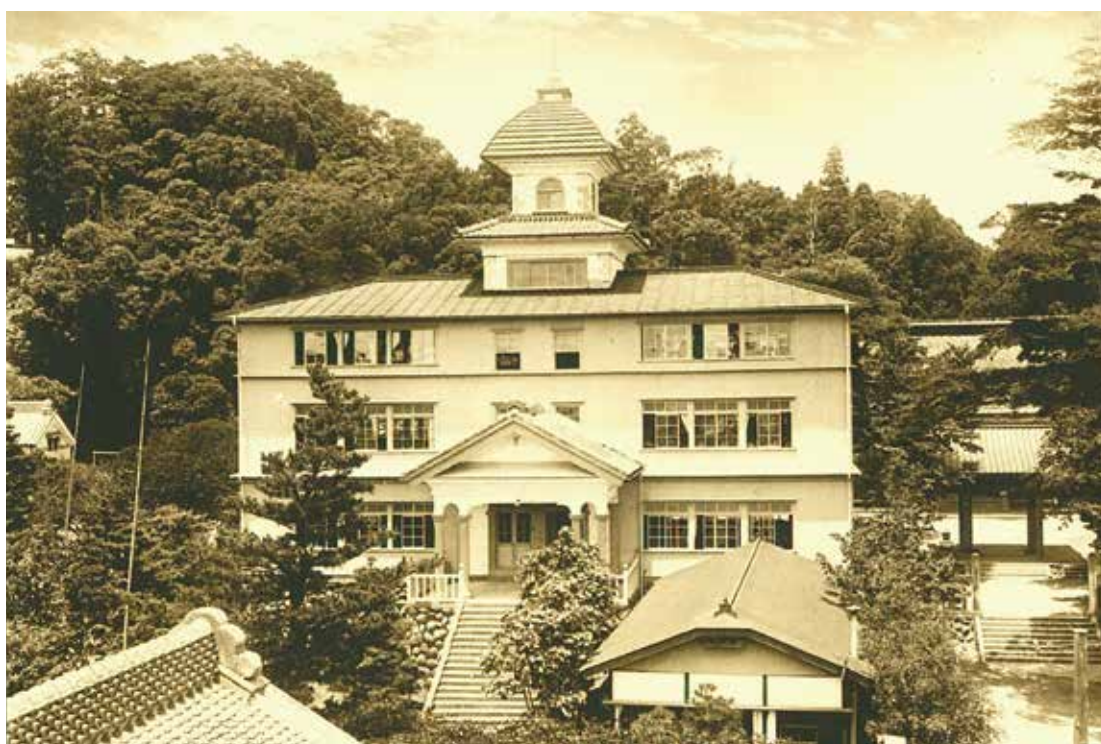
明治後期から大正初期の見付学校（絵葉書）



大正 10 年ごろの見付学校
昭和 28 年文化財保護委員会へ
の指定陳情用資料



見付高等裁縫女学校時代（昭和2年3月卒業記念写真帖より）



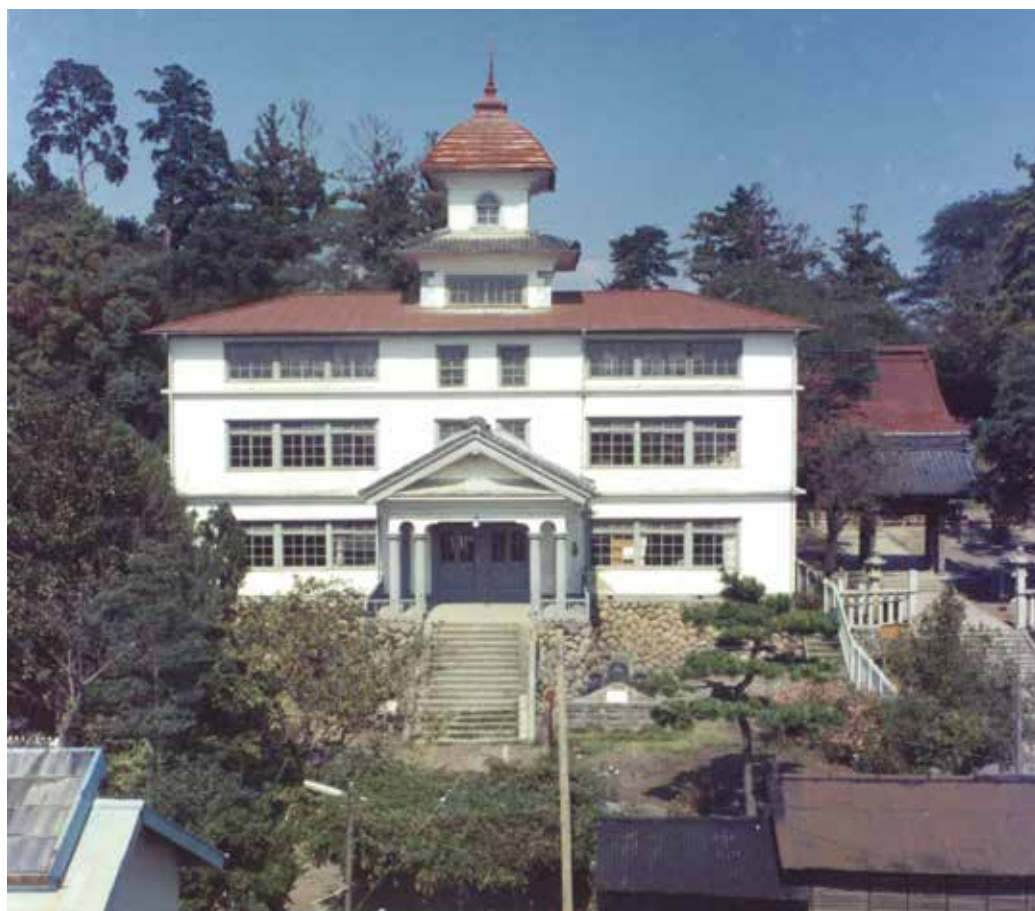
見付高等裁縫女子青年学校時代（昭和13年3月卒業記念写真帖より）



市立郷土館 昭和 40 年ごろ



同上 昭和 43 年 3 月発行図書より



解体修理前の郷土館 昭和 49 年



同上 背面



環境整備事業完了後の郷土館 昭和 53 年



平成元年（社号標・秋葉灯籠移転撤去前）

(2) 古図面

市が所蔵する図面類を提示する。また参考となるべき写真も提示した。

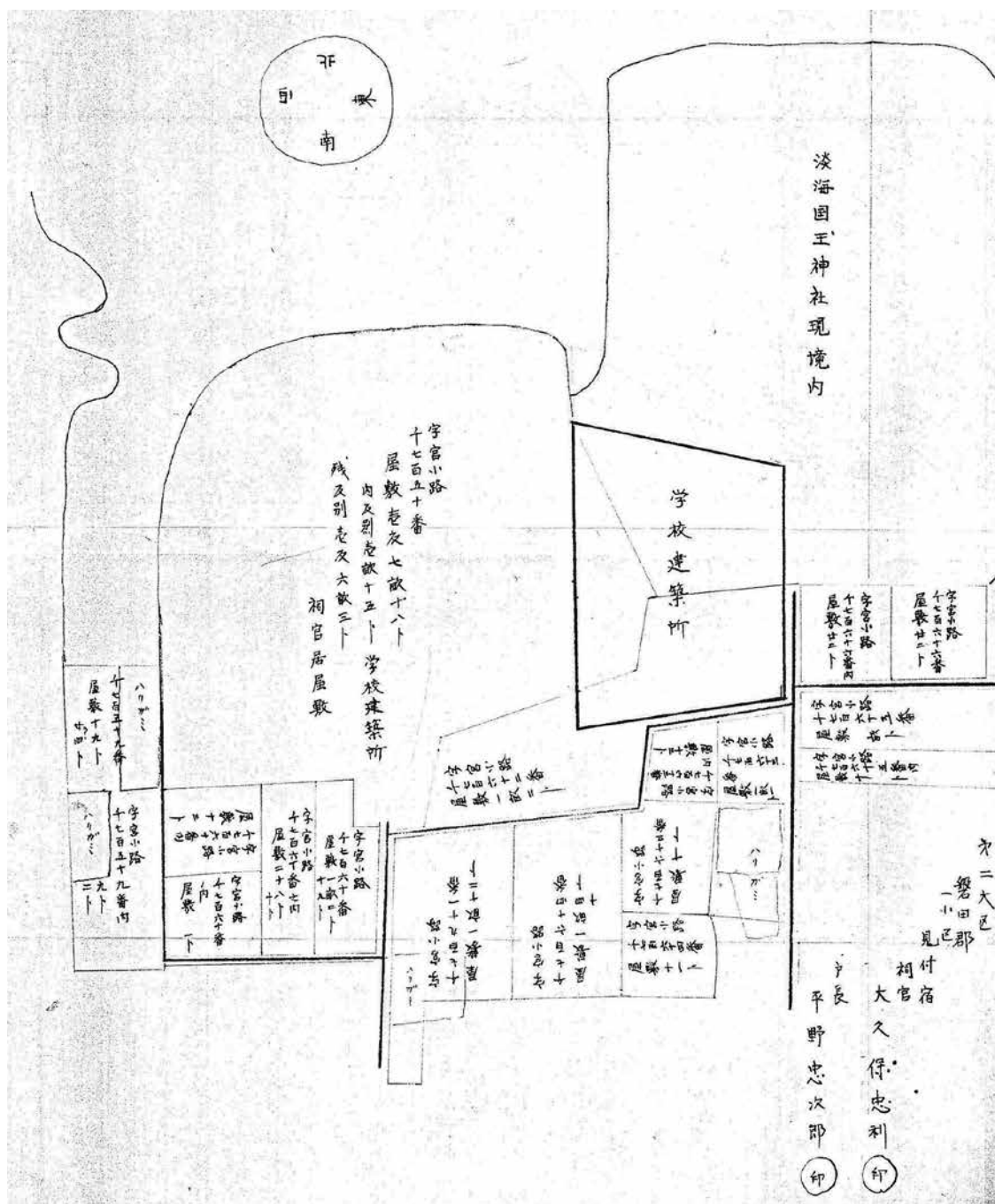
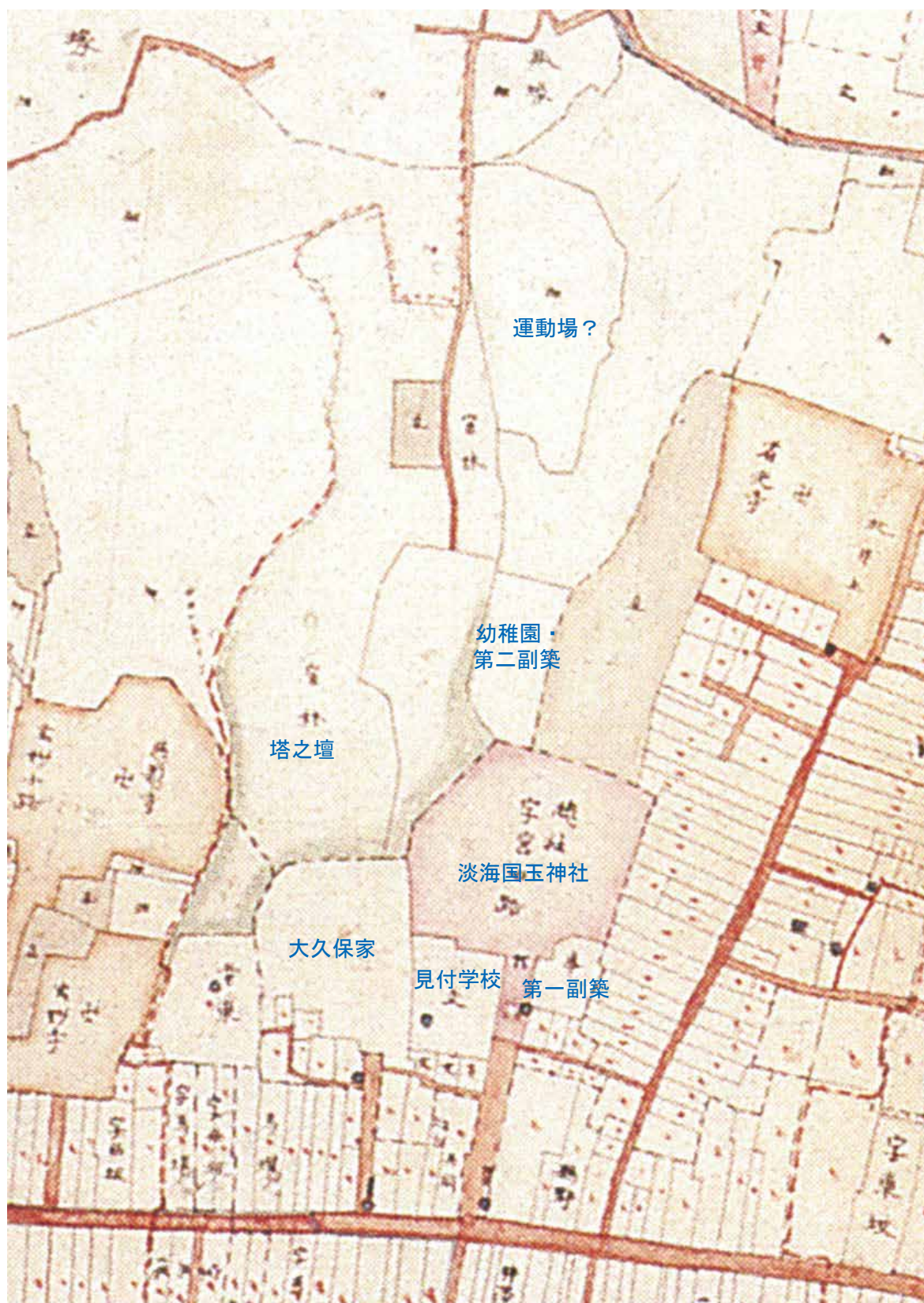
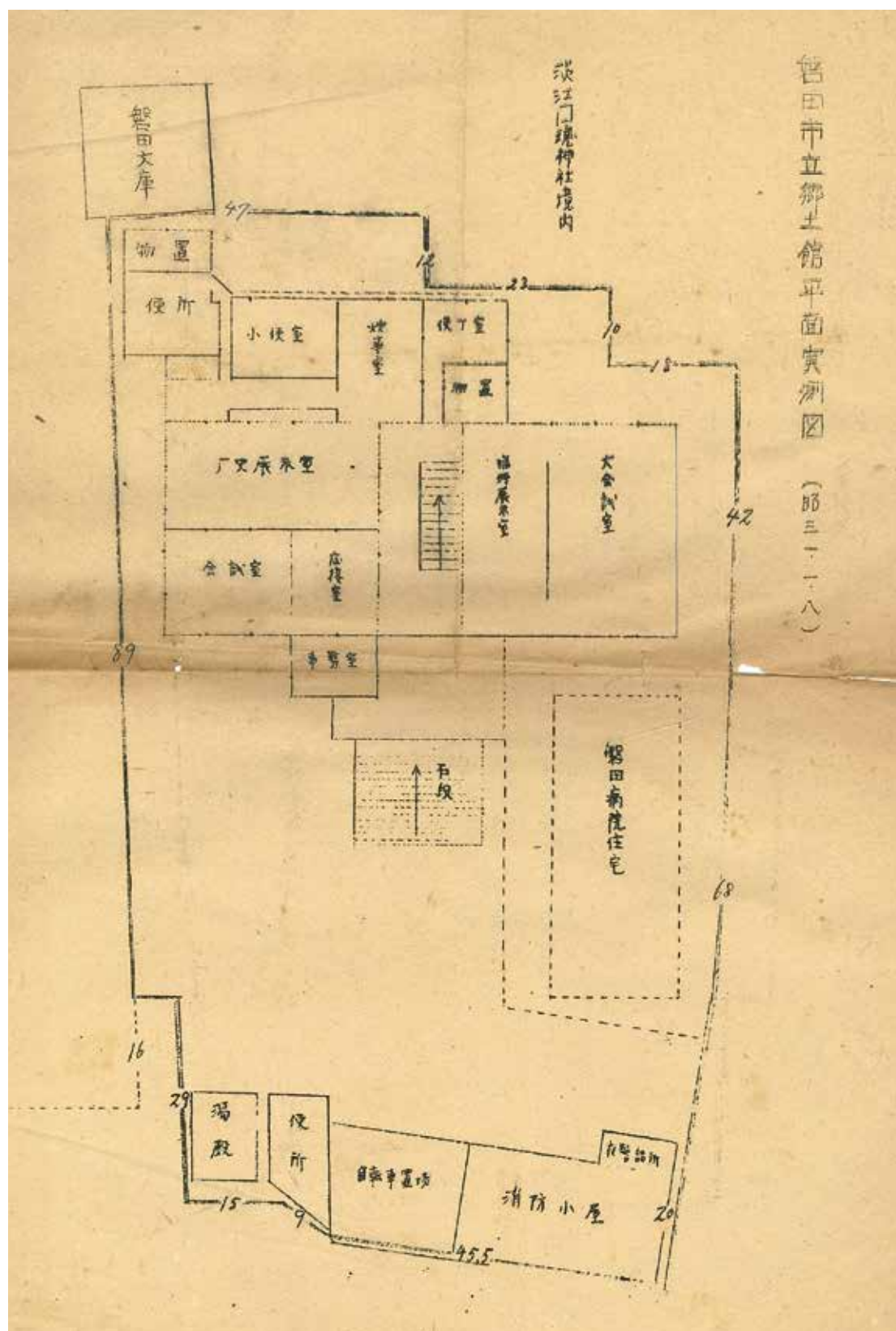


図 見付学校建設予定地図（大久保家文書を清書）



見付町地図（大正年間）



郷土館平面図 昭和 31 年 1 月 8 日

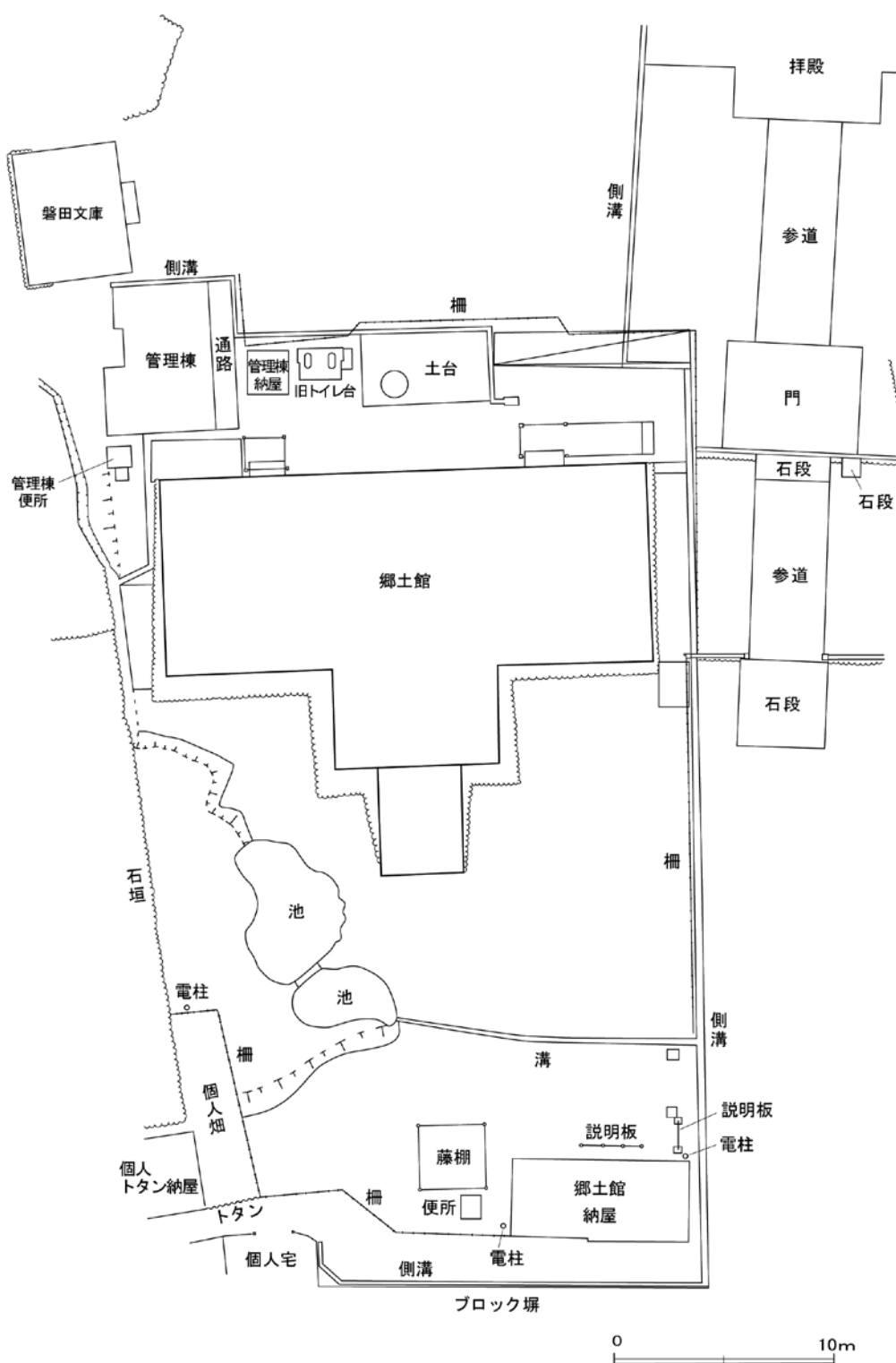


図 郷土館周辺実測図 昭和 52 年 5 月 18 日 平板測量

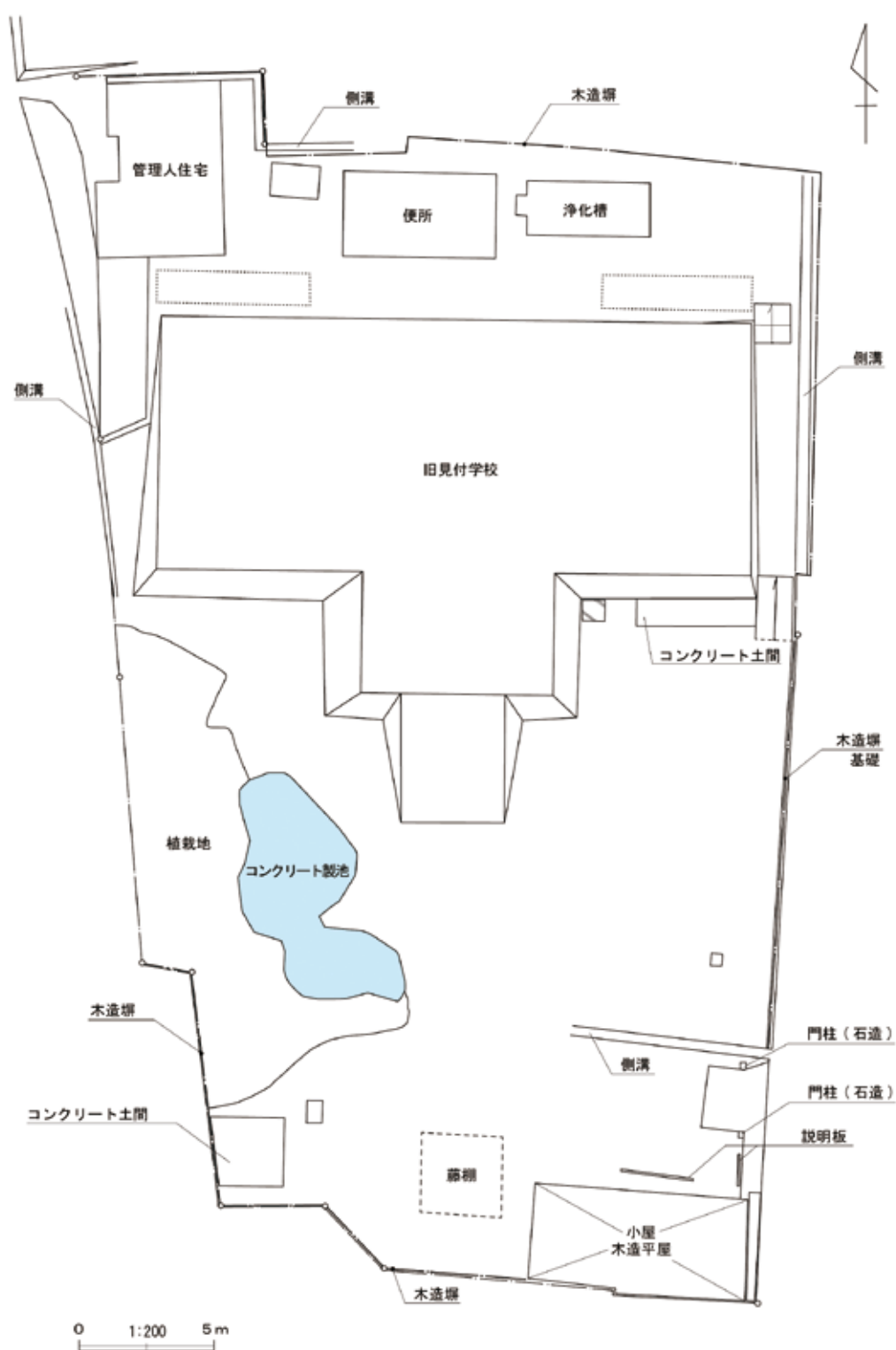


図 郷土館周辺実測図 昭和 53 年度環境整備事業前

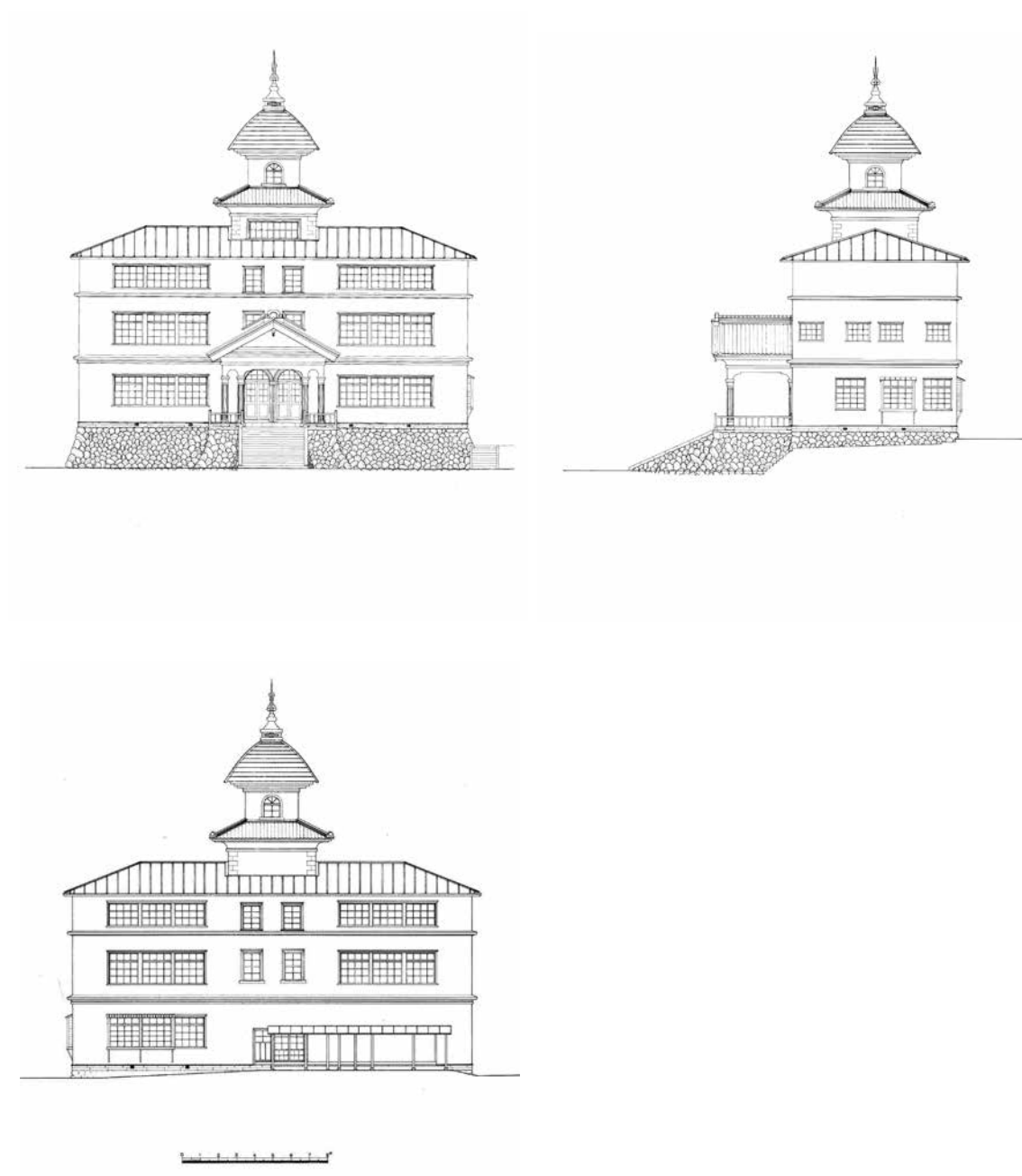


図 昭和 49 年度着工前立面図

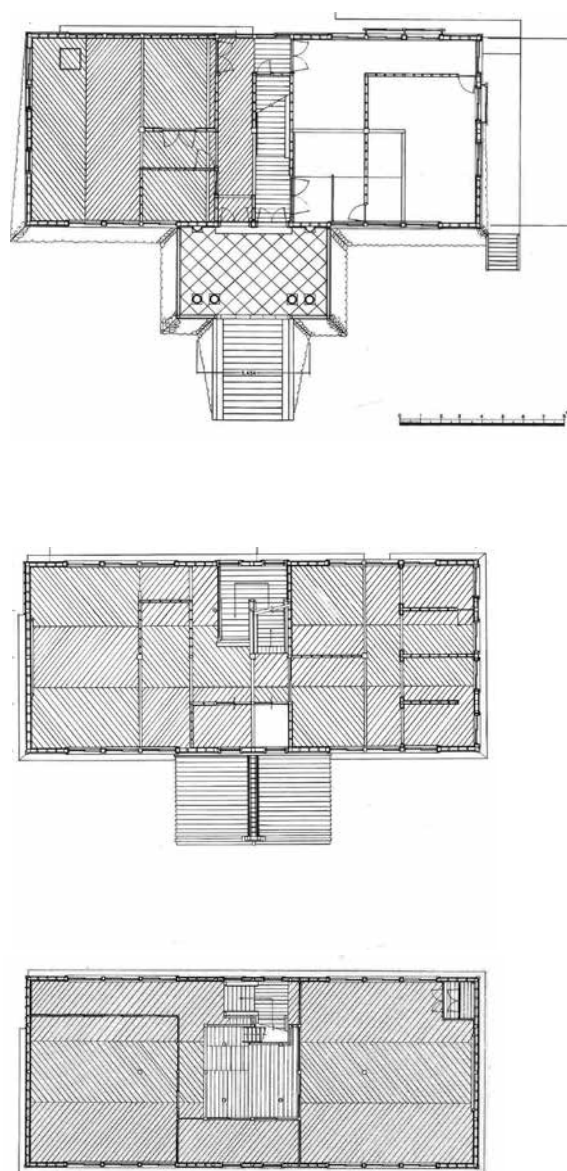


図 昭和 49 年度着工前平面図



1 階



1 階東教室



1 階 2 階への上り階段



2 階



2 階から 3 階上り口



塔屋 1 階

昭和 49 年度 修理前の校舎内部

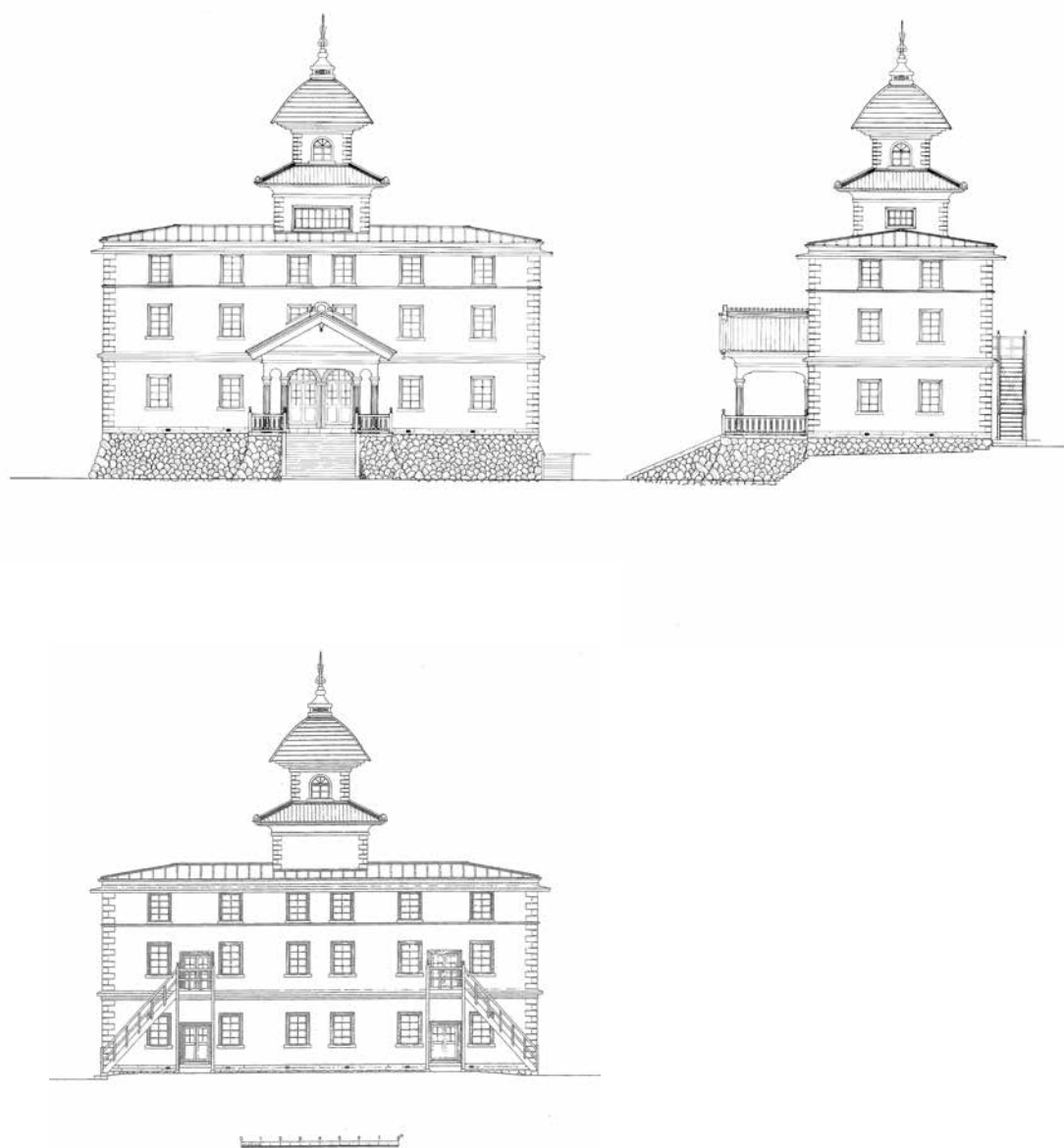


図 現況立面図

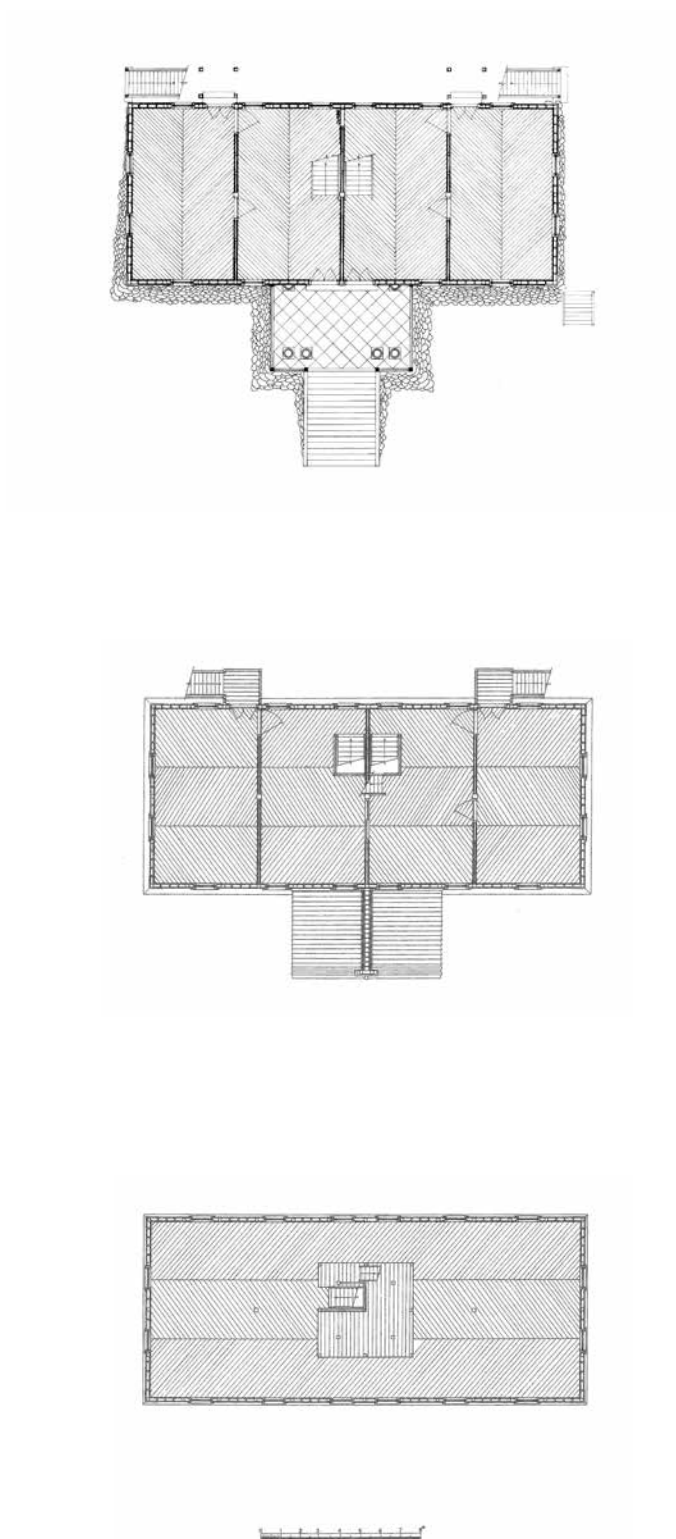


図 現況平面図



1 階



2 階



2 階



2 階



2 階西部教室から 3 階への上り階段

昭和 51 年度 修理工事直後の校舎内部（1）



3 階



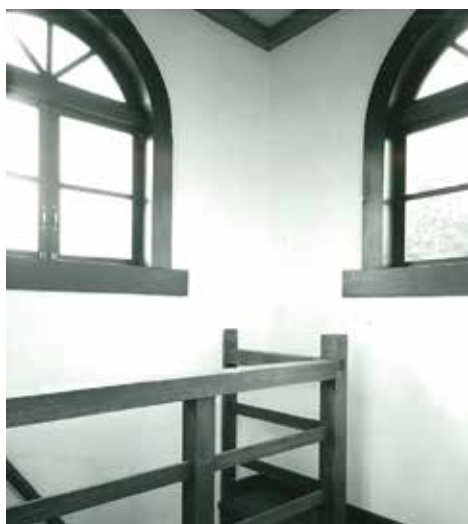
3 階



塔屋 1 階



塔屋 1 階



塔屋 2 階



塔屋 2 階

昭和 51 年度 修理工事直後の校舎内部（2）

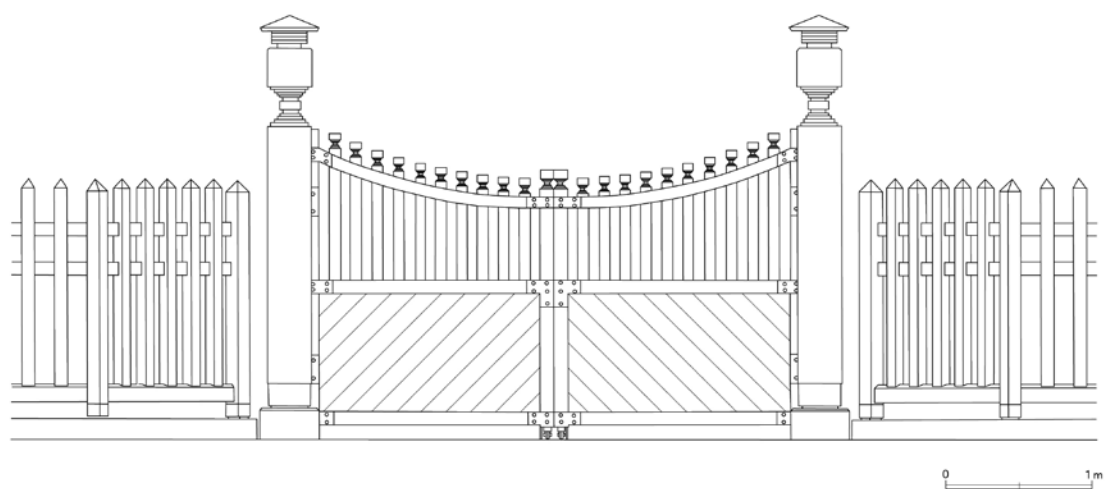


図 正門門柱及び門扉 現況立面図



正門 昭和 53 年環境整備工事竣工時



正門 現況

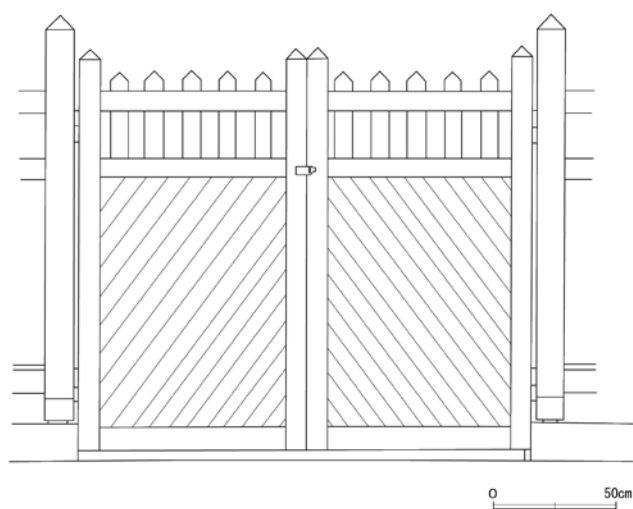


図 裏門 現況立面図



裏門 現況

（３）長野農業協同組合前野支所について

第一副築を移築したとされる標記の建造物についての調査結果を記す。

磐田市立郷土館が昭和 31 年 2 月に発行した「五階校舎ト見付小学校ノ沿革」と題した年表によると、大正時代の備考欄に「第一副築解体移転（現前野農協）」とあることから調査を行った。なお、『沿革誌』には清水町公会堂に移築したとの記事があるといい、『解説旧見付学校』もこれを採用しているが、どちらが正しいか、再移築などがあったのかは不明。

調査の結果、元職員 2 名から話を聞くことができ、当時の写真も入手することができた。概要は以下の通り。

- ・戦後昭和 22 年 11 月に農業協同組合法が制定され、翌年 5 月に長野農業協同組合が発足した。本所は小島に置かれ、支所が前野・草崎・鮫島の 3 か所に置かれた。その後、昭和 41 年 3 月 31 日に旧磐田市の農業協同組合が合併して磐田市農業協同組合が誕生し、前野支所も磐田市農業協同組合前野出張所になった。出張所は昭和 40 年代終わりに廃止された。現在は平成 4 年に遠州中央農業協同組合が発足し、前野地区には磐田南支店がある。

- ・建物はいつできたかは知る人がない。ただ戦後早い時期から勤務していた職員は娘に「建物は新築ではなくどこかから持ってきたものだ」と語っていた。また、地区には他にない垢ぬけた印象であったと複数の人が証言している。天井も高く、立派な建物だったようである。

- ・総 2 階ではなく東側 1/3 は肥料倉庫になっており、その部分は 2 階がなかった。

- ・建物の廃棄時期も不明である。また廃止後すぐに取り壊したわけではないようである。跡地には前野公民館が建てられたが、既に建て替えられており、当初の建設時期もわかっていない。



磐田市農協前野出張所



同左

（４）テニスコート関係資料

第二副築があった北エリアは、その後テニスコートとして改変された。その経緯について触れた文献を提示する。

中津川長治編・発行『まごころ 亡き友 山内清一郎君の霊に捧ぐ』昭和４年 より
※旧漢字等一部修正

思い出のテニス

磯部栄一

『山内コート』と云えば『あゝあのコンクリートのコートか』と当時のテニスマンは思い出すであろう。嘗て野球万能の見付町が次第にテニス全盛に移って行ったその頃、此コートが最初のスタートとなった。当時のあらゆる階級を通してなくてはならない娯楽場でありまた慰安場であった。『山内コート』はその名の様に山内家の所有で当時の先駆者は御大将の清一郎兄であった。（中略）

顧うに総社裏の空地に出来た見付体育会コート（私共は山のコートと呼びなれていた）は当時税務署長の桶田さんや清一郎兄や其他山内クラブに関係していた人達が発起になって町の補助を得て大正十二年に出来上がったものだ。山内コートは見付テニスマンの熱を煽る動火線とはなったが何分市街の東部に偏在していたのと倉庫に囲われていて余地のなかった為次第にクラブの中心がこの山のコートに移ってその名称も山内クラブから見付庭球クラブと変って来たがその内容に於ては勿論同一で中遠の覇者として自他共に許していたのである。（後略 昭和四年六月）

補注：「山内コート」は大正 10 年（1921）に山内家所有の米貯蔵跡のコンクリートを利用し、盛土して造られたテニスコートで、磐田市におけるテニスの発祥という。現在の遠州中央農協見付支店にあたる。塔之壇テニスコートの完成とともに見付庭球クラブも結成され、見付町体育協会にも所属した。クラブは昭和 52 年（1977）8 月に設立された磐庭球協会に発展した。磯部氏は初代会長をつとめている。

第2節 所蔵資料

(1) 棟札

明治8年(1875)1月の建設時のものと、昭和51年(1976)4月8日の解体修理時のものがある。いずれも剣先形の神札。

前者は長さ3尺6寸5分(110.7cm)×最大幅8寸8分(26.8cm)・最小幅8寸3分(25.3cm)、厚さ6分(1.8cm)。

(2) 古写真

卒業記念写真、全校生徒集合写真、教師写真、卒業記念写真帖(アルバム)がある。写真帖は大正期以降のもので、それ以前は集合写真1葉のみのものだったらしい。見付尋常高等小学校・高等裁縫女学校のものが多く残っている。卒業記念写真のうち、生徒だけで写した1葉は公式なものではなかったらしく、教師が写っておらず、代わりに子供を背負った小使(裏に「小使」との注記がある)が写っている貴重なものである。

(3) 伝酒井之太鼓

胴回り8尺7寸5分(2.65m) 胴長2尺6寸(79cm) 皮の直径2尺4寸(73cm)

元龜3年(1572)「三方ヶ原の戦い」の際に徳川家康の窮地を救ったと伝えられる太鼓である。「酒井之警鼓由来」を資料として掲げる(※1)。酒井忠次が太鼓を打った話は文献には見えず、明治初年に歌舞伎の演目として創作されたものだと考えられてきた。しかし、近年の調査で嘉永2年(1849)の時点でこの言い伝えが広く知られていたことが判明した(※2)。

※1 「酒井之警鼓由来」は「見付高等裁縫女学校」の印があり、同校が存在していた大正13年(1924)から昭和10年(1935)までの間に初代校長であった大杉初太郎氏によって書写されたものだが、『磐田郡誌』もこれと同一の内容である。同書中にある「見付学校太鼓記」は赤松範一氏の『見付に関する見聞雑記』にも転載さ

れているもので、文中に明治30年(1897)に見付学校の訓導補であった松尾鍾の署名がある。松尾鍾は中泉西新町出身の教員・書家の松尾鍾三郎のことという(桜井淳一2001「伝承『酒井の太鼓』の変遷」磐田歴史の会編『磐田人物往来』)。

なお4人の共同購入者のうち磯部友蔵(文政28—明治15)は侠客「大和田の友蔵」として知られ、馬



伝酒井之太鼓

場町で旅籠兼遊女屋「大和屋」を経営していたとされる。他の3人も馬場町の旅籠屋仲間だという（寺田一郎1989「郷土の侠客 大和田の友蔵」『磐南文化』15）。

※2 嘉永2年（1849）に庄内藩士鳥海良興が記した道中記「御上京御往来御供道中日記」に「御城（浜松城）右之方、当城大神君（家康）御在城之砌、一智公（酒井忠次）御太鼓御打被遊し事杯思ひ出られ候、天龍川之石つぶて打、元龜之昔勇士之腹如見也、今も右之御太鼓有之由也、」とある。



伝酒井之太鼓を打つ生徒

太鼓は見付学校最上階に置かれ、児童の登校の合図や正午の時報として、また児童の士気を高めるための太鼓として毎日打ち鳴らされ、見付の人たちの「生活の音」として親しまれていた。卒業生の鈴木九平氏は「五階の一室に由緒ある酒井の太鼓が安置されていて朝の登校時及び正午に学校の小使さんがその太鼓を打鳴らして町の人々にも時刻を知らせていました。」と回想している（明治30年代前半ごろの記憶か）。

（『沿革誌』より） 全（大正九）年六月十日（木）

時ノ記念日

記念式を挙ク 太鼓ヲ以テ報時ス

本日ヨリ永ク太鼓ヲ以テ正午ヲ報ズルコトス

また、伝酒井之太鼓は歌舞伎界とのつながりも特筆できる。地区のつながりとして最も古くは7代目市川団十郎が見付で20日間の興行を行ったことがあり、その際に見聞した見付天神裸祭について、天保3年（1832）に『遠く見ます』と題した冊子を出版していることから、特に成田屋との親近感強い。

伝酒井之太鼓との関連については、明治6年（1873）に狂言作家の河竹黙阿弥が酒井の太鼓を題材とした脚本「太鼓音智勇三略」を作った。この中の「浜松城太鼓櫓の場」は新歌舞伎十八番（※1）に加えられ、9代目市川団十郎の当たり芸となった。そのため、明治34年（1901）5月16日に9代目市川団十郎によって東京歌舞伎座で太鼓が使われたという。また、昭和7年（1932）には団菊祭が行われ、日本橋三越での劇聖市川団十郎30年忌展に出展された。昭和40年（1965）3月に東京歌舞伎座の7代目松本幸四郎追善公演において「世響太鼓功（よにひびくたいこのいさおし）」の演目名で上演されたのにあわせ、1月20日に11代目市川団十郎（※2）が来磐し、矢奈比売神社にてバチさばきを披露し、公演中には歌舞伎座の廊下に展示された（※3）。昭和54年（1979）8月31日に同年4月に落成したばかりの市民文化会館で松竹大歌舞伎公演が行われた際には8代目松本幸四郎が来磐し、あざやかなバチさばきを見せた。平成8年には市民文化会館で行われた「歌舞伎鑑賞教室 国立劇場磐田公演」で「傾城反魂香」が上演され、12代目市川団十郎（昭和21－平成25）が来磐し、7月27日に矢奈比売神社において2代目中村松江（現・中村魁春）、7代目市川新之助（現・13代目市川団十郎）とともに太鼓を打った。

※1 新歌舞伎十八番…9代目市川団十郎
[天保9ー明治36]の父7代目市川団十郎に
よって作られた歌舞伎十八番の新たな演目
群として、明治20年ごろ9代目が32また
は40の演目にまとめたもの

※2 11代目市川団十郎…明治42ー昭和
40 9代市川海老蔵時代に「花の海老さま」
で知られ、昭和37年(1962)、59年ぶりに
団十郎を襲名。なお、団十郎の襲名は9代
目死去以来のことで、10代目は没後の追贈。

※3 いくつかの文献には昭和39年(1964)

4月に上演されたとしている

が、それは誤りである。石
川博敏1995『随想 遊と行』
第四集、に詳しい経緯や当
時の新聞記事などが掲載さ
れている。なお(公社)日
本俳優協会・(一社)伝統歌
舞伎保存会が協力運営して

いる「歌舞伎 on the web」

にも同様に演目や上演日が

掲載されている。なお展示場所もロビーとなっている文献があるが、こ
こでは石川氏の記載に準じて廊下とした。



11代目市川団十郎(右から2番目)昭和40年



(仮) 来磐記念写真



国立劇場公演チラシ

歌舞伎界以外では皇室や酒井家の関連がある。大正11年(1922)3月には静岡市に宿泊
した皇后陛下(貞明皇后)に台覧に供し、昭和5年(1930)5月の昭和天皇ご視察時に天
覧と記録されている。昭和33年(1958)の浜松城再建の城開きに展示、昭和34年(1959)
に秋田県致道博物館の酒井記念展示会に展示、昭和38年(1963)に東京・名古屋での徳川
家康展に展示された。昭和56年(1981)には忠次17世の孫忠明氏も来磐し、太鼓をたた
いている。

太鼓は明治43年(1910)半ばまで最上階に置かれ、朝登校時(始業1時間前)と正午に
打たれていたが、破損のため中止したと『磐田郡誌』にある。大正14年(1925)に見付小
学校が男女統合され、昭和7年(1932)9月に第二館を改築して木造2階建てに約3坪の
塔屋を付設した建物が落成すると、ここに太鼓を移して「鼓楼」と名付けて打ち鳴らすこ
ととなった。

卒業生の米沢弥充氏は『開校百年』に「在校中の思い出」と題して次のように回想して
いる。

「どーんどーん」私達少年団の叩く太鼓の音が夏は5時、冬は6時に朝のしじまを破って聞えてくる。昭和7年、木造2階建の校舎が完成して、それに、付属して3坪ばかりの3階が建てられ「酒井の太鼓」が置かれたので「鼓楼」と称した。当時5年生の私は当番の日には高等科の生徒に引率され、清掃の前に5、6人でその「鼓楼」に上って行く。



伝酒井之太鼓があった旧二館（鼓楼）

昼間とは異り、広い学校はしーんと静まり細く暗く急傾斜な階段を登って行くのが非常にこわく「おばけが出た！」と上級生におどかされたものだ。

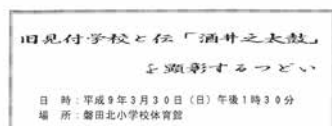
『沿革誌』によると昭和5年（1930）6月10日に「本校男児童ヲ以テ組織ノ少年團が大正十五年ヨリ酒井ノ陣太鼓ヲ毎朝五時撃ツテ時ヲ知ラセタルコト、其ノ筋ノ調査スル所トナリ生活改善同盟会ヨリ表彰サル 十二日朝披露式ヲナス」とある。また、節分に「太鼓祭」というイベントが行われたという。「太鼓のひびき」という名の学校だより昭和10年（1935）の開催記録があり、『沿革誌』では昭和12～19年のうち16年以外は毎年行われた記録が残る。



「太鼓の由来記」チラシ

その後、昭和20年（1945）5月の米軍の爆撃により破損したが、昭和29年（1954）に修理され、また昭和40年の歌舞伎座公演にあたって石川博敏氏の寄付によって掛川市大池の業者によって太鼓の皮が張り替えられた。この上演後に矢奈比売神社に移され（昭和15年[1940]の磐田町成立ごろに移されたとする文献もある）、結婚式などで打ち鳴らされる開運太鼓とされていた。平成9年2月3日に再び旧見付学校に戻され、同年3月には「見付学校と伝「酒井之太鼓」を顕彰するつどい」が磐田北小学校を会場として行われ、卒業生の思い出や在校生の太鼓クラブによる演奏などが行われた。現在は旧見付学校の1階に展示しており、毎朝9時の開館時間に合わせて職員が打ち鳴らしている。また、以前は磐田市立磐田北小学校の卒業式にも卒業生を送る開運の太鼓として使用された。現在は北小学校の太鼓を使用している。

なお、昭和 42 年（1967）11 月に旧磐田市の有形文化財に指定され、平成 17 年 11 月に新磐田市の有形文化財に指定された。



- 式次第
1. 開会
 2. 主催者あいさつ
磐田市教育委員会教育長 磯部保文
 3. 来賓あいさつ
磐田市長 山下 重
磐田市議会議長 石野良隆
見付三社氏子崇敬会会長 折井孝一郎
 4. 旧見付学校と伝「酒井之太鼓」の思い出
見付学校卒業生 寺田一郎
見付学校卒業生 石川博敏
 5. 太鼓打ち披露
(1) 酒井之太鼓打ち披露
(2) 磐田北小学校太鼓クラブ児童
 6. 閉会のことば
磐田市旧見付学校協議会会長 市川 恒



「顕彰するつどい」のようす

「顕彰するつどい」プログラム

（４）見付学校扁額

見付学校新築を祝って、初代浜松県令林厚德から贈られたものである。林厚德（文政 11—明治 23 徳島藩士 東京市京橋区長・深川区長、勲五等瑞宝章）は、当時山梨県令藤村紫朗、愛知県令安場保和とともに「海内の三県令」といわれた人であった。

この扁額は、見付学校正面玄関入口の上部に取り付けられ、扁額には「木受縄則直、金就礪則利」（木縄を受くれば則ち直く、金礪に就けば則ち利し 曲がった木も墨縄を当てて切れば真っ直ぐ切れるし、金物も砥石で研げば鋭利になる）と右から左、上から下に読むように刻む。「荀子」勸学篇の中から引用したものである。



扁額

（５）学校関連資料

表札

「見付学校」

木製で縦 120 cm、横 45 cm。現在、門に掲示してあるものは復元品である。

「見付尋常高等小学校」

木製。



表札

奉安殿

教育勅語及び御真影が安置されていたもの。3階に設置されていたと伝えられる。木製。



奉安殿

オルガン（風琴）

明治 20 年（1887）にはじめてオルガンを購入した。

第 4 号型ヤマハオルガン 日本楽器製造株式会社製（製造番号 99904）。蓋の表に「寿贈 開校記念 大正二年九月 磐田郡正教員養成所 第三回生徒一同」と彫ってある。見付女子尋常小学校に贈られたものである。

第 5 号型ヤマハオルガン 1.5 列笛
昭和 11 年 日本楽器製造株式会社製（製造番号 263, 601）

2 台ともに平成 4 年 10 ～ 11 月修理
（浜松市・中村直行氏）



第 4 号型ヤマハオルガン

掛時計

3点ある。1点は明治20年ごろと言われる外国製のもの。もう1点は昭和28年(1953)に学校に寄贈されたものである。大型品で、ガラス面に「磐田市立北小学校」の文字がある。講堂にかかっていたものであることが古写真で判別できる。3点目は昭和42年(1967)製。

教科書

教育関係古文書

沿革誌

報告表

新築学校法方

世話係任命書・幹事任命書・幹事職務差免状

学資金五ヶ年納利盛帳

小学校教員免許状

卒業生徒名簿



見付高等小学校報告表



新築学校法方



世話係任命書

生徒所有品

徽章

修了(修業)証書・卒業証書

卒業試験及第報告書 試験成績通知書 通信簿 学校家庭通告表

級長・副級長任命書、通学区取締任命書

優良証書・精勤賞状・褒賞状及び副賞(蒔絵硯箱、文箱等) 善行証書 授業料領収証

卒業生心得書 児童心得

作文簿 作文帳 綴方練習帳 休業日誌 夏休みの友 冬休みの友 日記簿

休暇課題（図画作品）

学用品

就学札 石盤・石筆 筆立て 裁縫箱 一尺物指 三角定規 弁当箱

建築部品

分銅 平樋持 竪樋持 釘等



教科書



教科書



小学読本



小学読本
見付・古澤書店翻刻



地理初步



小学読本



小学修身書



習字臨本



卒業（修業）証書



卒業証書



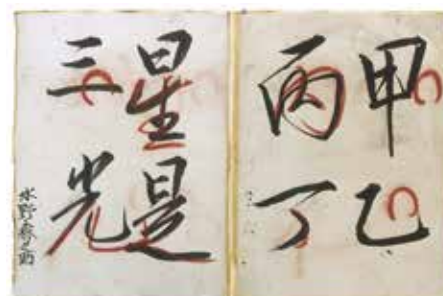
試験成績通知書



修業証書



日記簿・休業日誌



習字作品



級長任命書



通学区取締任命書



褒状



表彰副賞



精勤賞状



優良証書



卒業生心得書



就学札



石盤・石筆



建築部品



見付尋常高等小学校卒業記念帖
大正5年3月



見付尋常高等小学校卒業記念帖
大正7年3月



見付高等裁縫女学校卒業記念写真帖
昭和6年3月



准教員養成所卒業記念写真帖
昭和17年3月



卒業記念女児写真 明治30年3月



男児集合写真 明治32年6月



卒業記念写真 明治39年3月



卒業記念写真 明治45年4月



卒業記念写真 明治44年 4月



卒業記念写真 大正2～9年



卒業記念写真 大正2年度



卒業記念写真 大正10年 3月



見付高等裁縫女学校卒業記念写真
昭和初期



准教員養成所卒業写真 戦前



秋季運動会 明治43年10月



障害物競争 明治43年10月



第1回磐田郡運動会 大正6年10月



戦没者合同慰霊祭 昭和17～18年



見付高等裁縫女学校
第一回バザー実況絵葉書
大正末期



見付高等裁縫女学校授業風景
昭和2年3月卒業アルバム

卒業生心得書

見付尋常小学校

尋常小学校卒業生

岡田長吉

一 明治廿三年十月三十日降し給ヘル教育ニ関スル 勅語ハ帝国臣民万世ノ宝典ニシテ子カ終生遵守スヘキノ大道ナリ謹テ日夕拝誦シ 聖旨ノアル呼ヲ服膺シ躬行実践ヲ怠ルベカラス

一 尋常小学校ハ国民一般ニ修ムベキ義務教育ニシテ普通学科ノ大要ヲ学ビタルに過キス故ニ他日ノ大成ヲ期スルモノハ決シテ之ニ安ンズ可キニ非ス宜シク父兄ノ許諾ヲ得テ益々志氣ヲ奮勵シ進テ高等ノ学校ニ入り黽勉刻苦以テ其知徳ヲ研磨スベシ

一 家情ノ為メ実業ニツクモノハ其業務ニ拮据スベキハ勿論タリト雖モ亦学科ノ自修ヲ怠ルベカラス将来帝国ノ臣民タルモノハ日新ノ智識ヲ要スル切実タルヲ覚悟シ務メテ修学ノ道ヲ求メ分秒モ光陰ヲ徒過スベカラス

一 本校ノ声価ハ子カ今後ノ動作如何ニヨリテ現ハル、モノナレハ常ニ一言一行ヲ謹ミテ学校ノ体面ヲ重シ世ノ批難ヲ受ケザルコトニ留意スベシ

一 師弟ノ情之ヲ疇昔ニ比シテ年ニ壞敗スルヲ視ル此レ実ニ風教ノ為メ浩歎スヘシ子ハ決シテ流俗ニ泥マズ平素己レガ教養ヲ受ケタル学校ト教官ノ恩トヲ忘ルベカラス若シ夫レ薫陶ノ恩ヲ忘却スルカ如キアラバ他ノ行為觀ルニ足ラザルナリ

右ノ条項子ノ最モ留意スベキモノ今本校ヲ卒業スルニ際シ一本ヲ授与ス宜シク熟読玩味シテ忽諸ニ付スベカラス

明治廿八年三月廿六日

静岡県見付町立見付尋常小学校校長杉浦芳三郎 印

卒業生心得書

寺田きぬ

子は幸に万世一系の 皇室を戴ける大日本帝国に生れ
父母と学校との思慮によりて高等小学校を卒業したり
よく平常の教訓を守り謹みて明治二十三年十月三十日
下したまひし

勅語の御趣意を奉体し以て善良の女子とならんことを
つとむべし

日頃学ひたるところを実践せば速にここに到らんされ
ども言ふことは易く行ふことは実に難ししなやかにし
てけなげに始終かはりなく飽くまで誠の道をつらぬく
べし

本校の教科を卒業すといへども僅に普通学科の概要を
学びたるに過ぎずされば余暇を以て学術の自修をつと
め婦徳を修むべし

更に他の学校に入らば殊に従順を旨とし質素を守り学
業にはげみ品行を慎むべし

他日妻とならばよく舅姑につかへ夫をたすけて家政の
整理をはかるべし

末たのもしき子が本校を去るに方りて特にこれを授く
常々服膺して身を全うせよ

明治四十三年三月廿五日

静岡県磐田郡見付女子尋常高等小学校校長宮本安吉 印



表面



裏面

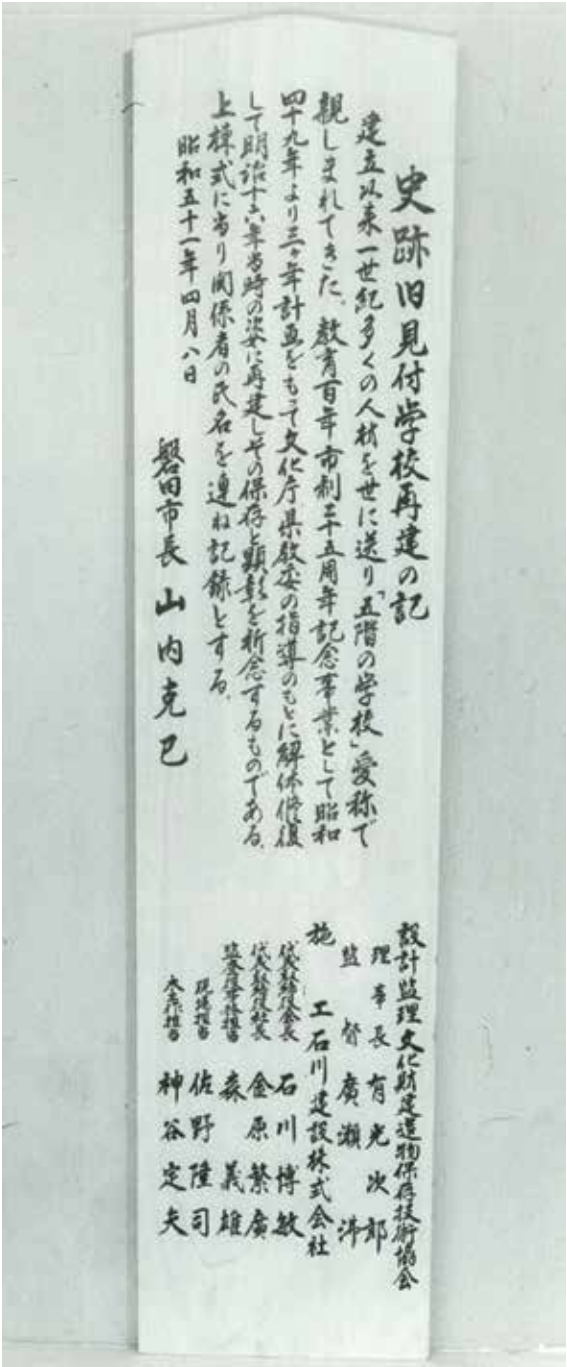
見付学校棟札（明治8年）

裏面					表面				
森儀左エ門	土谷菊次	野田仙次郎	鈴木長七	土方	愛知県管下名古屋衛門	早瀬長兵衛	三輪榊蔵	横山助次郎	渡辺彌七
関谷伊三郎	中村源七	山田仲次郎	松井源吉	永田岩五郎	大匠伊藤平右衛門	鬼頭英助	伊藤忠平	大曾根金七	河井濱吉
齊藤清次郎	同所彦三郎	山田忠次郎	鈴木忠太郎	伊藤竹四郎	高田政吉	河井善吉	齋藤豊三郎	石工惣代	寺田市五郎
田島彦三郎	山田忠次郎	鈴木忠太郎	伊藤竹四郎		村松傳吉	石橋孫三郎	齋藤豊三郎	石工惣代	寺田市五郎
河井善吉	齋藤豊三郎	石工惣代	寺田市五郎		木師伊八	河井忠吉	寺田市五郎		
石川伊八					古澤脩	世話取扱	古澤七郎	同北村勘次郎	
柴田喜平	山内清吉	鈴木孫平			前島嶼一		古澤七郎		
水野八郎	中山善一				柴田喜平		古澤七郎		
加藤喜作	村松惣吉				福田甚八		古澤七郎		
伊藤仲次郎	山本幸七				大久保忠利		古澤七郎		
					祠官		古澤七郎		

見付学校棟札（明治8年）銘文



表面



裏面

見付学校棟札（昭和 51 年）

裏面

史跡旧見付学校再建の記

建立以来一世紀多くの人材を世に送り「五階の学校」愛称で親しまれてきた、教育百年市制三十五周年記念事業として昭和四十九年より三ヶ年計画をもって文化庁、県教委の指導のもとに解体修復して明治十六年当時の姿に再建しその保存と顕彰を祈念するものである。上棟式に当り関係者の氏名を連ね記録とする。

昭和五十一年四月八日

磐田市長 山内克巳

設計監理 文化財建造物保存技術協会

理事長 有光次郎

監督 廣瀬 沸

施工 石川建設株式会社

代表取締役会長 石川博敏

代表取締役社長 金原繁廣

監查役事務担当 森 義雄

現場担当 佐野隆司

木工作担当 神谷定夫

表面

磐田市長 山内克巳

磐田市助役 神谷 明

磐田市収入役 寺田糸平

議長

副議長

磐田市文化財専門審議会

磐田市教育委員会

文教厚生

委員長

磐田市郷土館協議会

史跡 旧見付学校

委員 神谷芳男

文化庁長官

安嶋 彌

三社崇敬会

昭和五十一年四月八日

委員 山田恭平

静岡県知事

山本敬三郎

会長 鈴木長四郎

委員 村松慶一

静岡県教育委員会

馬場町町内会

会長 土井雄一

委員 川野美智子

静岡県教育委員会

宗 知信

郷土館長宮内良太郎

教育長 鈴木真三

教育長

宗 知信

郷土館長宮内良太郎

見付学校棟札（昭和51年）銘文



『太鼓のひびき』
昭和 10 年 3 月



『太鼓のひびき』
昭和 10 年ごろ

『太鼓のひびき』第五号（昭和十年三月）より

サカイノタイコ 尋一ノ三 荒木貞好

ボクハアサクライウチニイサンニオコイテモラヒマシタ。

ニイサンハタイコバンダカラ、学校ヘイクノダトイツテミンナヲオコイテイキマシタ。

ボクハ学校ニ来テカラサカキノタイコヲタクノデウレシクナリマシタ。（中略）

ボクノバンノ時ニイサンガリョウ手デヨコッパラヲモツテクレタノデ、「ドン」「ドン」「ドン」トイクツモチカラ IPPAI、イセイヨクタタキマシタ。

ソシテミンナトゲンキヨクカヘツテ来マシタ。モウヨガアケテオヒサマガ出テキマシタ。

ボクハオウチニカヘツテカラ、ニイサントオカマノ所デ「アアオモシロカッタ」トイヒマシタ。（後略）

太鼓とうんどう 尋二ノ二 荒川舜次

三がいにある太こは酒井の太こです。この太こは少年だんが毎朝たたきます。又おべんたうがすんでからは太このあひずで、運動をやったり、かけあしをやったりします。（後略）

太鼓さい 尋二ノ二 木村忠雄

節分の日の三時間めにかうどうへ入って太鼓さいをやると先生がいったので、ぼくはうれしくてたまりませんでした。

太鼓さいの日には、二時間目のをはりのれいになるとぼくはすぐにプールの西がはに行つてかうどうへ入るのをまつてゐました。

かうどうへ入るとちきに校長先生がはいっていらっしやいました。吉之助先生がおはなしをはじめました。（後略）

●酒井の太鼓調査資料（令和5年1月19日）

1 大きさ

胴回り（265 cm）、胴長（79 cm）、外直径（73 cm）、内寸・端（68 cm）

2 張替記録確認 ※（郡）磐田郡誌 大正11年発刊（調）1月17日事前調査

□は記載なし（消失）または不明字

張替年代	張替記録・経過	備考
宝暦8年（1758）	（郡）宝暦八寅歳三月一日 京三条天郡村太鼓屋 橋村利衛門 張替 浜松城内警鼓 （調）□□□□□□□□ 京三條天部村たいこ や 橋村利右衛門 ××（別記載）濱 奈城内警鼓	
寛政4年（1792）	（郡）寛政四壬辰歳七月日張替 （調）寛政四壬子歳七月日御鞆張替	
明治2年（1869）	（郡）明治二未歳 遠州敷知郡須之木澤村北村八 右エ門 之を張替ふ （調）明治二己歳八月吉日 遠州敷知郡須之木澤 村北村八右エ門 張り代え	
明治20年（1887）	（郡）明治何年頃にか見付にて修繕したる形跡あ り （調）明治廿年九月八日豊田郡上野己新田村 張 替人 山本松蔵 山本喜十 山田庄吉	
大正4年（1915）	（郡）大正四年十一月 梅原村山田庄吉之を張替 へたり （調）大正四年四月十一日 山田庄吉	
大正15年（1926）	（調）大正十五年九月張替寄付ス 朱宮本店張替 人三羽岡寄市三浦弥市	
昭和29年（1954）	・昭和29年3月31日付出、酒井の太鼓皮張替、 一番町負担金六百三十円、見付合計一万五千 円 （調）胴裏書き記載なし	一番町議事録より
昭和32・33年頃？	・児童のナイフにより傷つけられ、PTA会長 石川博敏氏により修復 （調）胴裏書き記載なし	桜井淳一著、伝承「酒 井の太鼓」の変遷よ り
昭和39年（1964）	・太鼓の皮が破れていたため石川博敏氏により 張替。掛川市大池の業者張替 （調）昭和三十九年十二月二十八日 掛川市長谷 三百十六番 柳沢牧太郎両面張替	

3 年代測定

パレオ・ラボによる部材採取



「浜松城内警鼓」墨書



「寛政四壬子歳（1792）」張り替え墨書

酒井之警鼓由来

静岡県磐田郡 見付高等裁縫女学校（大杉初太郎氏書写）

太鼓之由来（径二尺三寸 長二尺六寸五分）

第一章 浜松城警鼓ノ伝来

明治初年浜松藩所謂御国換ノ際同城警鼓民間ニ渡リテ浜松町字板屋町々有ニ帰シ當時同字内ノ有力者酒屋吉兵衛ノ保管スル所トナリタルモノノ如シ 明治七年ノ頃同町氏神祭典ノ際見付町花屋（姓藤井）吉三郎今尾忠藏磯部友藏丹後屋（姓中野）忠七等共ニ祭典見物力或ハ嘶シ方ニ頼マレタルカニテ浜松町ニ赴キタリ

偶々板屋町ヨリ出セル曳家台ニ使用セル大太鼓ノ浜松城警鼓ナルコトヲ知リ珍器ニ対シ垂涎禁ジ難ク祭典後四人協同シテ之レカ売却ヲ懇望シ遂ニ吉兵衛ヨリ買イ受クルコトヲ得テ見付町ニ持ち来ル

其買代金ハ明確ナル記憶ナキモ恐ラク今ノ拾四五円カト覚エ而シテ寧口之力運搬費并祝宴費等ノ雜費コソ遙ニ代償以上ノ散財ナリキ

然カモ太鼓ノ大ナルタメ其後如何ニ保存スベキカノ方法ヲ講スルニ当リ時恰モ本町小学校（五階校舎）建築中ニシテ翌八年夏校舎竣工ヲ告ゲ町民ノ喜悦甚大ニシテ盛ナル開校式ヲ挙グルヤ之ニ先チ吉三郎等相謀リ時ノ見付町有力者古澤修ニ交渉シテ警鼓ヲ見付町ニ寄附スルコトトナリ爾来校舎五階上ニ据フルコトトナレリ

（右ハ協同買受人ノ一人タル花屋吉三郎老人ノ直談ナリ）

第二章 酒井ノ太鼓筋書

浜松城警鼓ハ古昔酒井忠勝（一説忠継）ガ戦時ニ打チ鳴ラシテ臨機ノ奇計ニ備エタルコトアリトテ後世酒井ト警鼓トハ一種ノ因縁ヲ以テ伝エラレ所謂酒井ノ太鼓ト称セラルルニ至レリ

元龜三年冬十二月（紀元二千二百三十二年）信玄大挙三河ニ入ラントシテ先ツ家康ヲ浜松城ニ攻ム家康織田氏ノ将佐久間某等ト出テ三方原ニ禦ギ歩騎八千ヲ九隊トシ信玄ト戦ツテ大ニ敗績シ犀ガ渚ニ陥リ死スルモノ算ナシ家康身ヲ以テ免レ浜松城ニ屯ス（以上歴史宝鑑）時恰モ節分ノ豆撒ニ際シ三万餘ノ甲州勢同城ヲ包围シ二十餘日ノ奮戦ニ勢窮シ流石ノ名城モ陥落セントシ家康以下各城門ノ橋ヲ切落シ潔ク恰幅セント決心シ殊ニ兵糧尽キ今夕限リト迫ル時酒井左右衛門尉忠継平然自若大ニ酒ヲ吞ミ打チ笑イテ撥ヲ取ルヨリ早く一步ハ高ク一步ハ低ク瓢々然ト櫓ニ上リ数年住馴レシ当城ヲ今宵限リ名残惜シヤト腹ニ泣キ酒ニ乱レシ裨姿ニテ胸ニ答ウル七ツノ太鼓天ニ響ケト打込タルニ今日ノ戦イニ手ヲ負イ血汐溢ルル鳥井彦右衛門元忠ハ「福ハ内鬼ハ外」ト大声ニ平氣ノ豆撒ヲナシ其声内外ニ徹シタレハ敵將馬場美濃守ハ僅々小身ナル太鼓方ノ打撥ト云イ豆撒男ノ度胸アル大声ニ感じ如何ナル計略アルモ図ラレズト困ヲ解キテ甲州へ引上ケタリトイウ（以上大正二年十月二十九日報知新聞所載浜松市某家記録抜抄）

第三章 太鼓ノ修繕

一 宝暦ハ寅年三月一日京三条天郡村太鼓屋橋村利右エ門張替浜松城内警鼓（胴裏ノ記事）

一 寛政四壬辰歳七月日御鼓張替（全 上）

一 明治二未歳八月遠州須之木沢村北村八右エ門之ヲ張り代ウ

一 明治何年頃カ本町ヘ伝来後一回修繕ノ形跡アリ

一 大正四年四月十一日梅原村山田庄吉張替ウ料金二十八円外運搬其他諸費三円五拾銭合計金三十一円五十銭ナリ

第四章 雜件

一 故森春濤翁曾テ本町旅館石橋ニ泊シタル時太鼓ニ関スル詩作ヲ試ミラレ其自筆ヲモ今尚保存セラル

見付客舎曉起聞鼓

森 春濤

樵楼月落鼓声高 和夢似聞鯨海濤

云是浜松城上物 今高一響有餘豪

黄石小仙

楼頭高響響聲 促進兒童日上鬢

聞說松城寒敵肝 清時誰識帶餘情

見付学校太鼓記

考察駭辣動市街使人肅然起敬者是為遠州見付学校鼓焉此本在浜松

城元龜三年照公敗三方原也退而掘城信玄追躡焉城門洞開矣聞鼓声撼地而起有使寒梟雄之膽者乃恐有伏而去盖援枹擊之者酒井忠次云爾来朝暮不絕其声者三百年于茲矣 王政維新諸侯納土於是乎城池荒廢鼓亦失其所在明治九年見付学校新成一鼓於浜松置之五層楼而無弁其由来者俳優市川团十当今丑淨巨擘尤専心於其技嘗演酒井氏擊鼓齣於東京新富部欲獲其真物百万討究遂知无鼓為是乃价人求借焉於是乎人始伝比之周宣石鼓矣然既為摩序鼓匱之用移之梨園無乃不可乎拒而不許爾後二十又余年其警醒衆人猶不異往昔矣夫照公撥乱反正偃武修文以創億兆驩虞之基而鼓亦從而不可朽今猶為鼓吹奎運之具文武雖異得其用則一朝夕登校者觀此鼓思公偉勲与其久為技用己盡力於教育之道則豈兆亦不朽盛事哉余嘗備員此校教職因記以附古人題名之義云

明治三十年歳次丁酉嘉平月前見付学校四級訓導補松尾鍾

第五章 追記

一 大正四年四月十三日静岡市ニ於ケル東照公三百年祭紀念展覽会ニ

出品ス

一 皇后陛下静岡行在所ニ御駐泊ノ節台覽ニ供セリ

旧見付学校修理銘板



昭和十四年九月 尋常小学校准教員養成所
昭和二十年四月 浜松陸軍病院見付分院
昭和二十一年五月 健康保険組合立磐田病院
昭和二十八年九月 磐田市立郷土館
なお、昭和三十年十二月博物館相当施設として指定を受け、三十二年五月静岡県文化財に指定され、続いて四十四年四月隣接の磐田文庫とともに国の史跡に指定され、今回解体修理工事を行なったものである。

（修理の概要）

建物の修理は文化財建造物保存技術協会に設計監理を委託し一旦解体し、組直したが、構造形式の路裏はもちろん、後世改変部については資料に基づき可及的に明治十六年当時の形式に復旧整備した。

一、修理の大要

- （一）建物は一旦解体し明治十六年三階増築当時の状態で修理の上組立てた。
- （二）旧部材は原則として旧位置に戻した。
- （三）基礎は不動沈下のため布石積替えと礎石下にコンクリート補強をした。
- 二、現状変更要旨

（一）一階後補の間仕切、柱、内部板壁を撤去し、床張を復して一階内部の間取と階段を次のように旧規に復した。

- （イ）南側前面中央柱の梁行筋を北面中央柱と結び平面を二区分した間仕切とし、この東寄り三間と、西寄り三間の各梁行柱筋に各々間仕切を復して、間口三間、奥行五間の並列した四教室を復した。
- （ロ）建物を平面二区分した間仕切添いの東室廻場付上り階段を直線階段とし、この間仕切西室対照にあたる旧位置に平行階段を復した。

（二）二階後補の間仕切、柱、内部板壁、階段を撤去し階段上り口を床に復して二階内部の間取りと三階への上り階段を次のように旧規に復した。

- （イ）南側前面中央柱の梁行筋を北面中央柱と結んで平面を二区分した間仕切とし、一階同様この東寄り三間と、西寄り三間の各梁行柱筋に各々間仕切を復して、間口三間、奥行五間の並列した四教室を復した。
- （ロ）平面二区分間仕切添い東教室の西面中央柱の北面に接して下部東教室、上部は間仕切添いの西教室にまたがる三階上り階段を復した。

（三）一階、二階後補の半縁天井を撤去し、この上に残る紙張天井を各室に復した。

（四）三階後補の間仕切、柱を撤去、階段上り口を床に復して、中央が塔屋上りの十二煙高床を取入れた大講堂一室に復した。

（五）内外の柱間装置を復旧整備した。

（六）三階外部四角軒に蛇腹を復し屋根を一寸五分勾配に改めた。

（七）外壁四面の本摺大壁と、生子鉄板張壁を、瓦張り下地の太壁に復し、二、三階と塔屋上部の四隅を凝石積塗に改めた。

工事の概要を記し後資とする。

昭和五十二年三月三十一日

磐田市 山内克巳

設計監理監督

財団法人文化財建造物保存技術協会

工事監督

広瀬 湧

工事施工者

石川建設株式会社

国指定史跡 旧見付学校保存修理記

事業概要

解体修理工事

着工 昭和五十二年一月
竣工 昭和五十二年三月

総工費 八千万円

収入内訳

四〇、〇〇〇、〇〇〇円

一三、三三三、〇〇〇円

二六、六六七、〇〇〇円

国庫補助

静岡県補助

磐田市負担

事業者 磐田市

（学校創立沿革）

明治五年八月学制が公布され、それに基づいて見付学校は、翌六年五月から開校準備にとりかかり、同年八月、宣光、省光両寺を仮校舎とし開校された。同校は浜松県第十二番学区内の第一番小学校として新校舎建築の計画が立てられ、区長兼学区取締の古沢精をはじめとする多数の有志により資金等の調達が進められた。

当時近村の坊中学校は既に建築工事が進行中であり、また西之島学校も計画が進められていたため、期せずして洋風校舎の新築競争が始まった。見付学校では、他校を凌駕するようなものを建てるべく、洋風校舎建築にふさわしい棟梁として、名古屋の堂宮棟梁伊藤平右衛門が推挙され、同人に設計及び施工が依頼された。平右衛門は、尾張徳川家の御被官大工の家柄で、格もさることながら技術の面で優れた工匠で、また人一倍仕事に凝る性質であり見付学校建築に当たっては東京、横浜等の洋風建築をつぶさに調査した独自の研究を積み、敷地の選定については、校舎が町の象徴として仰ぎ見られるようにと、町の中心街でしかも高い現在地を選定し、町並みに向かって出張り基礎積を行なうなど工夫がこらされた。なお、この敷地は、総社の祠官大久保忠利の寄付によるものである。

校舎新築の計画は順調に進み、明治七年十月着工、翌八年一月十一日上棟式、同年八月七日待望の落成をみ、林県令臨席のもとに盛大な落成開校式が挙行され、同日宣光、省光寺より移転校舎使用のはこびとなった。見付学校の規模と変遷をたどってみると、第一期工事では桁行十二間、梁間五間の二階建上、二層の塔屋付とし玄關を付して建設された。

第二期工事として、生徒の増加にともない明治九年九月、本校舎東側に四十坪の教室一棟を増築したが、さらに校舎が狭隘となつたため、第三期工事として、明治十六年三月に本校舎の二階天井裏を改造して三階の増築を行ない、同年八月完工して現状の三階二層の校舎となり、それ以来一般に「見付の五階」と愛称され、大正十一年三月末まで小学校として使用されてきた。その後の沿革は次のとおりである。

大正十一年四月 静岡県立見付中学校
大正十一年八月 大日本見付練武館
大正十四年三月 私立見付高等裁縫女学校

第3節 事業関係資料

(1) 工事関係資料



平成2年度修理工事前（天井）



平成2年度修理工事前（外壁）



平成2年度修理工事前（外壁）



平成2年度修理工事（足場設置）



平成 11 年度修繕工事前（3 階軒先）



平成 22 年度修繕工事前（玄関ポーチ手摺）



平成 18 年度校舎外壁等保存修理工事



平成 18 年度 漆喰補修作業状況



平成 24 年度修理工事（3 階屋根養生）



平成 24 年度修繕工事前（天井雨漏り）

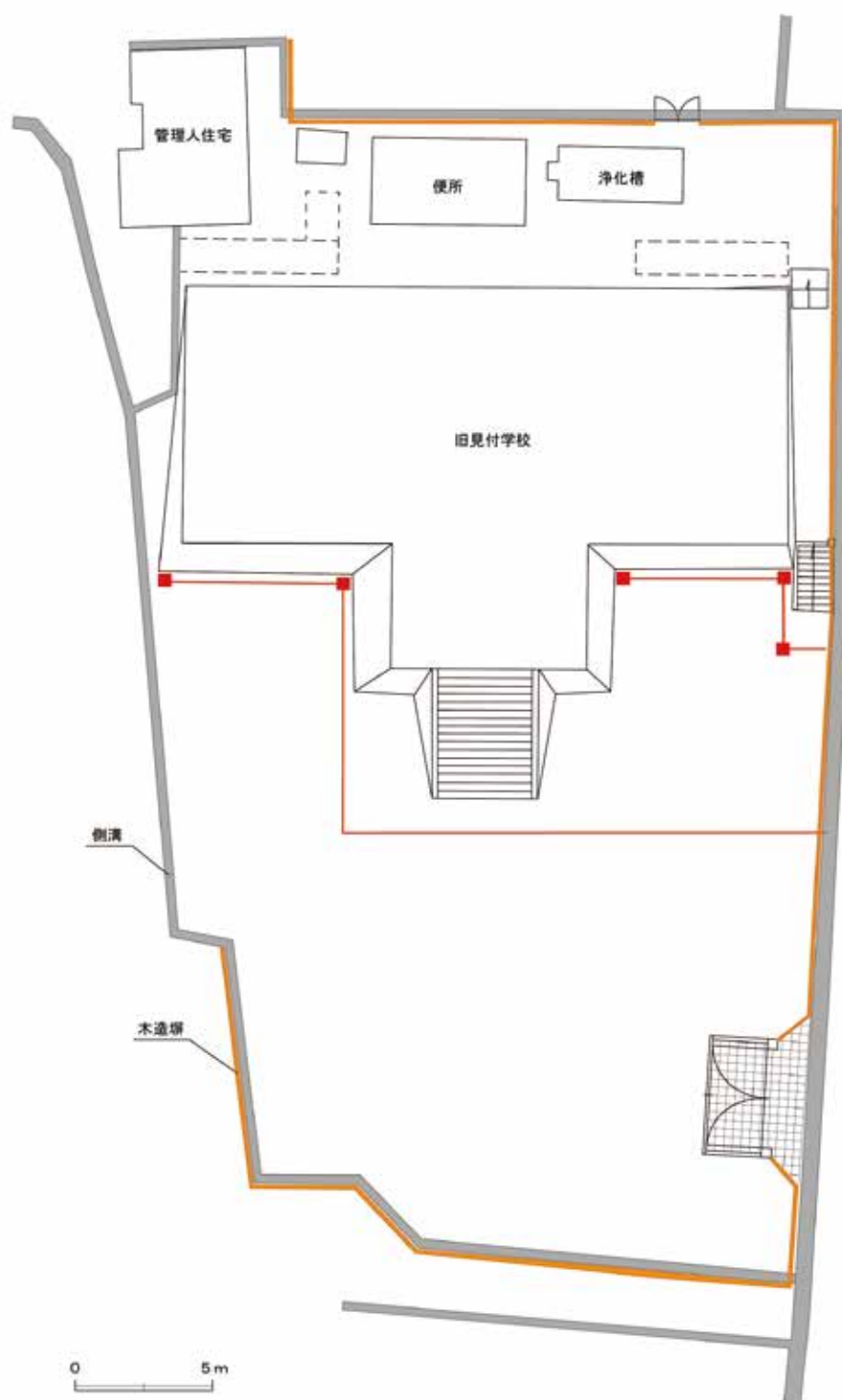


図 昭和 53 年度環境整備工事平面図
門扉・柵の復元、排水対策工事



昭和 53 年度環境整備工事（柵）
竣工



昭和 53 年度環境整備工事（柵）
竣工



昭和 53 年度前庭内下水管敷設工事



昭和 53 年度前庭内下水管敷設工事



昭和 53 年度史跡西側排水溝設置状況



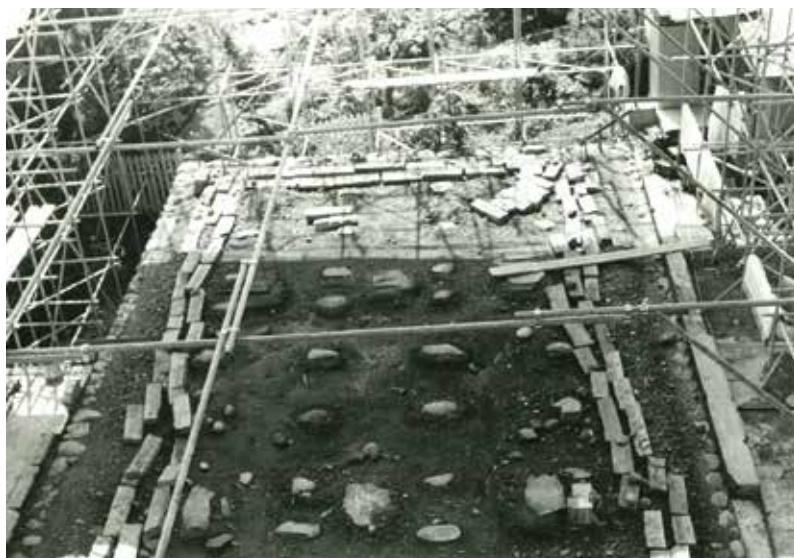
昭和 53 年度
史跡南端外柵・排水溝設置工事状況



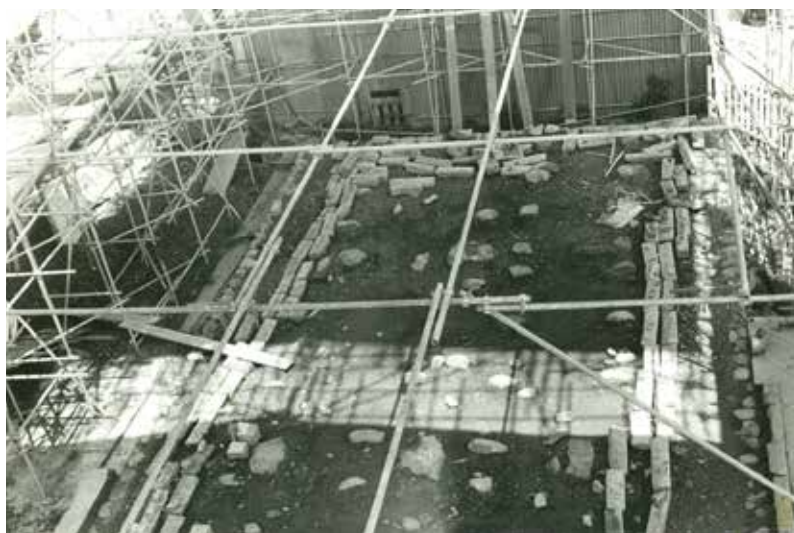
昭和 53 年度南側柵設置工事風景



昭和 53 年度前庭内下水管敷設工事



基礎検出状況 東から



基礎検出状況 西から



再設置時の栗石配置状況



コンクリート基礎設置状況

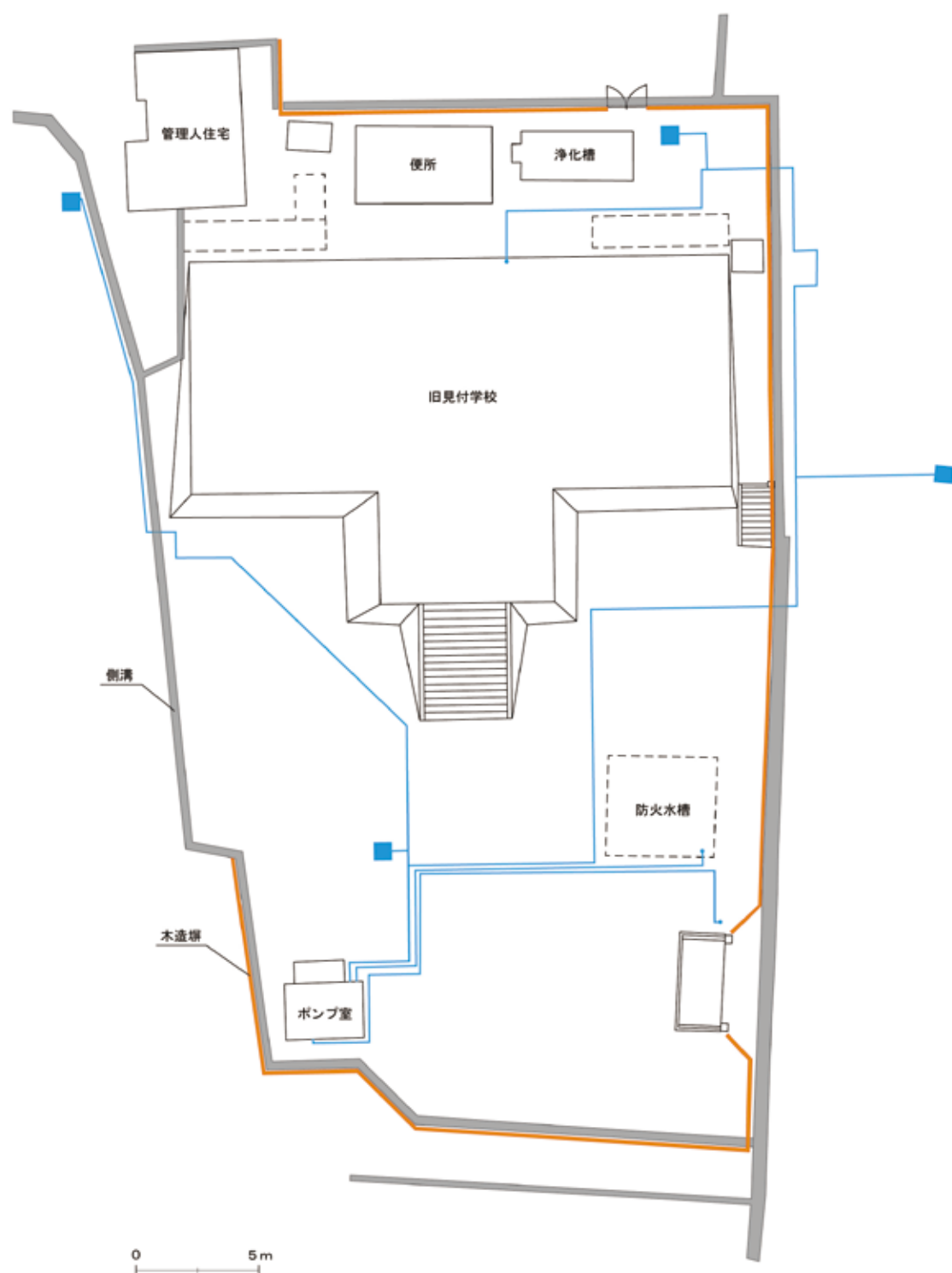


図 昭和 54 年度防災施設工事平面図
ポンプ室・放水銃の設置

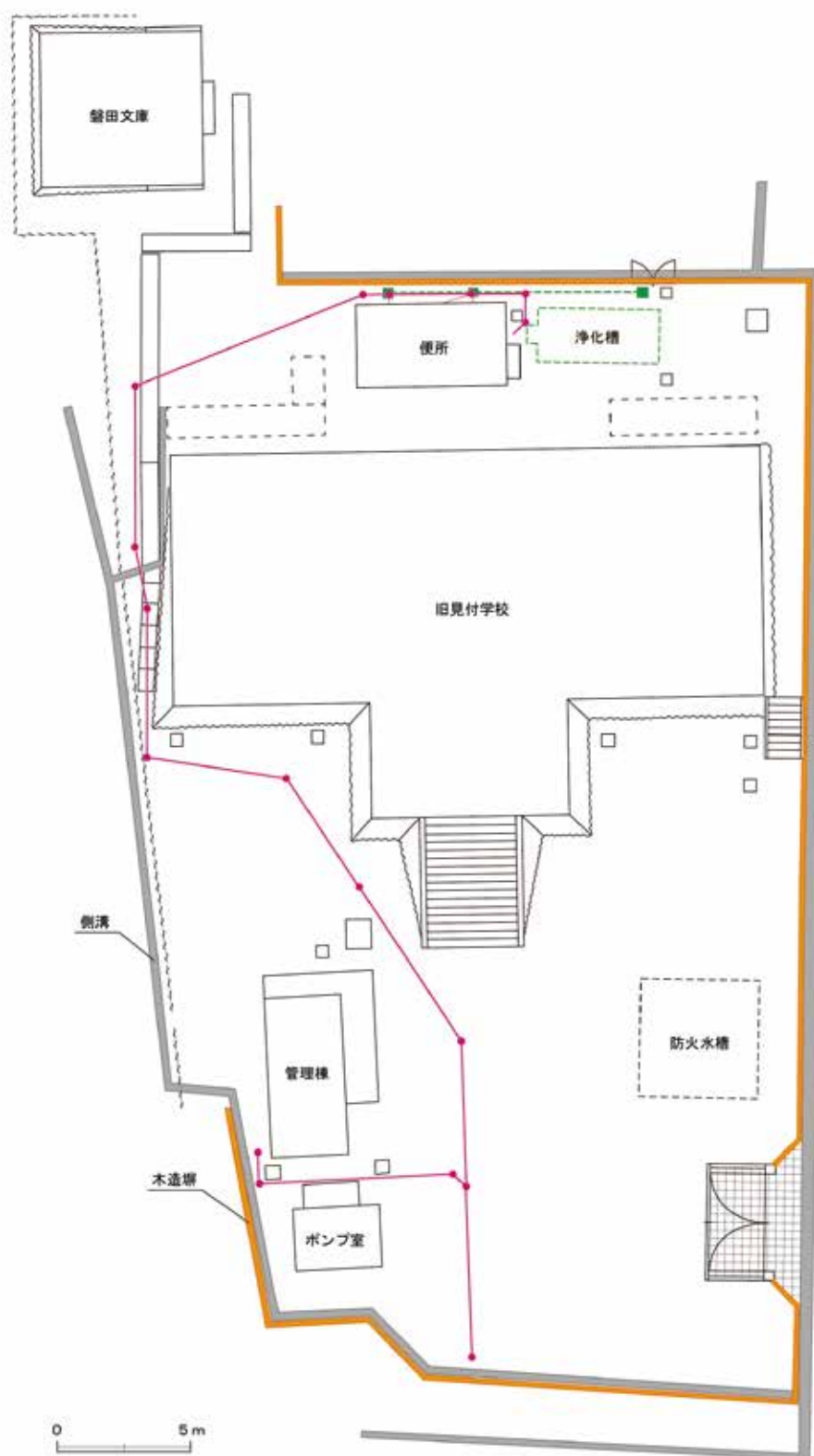


図 平成8年度施設改修・排水設備工事平面図



平成8年度施設改修工事 竣工



同左



同上 施工中



同左



平成8年度排水設備改修工事



同左



平成8年度排水設備改修工事



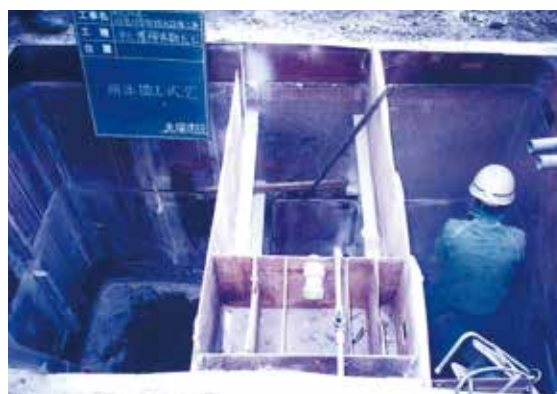
平成8年度排水設備改修工事



平成8年度排水設備改修工事 校舎南側掘削溝断面



平成8年度排水設備改修工事
浄化槽撤去工事前



同左 施工中

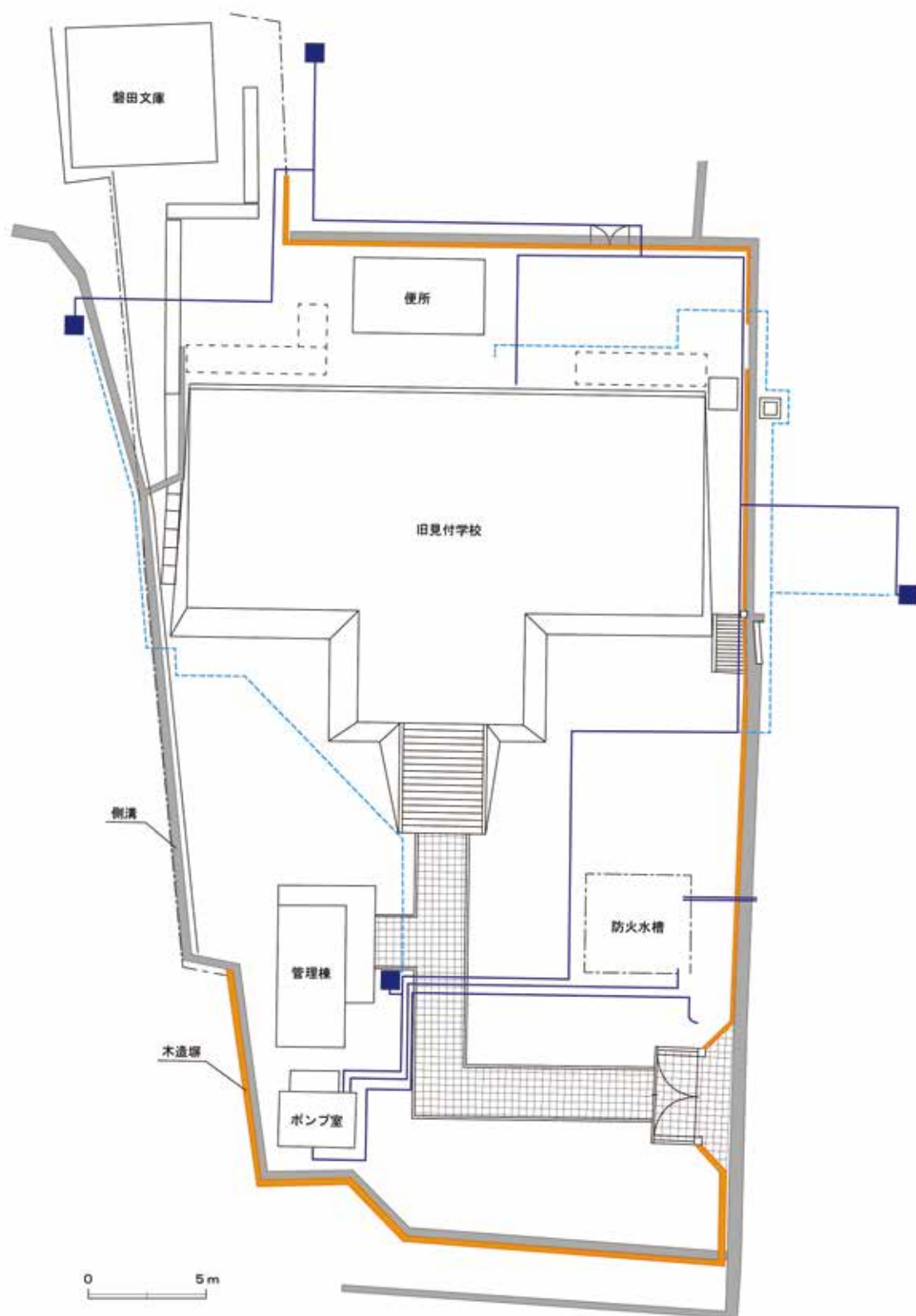


図 平成2年度防災施設改修工事平面図



平成 28 年度消火設備改修工事
既存配管敷設状況



平成 28 年度消火設備改修工事
校舎北西配管敷設状況



平成 28 年度消火設備改修工事
校舎北側配管敷設状況



平成 28 年度消火設備改修工事
校舎南東配管敷設状況



平成 28 年度消火設備改修工事
放水銃撤去状況



同左

(2) 活用事業資料

卒業生の思い出

『広報いわた』第544号より（昭和50年1月1日発行）より

下線部は補記

u003cbru003e

学芸会で戦争講談

（富士見町）水野脩之介（大正5年入学）

見付学校には、当時一年から五年まで五階校舎で学び、六年になると煙草専売局の隣の梅屋にあった男子学校に行きました。一学級二クラスの百人程でした。今でもなつかしい思い出の一つとしては、今の塔之壇テニスコートの所に古びた暗い暗い二クラスの教室があり、そこで一年生のとき勉強しましたが、二年生からは五階の校舎に行けることが、とってもうれしかったことです。

また、当時学芸会的なものが、三階の教室で机を片付けて行なわれましたが、学芸会のつど先生から「お前話をしてみろ」といわれよく欧州ヨーロッパの大戦雄姿の話をしたことがあります、いまでもなつかしい思い出の一つです。

中学校のことでしたが、見付学校が途中で練武館として使用されることになりましたが、その練武館で柔道の練習を行ないました。

私が小学校のとき、中泉に映画劇場ができました。日曜日にはよく見に行ったもので、活劇のフィルム収集が流行しました。

斜め走りで床ふき

（馬場町）平田益一

見付学校では二年から五年まで学びました。校舎四階の東側の隅には、人間が入れる程の穴があいておりいたずらをするに「穴に入れるぞ」と驚かされたものです。

見付学校は現在と比較して、外見的には窓が一部変わっているほかは昔日同様で見付のシンボルでした。

また、校舎は地震にも耐えるように床板が斜に張っており、掃除の時には斜に走ってふいたものです。

運動場は、今の学校のように遊具一つなく総社の一角が運動場に当てられましたが、フットボールや棒野球で遊び、また塔之壇では兵隊ごっこ、木昇りなど、子供なりに工夫をこらして遊んだものです。今思えば素朴な遊びでした。

玄関の前では朝礼を行ないましたが、今思うとあの狭い所でよくやったものだと思ひます。

学校の思い出とは別に、年一回程兵隊さんが来ては見付学校を本部にしたて訓練し、各家庭に分宿していたことをほのかに記憶しています。

何分にも腕白小僧

（西坂町）大沢慶三

明治二十九年に入学。当時、校舎の北側には幅一間程の非常階段が三階から一階まで続いており、三カ所に明り取りがあったことを記憶しています。

遊び場所といえば総社の西側の広場で、今のように遊具一つなく、総社の門の角木に飛びのったり、ぶらさがるのが唯一の楽しみでした。

小学校時代は、何分にもいたずらで腕白小僧で通りましたが、ほんとうに懐かしい思い出の一つです。ある時、いたずらをして二人が罰に合うものを、私だけがしかられて、「立っていないさい」と言われ、四階の約十帖程もある太鼓置場に一人で立たされました。

“酒井の太鼓は黙して語らず”ふと四階の窓から東南方向を眺めると、福王寺や今の浦一帯が一望でき、遠くに汽車がいきおいよく煙りをはいて走り抜け、西南には八幡の森が望めるなど、すばらしい風景で、つい見とれているうちに授業が終わってしまいました。当時は、建物も少なく五階校舎からは一望できたものです。

授業は、一年生のときハナ、マリ、コマが最初に教えてもらった文字で、カタカナからひらがなの順でおしえてもらいました。

また、一年生のときは五階校舎に入れなく、校舎とは別棟に副築教室がありました。今の総社社務所の所に木造二階建で、そこでは階段に手摺りがあって、三カ所に親柱がありました。授業の始めや終わりを告げる鈴が親柱に帽子のようにかぶせてあり、階段を背の大きい順に昇っていくと、その鈴が落ちてきて、誰かが頭にけがをしたのをいまでも覚えています。副築教室の下には幼稚園もあったと記憶しています。

表 16 旧見付学校だより一覧（平成 25 年 11 月より 月 1 ～ 2 回発行）

平成 25 年度	31 なぜ 4 月に入学か
1 旧見付学校で明治時代にタイムスリップしてみませんか？	32 旧見付学校を知ろう vol 1
2 企画展「富士山と教科書」 開催中！！	33 見付学校の標札
3 小学生たちの旧見付学校見学“百聞は一見に如かず”	34 落成 140 周年記念特別企画展「磐田の小学校～今むかし」
4 四季の移ろいと旧見付学校	35 毎年恒例！旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集中
5 通信簿と修身	36 ランドセル
6 受験と旧見付学校	37 平成 27 年度「昔の授業体験」
7 “1 月 26 日は文化財防火デー”	38 子どもたちの服装
8 小学校といえば “二宮金次郎像”	39 見付学校は日本一古いのか
9 外国からの見学者	40 筆記用具の歴史
平成 26 年度	41 昔の人はなぜ黒い印鑑を使ったのでしょうか
10 基礎の石垣	42 開校当時の先生は…
号外 解説旧見付学校改訂版販売についてのお知らせ	43 二之宮金次郎像
11 旧見付学校 1 階西側の展示室リニューアル	44 「昔の遊び体験」が開催されました！
12 旧見付学校の玄関ポーチ	45 旧見付学校にあるオルガン
13 見付学校の入口	46 見付学校に使われている石
14 方杖・合わせ方杖	47 明治時代の窓ガラス
15 かすりの着物で見付のまちを探検してみよう！	48 謄写版
16 斜め張りの床	49 教科書の歴史
17 毎年恒例「昔の授業体験」が開催されました！	50 国定教科書の登場
18 「かすりの着物で見付のまちを探検しよう」が開催されました！	51 大善坊校舎
19 見付学校の窓の変化	52 梅屋の学校（鐘鋳塚校舎）
20 磐田の宝「旧見付学校」を知ろう	53 城之腰校舎
21 明るさを考えた天井	平成 28 年度
22 丈夫で美しい漆喰大壁塗り	54 夏休み
23 使用した和釘	55 少年雑誌・少女雑誌
24 3 階に残された柱跡	56 教科書の大きさ
25 磐田文庫の展示をリニューアル！	57 三角定規
26 見付学校の名前の変遷	58 そろばん
27 3 階の改築をした大工は・・・	59 ラジオ放送
28 解体復元工事	60 電気やエンジンを使わない時代
29 4 階・5 階	61 見付学校と運動場
平成 27 年度	62 明治・大正時代の学校や家庭の照明
30 擬洋風建築について	63 見付の古い通りを見てみませんか
	64 宿場の繁栄と見付学校

65 義務教育後の進路

66 明治時代の音楽教育

平成 29 年度

67 学校行事について

68 見付の高札について

69 明治時代の児童数

70 昔の授業体験参加者募集

71 手作りのおもちゃ

72 遊びの部屋

73 子どもにとって昔とは

74 明治時代の夏休み

75 見付学校と東海道

76 学校の水はどうしたの

77 ちゃぶ台

78 わらは大切な生活用品の材料

79 照明器具

80 桶（おけ） 樽（たる）

81 ゼンマイ仕掛けの時計

82 衣服はどこに片付けたか

83 尺貫法

84 竹細工

85 見付学校より古い坊中学校

86 戦後まで使われた擬洋風校舎

87 磐田文庫と見付学校

88 郵便の父 前島密と磐田の教育

89 旧見付学校の仲間たち

平成 30 年度

90 三和土の床

91 学習机といす

92 旧見付学校と見付地区探訪① 淡海国玉神社

93 旧見付学校と見付地区探訪② 宣光寺

94 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集中

95 旧見付学校と見付地区探訪③ 省光寺

96 旧見付学校と見付地区探訪④ 大見寺

97 「昔の授業体験」報告①

98 「昔の授業体験」報告②

99 「昔の授業体験」報告③

100 「緋の着物で写真撮影」「昔の遊びを体験しよう」報告

101 悲しい報告…台風 24 号の爪痕

102 旧見付学校と見付地区探訪⑤ 金剛寺

103 旧見付学校と見付地区探訪⑥ 見性寺

104 旧見付学校と見付地区探訪⑦ 玄妙寺

105 旧見付学校と見付地区探訪⑧ 慈恩寺

106 旧見付学校と見付地区探訪⑨ 西光寺

107 旧見付学校と見付地区探訪⑩ 旧赤松家記念館

108 旧見付学校と見付地区探訪⑪ 愛宕神社と阿多古山
一里塚

109 旧見付学校・旧赤松家「みんなの絵を大募集」入賞
作品展示中

110 旧見付学校と見付地区探訪⑫ 矢奈比賣神社その 1

111 旧見付学校・旧赤松家「みんなの絵を大募集」表彰式

112 旧見付学校と見付地区探訪⑬ 矢奈比賣神社その 2

平成 31 年度（令和元年度）

113 旧見付学校と見付地区探訪⑭ 矢奈比賣神社その 3

114 企画展「見付学校歳時記」開催

115 旧見付学校「昔の授業体験」参加者募集中

116 企画展「見付学校歳時記」の見どころ その 1

117 旧見付学校と見付地区探訪⑮ 福王寺 その 1

118 祝 入館者数 50 万人達成

119 「昔の授業体験」報告①

120 「昔の授業体験」報告②

121 「昔の授業体験」報告③

122 旧見付学校と見付地区探訪⑯ 福王寺 その 2

123 「キッズのためのクイズラリー」経過報告

124 「かすりの着物で写真撮影&町並散策」開催

125 「かすりの着物で写真撮影&町並散策」開催しました

126 「かすりの着物で写真撮影&町並散策」アンケート結果

127 学習の秋 2つの中学校から 1 年生が来校

128 なんと！ 来校者 1,054 人／日

129 ちょっといい話

130 小学校 3 年生社会科学習（富士見小）

131 新年あけましておめでとうございます

132 消防訓練実施

133 小学校 3 年生、社会科学習

134 来館者の声 その1

135 来館者の声 その2

136 来館者の声 その3

令和2年度

137 コロナ禍の影響を受けた令和2年度終了

令和3年度

138 企画展示をリニューアルしました！

『学制』公布150年 学校制度の始まりと令和の教育

139 3階展示室と昔遊びの部屋をリニューアルしました！

旧見付学校の前を聖火リレーが走りました。

140 明治時代の夏休みは何日くらい？

あそびの広場で昔遊びを楽しみませんか

141 運動会の歴史から

「かすりの着物を着て写真撮影&町並散策」受付中

142 子どもたちの元気な声が戻ってきました

大正時代の流行性感冒（スペイン風邪）への対応

143 中学生が黒板アートを描いてくれました

「かすりの着物を着て写真撮影&町並散策」開催

144 社会科見学に活用してください

ラジオ放送と学校教育

145 磐田北小学校旧木造校舎のジオラマを展示します

文化財防火デー消防訓練を行います

令和4年度

146 2階展示室に磐田北小旧木造校舎ジオラマが登場

城山中美術部黒板アートが新作に

147 昔の道具を動かしてみませんか

城山中美術部黒板アート新作完成

148 企画展「明治の子どもの試験に挑戦！」

「昔の授業体験」参加者募集！

149 「昔の授業体験」報告

150 「かすりの着物で写真撮影&町並散策」報告

令和5年度

151 「昔の授業体験」報告

152 「かすりの着物で写真撮影&町並散策」報告

153 令和5年度後期企画展開催中

154 消防訓練を実施しました

旧見付学校企画展一覧

開催年	題 名		
昭和 28	開館記念展覧会		
昭和 30	郷土の歴史と民俗資料	教科書	福田半香
昭和 33	遠江地方の古代文化		
昭和 34	西貝塚	浮世絵名作	
昭和 35	明治の教科書	写真で見る磐田の文化財	コインの歴史
昭和 36	アイヌ風俗	古鏡	日本の焼物の歴史
昭和 38	郷土の面	筆墨	
昭和 39			郷土の民芸品 ※児童文化館
昭和 41	磐田の古墳文化		
昭和 44	むかしのくらし		
昭和 47	磐田教育のあゆみ		
昭和 49	旧見付学校解体前内部見学	東海地方の国分寺	
昭和 52	見付学校落成記念特別展	見付宿写真	
昭和 53	磐田の絵馬	民話「しっぺい太郎」原画	市制 30 周年記念特別展 ※福祉センター開催
昭和 54	磐田の自然		磐田古美術 ※福祉センター開催
昭和 55	二之宮遺跡	天神社書画	桶ヶ谷沼のトンボ写真
昭和 56	松林山古墳		
昭和 57	京見塚古墳群調査 60 周年記念行事 京見塚遺跡		
昭和 58	先土器時代のくらし「磐田に人が住み始めたころ」		
昭和 59	磐田の農具 「米作りの歴史」	「磐田の古代を知る」 近年の発掘調査から	
昭和 61	消えゆく見付宿（北高写真部）		
昭和 63	桶職人の道具	灯火具	
平成 1	紡織機	家具	
平成 3	写真機	消防器具	磐田の歴史を飾る人物展 —江戸・明治・大正・昭和にかけて—
平成 4	学校宝物		
平成 5	なつかしい教科書・学用品		
平成 6	見付天神裸祭	造船技術先駆者・赤松則良氏を追う ※図書館開催	民具が語る人々の暮らし ※図書館開催
平成 7	120 年のあゆみ	戦中・戦後の教育	
平成 8	静岡県学校教育の 120 年の歩みと見付学校 ※田甫桂三氏講演会	東海道五十三次と見付宿	昔の遊びとおもちゃ
平成 9	中学校 50 年のあゆみ	見付古物	
平成 10	磐田の小学校のあゆみ	磐田の古美術と骨董	
平成 11	磐田市城の寺子屋	磐田市指定文化財	
平成 12	国民学校の時代	写真が語る昔の見付 （※13 年 1 月～7 月）	
平成 13	懐かしい昭和の磐田（※図書館開催）		
平成 14	戦前の磐田の中等教育 中農と見中	赤松家寄贈品	
平成 15	磐田の女学校	見付の画人・福田半香 ※図書館開催 ※日比野秀男氏講演会	
平成 16	昭和の暮らし	磐田の消防のあゆみ	
平成 17	太平洋戦争の頃の磐田		
平成 18	磐田の暮らしの文化財	磐南文人—書家と編集人— ※図書館開催	
平成 19	磐田に学校給食がはじまった	見付の書画人	
平成 20	懐かしの昭和展Ⅰ あの頃のボク・ワタシⅠ 懐かしの昭和展Ⅱ あの頃のボク・ワタシⅡ 懐かしの昭和展Ⅲ もはや戦後ではないⅠ 懐かしの昭和展Ⅳ もはや戦後ではないⅡ	磐田の南画家	
平成 21	近代教育と教科書展Ⅰ 近代教育のあけぼの 近代教育と教科書展Ⅱ 近代教育の確立と検定教科書 近代教育と教科書展Ⅲ 教育の国家統制と国定教科書 近代教育と教科書展Ⅳ 戦時から終戦、そして検定教科書		
平成 25	校舎落成 140 周年記念 富士山と教科書		
平成 27	磐田の小学校～今むかし		
平成 28	磐田の中等教育		
平成 29	新制中学校 70 年の歴史		
平成 30	明治 150 年と学校教育		
平成 31 （令和 1）	見付学校歳時記		
令和 2	見付学校歳時記		
令和 3	「学制」公布 150 年と令和の教育		
令和 4	磐田の近代教育 —学校沿革誌・学校日誌から—	明治の子どもの試験に挑戦！ —明治の子どもはどんな勉強をしていたの—	
令和 5	明治時代の子どもの遊び —すころく・メンコ・カルタ展—	優秀賞や精勤賞で教科書や学用品がもらえた	

昔の授業体験（模擬授業）実施実績

年度	開催日		内容	参加者	年度	開催日		内容	参加者
5年度	8月7日	土	国 語	50	17年度	8月6日	土	国 語	45
	8月21日	土	音 楽	50		8月20日	土	音 楽	35
6年度	8月10日	水	国 語	79	18年度	8月5日	土	国 語	37
	8月20日	土	音 楽	49		8月19日	土	音 楽	42
	3月11日	土	算 数	22	19年度	8月4日	土	国 語	30
7年度	8月9日	水	国 語	54		8月17日	金	昔の遊び体験	44
	8月19日	土	音 楽	47	20年度	8月2日	土	国 語	35
	11月5日	日	工 作	14（組）		8月19日	火	作って遊ぼう	49
8年度	8月10日	土	国 語	89	21年度	7月31日	金	国 語	35
	8月21日	水	音 楽	55		8月19日	水	作って遊ぼう	50
	11月9日	土	工 作	20（組）	22年度	8月5日	木	国語と修身	35
9年度	8月9日	土	国 語	56		8月18日	水	作って遊ぼう	37
	8月21日	木	音 楽	52	23年度	7月28日	木	国 語	30
	11月8日	土	工 作	45		8月3日	水	国 語	24
10年度	8月8日	土	国 語	43	24年度	8月18日	木	作って遊ぼう	38
	8月22日	土	音 楽	50		7月26日	木	国 語	31
	11月14日	土	工 作	26	25年度	8月2日	木	国 語	42
11年度	8月7日	土	国 語	51		8月8日	水	作って遊ぼう	34
	8月21日	土	音 楽	51	26年度	8月1日	木	国語・昔の体験	33
	11月13日	土	工 作	38		8月22日	木	国語・昔の体験	37
12年度	8月5日	土	国 語	47	27年度	7月25日	金	国語・音楽・かざぐるま	28
	8月19日	土	音 楽	43		8月8日	金	国語・音楽・かざぐるま	24
	11月11日	土	国 語	46	28年度	8月7日	金	国語・工作	40
13年度	8月4日	土	国 語	44		10月31日	土	昔の遊び体験	11
	8月18日	土	音 楽	55	29年度	7月23日 8月10日	土 水	国語・工作	45
14年度	8月3日	土	国 語	56		7月22日 8月4日	土 金	国語・工作	45
	8月17日	土	音 楽	58	30年度	7月21日 8月3日	土 金	国語・工作	47
15年度	8月2日	土	国 語	54	R 1年度	6月16日 6月30日	日 日	国語・工作	42
	8月23日	土	音 楽	59	R 2年度	コロナ感染拡大 防止のため中止			
16年度	8月7日	土	国 語	49	R 3年度	コロナ感染拡大 防止のため中止			
	8月21日	土	音 楽	53	R 4年度	9月25日	日	読本・唱歌・体操	19
					R 5年度	9月17日	日	読本・唱歌・体操	20

「旧見付学校を知ろう」（平成 24・25 年度は「成人対象 昔の授業体験」）事業一覧

※講師は全て旧見付学校職員が実施

平成 24 年度	vol.1 9 月 22 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分（参加者：29 名） ・見付の歴史について ・見付天神裸祭について ・模擬授業
平成 25 年度	vol.1 8 月 31 日（土）9 時 30 分～11 時 30 分（参加者：15 名） ・見付天神裸祭について ・模擬授業
平成 26 年度	vol.1 11 月 9 日（日）9 時 15 分～11 時 30 分（参加者：11 名） ・開校したころの見付のまちの様子について ・旧見付学校の概要、館内見学、補足説明及び質疑
平成 27 年度	vol.1 5 月 15 日（金）9 時 30 分～11 時（参加者：ボランティア 5 名／一般 9 名） ・旧見付学校の概略 ・石垣の石材や明治時代の建材について vol.2 7 月 17 日（金）9 時 30 分～10 時 30 分（参加者：ボランティア 7 名／一般 3 名） ・見付尋常高等小学校沿革史の内容について vol.3 9 月 17 日（木）9 時 30 分～10 時 30 分（参加者：ボランティア 8 名／一般 2 名） ・学習への金銭的負担について ・学習用品について
平成 28 年度	vol.4 5 月 18 日（水）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 8 名／一般 5 名） ・見付学校は日本一古いのか ・明治初期の先生の資格について ・見付における遠州国学について vol.5 7 月 7 日（木）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 9 名／一般 4 名） ・各法令と見付学校 ・昔の学校の予算は ・擬洋風建築はたくさん作られたか vol.6 11 月 10 日（木）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 9 名／一般 6 名） ・高等小学校と見付の 5 階（見付学校） ・明治後期・大正期の見付学校と磐田北小 ・1 学級の児童数は ・戦後の新制中学について
平成 29 年度	vol.7 5 月 18 日（木）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 5 名／一般 2 名） ・学校の始まりと見付学校の重要性 ・見付学校の仲間たち ・企画展「新制中学校 70 年の歴史～磐田市内の中学校の誕生から現代まで～」について vol.8 7 月 5 日（水）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 4 名／一般 4 名） ・見付学校と開智学校 ・見付学校のその後 vol.9 11 月 8 日（水）9 時 30 分～10 時 15 分（参加者：ボランティア 4 名／一般 4 名） ・明治 150 年と学校教育

類似校交流事業実績

平成 27 年度 情報発信・情報交換活動、姉妹館提携検討

現在、開智・開明・岩科の3校が姉妹館提携をしており、これに参加することによって全国に情報発信をしていきたい。まず第一段階として交流事業を行う。

- ・旧見付学校内に、交流先の学校の紹介スペースを設ける。
- ・交流先の学校より、可能な範囲で、パンフレットや刊行物を取り寄せ、設置する。
- ・交流先の学校においては、可能な範囲で、旧見付学校のパンフレットを置いてもらう。
- ・職員並びにボランティアの視察

対象校：開智・開明・岩科・津金

平成 30 年度 主催イベント・ボランティア活動調査、情報交換

施設のボランティアガイドが土日・祝日の館内案内等を行っているが、高齢化等により、年々ガイドが減少しており、増員の参考にするためアンケートを実施。

また、入館者増員のための主催イベントの実施状況等について情報交換を図る。

対象校：開智・開明・岩科・津金・睦沢・中込・春米



遠江地方の古代文化展チラシ
昭和 33 年



西貝塚展パンフレット
昭和 34 年



日本の焼物の歴史展パンフ
レット
昭和 36 年



面展パンフレット
昭和 38 年



松林山古墳展パンフレット
昭和 56 年



京見塚遺跡展 昭和 57 年



灯火具展 平成元年



写真機展パンフレット
平成3年



見付天神裸祭展
平成6年



戦中・戦後の教育展
パンフレット 平成7年



国民学校の時代展
パンフレット
平成12年



磐田の女学校展
平成15年



学校給食が始まった！展
平成19年



富士山と教科書展
チラシ 平成25年



磐田の中等教育展 平成28年



解体修理竣工記念式典
昭和 52 年



解体修理竣工記念式典
昭和 52 年



昔の授業体験（音楽）平成 5 年



昔の授業体験（国語）平成 6 年



昔の授業体験（工作）
平成 8 年



昔の授業体験募集チラシ
平成 15 年



昔の授業体験 平成 19 年



昔の授業体験 平成 27 年



むかしの遊び体験
平成 22 年



むかしの遊び体験
平成 23 年



紺の着物で散策 平成 24 年
旧東海道の散策風景



紺の着物で散策 平成 25 年
酒店での明治期のトロッコ体験

第2章 磐田文庫関係資料

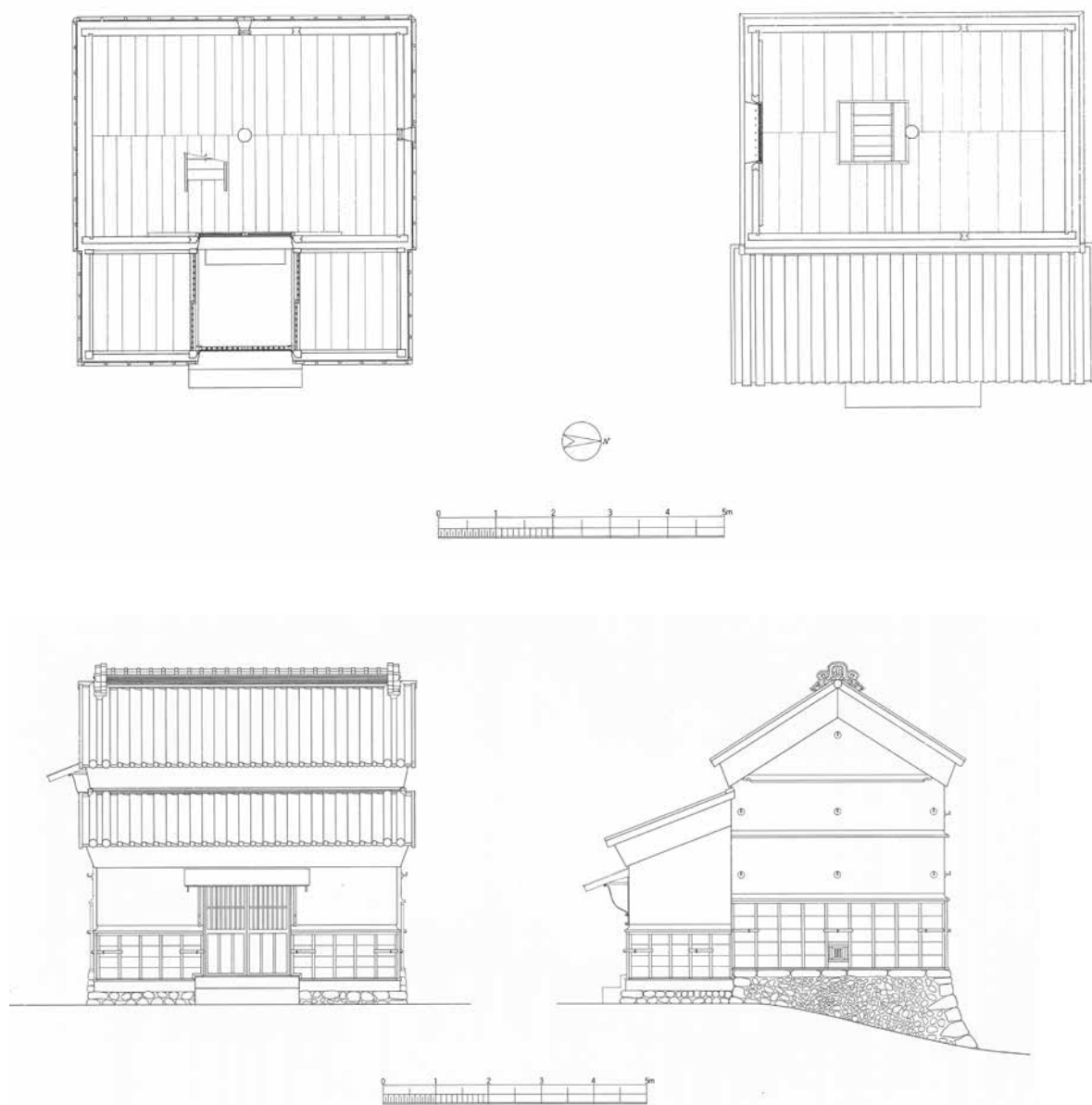


図 24 磐田文庫平立面図



玄関



玄関口



1 階



2 階

修理工事後の磐田文庫

磐田文庫修理銘板



国指定史跡 旧見付学校附磐田文庫保存修理記

事業概要 解体修理工事

着工 平成二年十一月

竣工 平成四年十二月

総工費 四八、三九四、〇〇〇円

内訳 静岡県補助 二四、一九七、〇〇〇円
磐田市負担 二四、一九七、〇〇〇円

事業者 磐田市

設計監理 財団法人文化財建造物保存技術協会

施工 石川建設株式会社

磐田文庫は、淡海国玉神社の神官大久保忠尚が

元治元年（一八六四）四月に設立した私設図書館である。

忠尚は自宅に門生を集めて和漢の書を講じ、維新の

際には遠州報国隊の隊長として活躍したことから、

磐田文庫は遠州国学の象徴とされている。文庫の

前面に建つ見付学校は、門生の古沢脩を中心とした

町の有力者により計画が進められ、多くの門生も

地元のために尽力するなど磐田文庫は見付学校と

関係が深い。両者は昭和四十四年、国の史跡に

指定された。

主体部は角材を積上げた校木造という構造で

類例が少ない。規模は二階建て、間口五、五m

奥行五、七m、建坪約三二㎡を測る。

今回の修理では建物を一旦解体し、補修して

組直したが、その際、後世の改変部や撤去された

部分を可及的に当初の形式に復旧整備した。

復元要旨

一、撤去されていた蔵前を古写真や痕跡等に基づき

復旧整備した。蔵前は三室とし、引違の間仕切

及び扉を設け、屋根は棧瓦葺きとした。

二、周囲鉄板張りを撤去し、大壁及び正面建具を

現すと共に腰壁板を整備した。

三、土蔵二階の背面野地を、化粧屋根裏より流し

板張りに復した。

四、欠失していた屋根の目地漆喰等を古写真に倣い

整備した。

熨斗瓦目地に目地漆喰を、また、鬼瓦裏面に

漆喰の盛上げを施した。



所 届 物 書								補 助	當 驛 世 話 人 中	神主 大久保縫殿助忠尚拝 奉納書籍勸進 遠江國府惣社文庫	
同	當 所	平 田	池 新 田	横 砂	掛 塚	掛 川	濱 松			今般者右之案申合國文庫造立仕 和洋古今之諸書籍奉納処置永代不朽之 相傳申度右願□□候之間四方之諸氏子何卒 御寄付成下之□□奉□□候尤御奉納被下候 國處御姓名前□□御志らせ可被下候 慶應二年丙寅九月文庫幹事	
荒井	高須嘉兵衛	池田庄次郎	木下清右衛門	鵜飼與一	小野次郎八	丸尾文六	矢部与左衛門	本多武左衛門	柴田佐兵衛		

磐田文庫の蔵書寄付を呼び掛けるチラシの版木とその内容

版木に記載されている人々の詳細

高須嘉兵衛

明治 25 年新居町区会議員 富豪

池田庄次郎

浜松藩御用商人で遠州きっての富豪・三代目池田庄三郎（勝光）の弟・庄二郎と同一人物か

兄弟ともに遠州報国隊との連絡役などとして支援

木下清右衛門

不明

鵜飼與一

丸屋與一、文六 廻船業・国学者 明治 10 ～ 20 年 白羽神社神官

明治 22 年に 77 歳で没（文化 9 年 [1812] 生まれ？）

小野次郎八

治郎八（天保 12[1841]－大正 4）と同一人物か 酒造業（三河屋）

明治 32 年 県会議員 明治 43 年 大須賀村長

丸尾文六

天保 3 [1832]－明治 29

明治 14 年第 2 回内国勸業博覧会一等有功賞、明治 23 年第 3 回内国勸業博覧会名誉賞

明治 17 年藍綬褒章 「明治銅版画風景集」所載

県議会議員・議長 衆議院議員 御前崎市に丸尾記念館あり

矢部与左衛門

明治 40 年 耕地整理事業 明治 37 年～昭和 4 年（以降不明） 平田浜漁業組合長

大正 4・12 年 県議会議員

※矢部与作（明治 6 年戸長、明治 21 年県下茶業組合連合会議員、明治 22 年相良町会議員、明治 35 年相良町長）と同族か

本多武左衛門

文久 3 年淡海国玉神社拝殿新築時の世話人

柴田佐兵衛

酒造業（松原屋）柴田佐平と同一人物か

「明治銅版画風景集」所載

磐田文庫書目録（慶応2年）

分類名	書名	巻数	備考
本教 第一第二	日本紀	30	合 15 冊
	続日本紀	40	合 20 冊
	日本後紀	10	稿本
	続日本後紀	20	
	文徳実録	10	合 5 冊
	三代実録	50	合 25 冊
	古事記	3	
	先代旧事本紀	5	
	釈日本紀	28	合 15 冊
	古語拾遺	1	
第貳 有職類	公事根源秘抄	3	
	令義解	11	六七八九十
	令義解	10	稿校本
	姓氏録	6	一部写本三巻あり
	同 丁引	1	
	職原鈔	2	
	大嘗会便蒙	1	
	同 卯日次第	1	
	同 卯日交名次第	1	
	朝野群載	7	
	貞観儀式	10	
	律	4	
	拾芥抄	6	
	冠位通考	1	
	蛭蠅抄	2	
	高橋氏文	1	
	時文摘紙	1	
	武家方当時装束抄	1	
	冠服着用図	1	
	武家大系図	1	
	和漢名数	1	
	水鏡明察	1	
	古道大意	上下 2	
第四 双紙類	栄花物語	8	
	伊勢物語	2	
	土佐日記	2	
	竹取物語	1	
	文布	3	
	今昔物語	7	
	紫式部日記傍註	2	

分類名	書名	巻数	備考
	月並消息	1	
	狭衣	10	
	西山物語	3	
	清少納言枕草紙	7	
	大和物語	5	
	出雲路日記	2	
	徒然草直解	10	
	撰集抄	5	
	おくれし雁	2	
	雁のつかひ		
第五 歌書類	万葉集校異	20	
	同 写本	20	
	同 用字格	1	
	同 端詞例	1	
	古歌集	1	
	明倫歌集	5	
	万葉集類句	5	
	六百番歌合	6	
	堀川百首	3	
	新古今集	2	
	岡之屋集	2	
	菅家万葉	2	
	柳園詠草	2	
	鄙軒	2	
	石清水若宮歌合	1	
	鈴虫	1	
	遠江名所歌集	1	
	古今集	2	
第六 撰述類	延喜式	50	
	古今銘尽	7	
	延喜式	3	
	耳底記	3	
	長歌詞玉衣	10	
	千歌	1	
	百人一首拾穂抄	1	
	同 改観抄	6	
	同 古説	2	
	同 新抄	1	
	一之宮紀伊集	1	
	加佐祢乃伊呂免	1	

分類名	書名	巻数	備考
	刀剣躰配	1	
第七 撰述類	神社啓蒙	8	
	麻賀之比礼	1	
	葛花	1	
	古学二千文	1	
	群書類従四百九十九	1	
	出雲風土紀	2	
	稻荷神社考	2	
	三大考弁々	1	
	天説弁々	2	
	残桜記	2	
	御系図	1	
	御鎮座次第紀	1	
	御鎮座本紀	1	
	参河官社私考略	2	
	遠江式内神社再拝記	1	
	宮比神御伝記	1	
	きゝんのこゝろえ	1	
	仮字本末	4	
	祝詞考	3	
	武蔵国惣社伝記		
	大祓俗解	1	
	岡之屋祝詞集	3	
	大道或問	1	
	道之栄	1	
	六国史本国事跡抜粹	1	
	愚問六窓	4	
	歳時記	1	
	勝間抄		
	清輔奥儀抄	3	
	病床漫筆	1	
	豊稚考仁賀歌大中臣	1	
	年々随筆	3	
	山彦冊子	3	
	樞園随筆	2	
	玉賀都万	5	
	和歌会式	1	
	御当家服忌令	1	
	出定笑語	2	
	一之宮服忌令	1	

分類名	書名	巻数	備考
	求夷篇	1	
	服忌令	1	
	御所服忌令	1	
	恐惶新論	1	
第八 撰述類	入旋頭歌抄六句歌体弁		
	玉小琴		
	遠江歌考		
	後撰新抄		
	古今集打聴		
	美濃家畏		
	同折添		
	尾張家苞		
	都路日記		
第九	古事記伝		
第十	和名抄	20	合 5
	新撰字鏡		
	漢字三音考		
	古言梯		
	古言別音抄		
	園圃拔菜		
	詞玉緒		
	言葉八衢		
	言葉束緒		
	冠辞考		
	年中行事歌合		
	万葉新採三百首		
	鈴之屋集		
	小野小町家集		
	寂蓮家集		
	長明家集		
	西行家集		
	源氏物語		
第十一	源語湖月抄		
第十二	万葉集略解		
第十三	易知禄		
第十四	四書正解		
	文選正文		
	四書無点		
	易本義		
	左氏伝秦鼎校本		

分類名	書名	巻数	備考
	四書五經		
第十五	礼記集註		
	鶴林玉露		
	晏氏春秋		
	図書解		
	元明十八史略		
	用字格		
	蒙求		
	続文章規範		
	文選傍訓		
	七書		
	鈴録		
	兵法雄鑑抄		
	楠公遺書		
第十六	杜律集解		
	詩經集註		
	同古註		
	論語標註		
	左氏伝古本		
	唐鑑音註		
	西陽雜俎		
	五雜俎		
	字彙		
	書塵類積		
	書話抄		
	米家書訣		
	書法図		
	省字檢考		
	韻鏡易解		
	古注千字本		
	広千字本		
	蝦夷志		
	飛驒幽討余録		
第十七	国語		
	郭註莊子		
	俳優考		
	可成談		
	訳文筌蹄		
	弁道		
	檀弓孟子紕点		

分類名	書名	巻数	備考
	産語		
	語録字義		
	朱子詩抄		
	鶏林情盟		
	芳林詩田		
	幼学詩韻		
	詩語碎金		
	詩林良材		
	唐詩選講釈		
	群玉イロハ韻大成		
	帆米雑詩		
	易詩書古本		
	龜頭四書		
	論語解		
	和漢書籍考		
	詩式		
	詩経余師		
	大学ヨシ		
	同孝経		
	玄微韻鏡		
	遊仙屈		
	左伝		
	挙要韻会		
第十八	誦習庵私記		
	約伝		
	葦牙増註		
	姓氏禄抄註		
	瑞垣百首		
	姓氏禄序釈		
	史鈔百伝		
	略解補闕		
	同		
	天皇譜		
	神武記下ノ釈		
	同約伝		
	百氏百人一首		
	長歌私編		
	中林詠草		
	雲聚玉蔭		
	柿本短歌解		

分類名	書名	巻数	備考
	四神旗		
	神代歴朝略頌文文集		
	祈年祭祝詞略解		
	続日本紀考	1	
	漢転凡例	1	
	新撰姓氏録		
	扶桑拾葉集		
	古今遠鏡	5	
	文合		
	玉霰		(貼紙)「当時不足」
	和歌肝要		
	長歌撰格		
	ユメヂ日記		
	千鳥跡		
	閑聖漫祿		
	耐軒詩草		
	三体筆陣雋語		
	孝経 東公書		
	続春宴帖		
	万葉一句類語		
	万葉新採百首		
	新三捨六歌仙		
	和漢年契		
第十九	二十一代集		
第二十	類字名処和歌集		
	秋二百六十番歌合		
	新選二葉草		
	紐鏡中心		
	詩経		
	桜精伝歌		
	易经小筌		
	詩韻含英		
	千字文ヨシ		
	舞車謡		
	航米雑詩		
	イロハ韻		
	唐詩選		
	点例		
	書家必用		
	古文		

分類名	書名	巻数	備考
	雲上明鑑		
	掌中和歌明題		
	合類書籍目録		
	諸家著述目録		
	童蒙詩式	1	
	唐宋聯珠詩格		
	詩学便覧		
	詩工錐鑿		
	四書カナ付同無点		
	字林		
	文選字引		
	草庵集		
	明題和歌集		
	にひさほり		
	雅		
	万葉集		
	和歌古乃山踏 矢部奉納		
第二十一	玉篇		
第二十三	書法筆法次第		
	礼法口伝集		
	律令要略		
	農業全書		
	御当家清和系譜		
	同御家譜		
	同 略書		
	永正享保中浜松御城近所旧事聞書		
	遠陽軍記目録		
	匠家故実録		
	東照宮御垂範		
	金銀品定		
	江府種書		
	御勘定目録順		
	評定所公事裁許		
	地方見聞録		
	算法水之巻		
	庭訓往来		
	風月往来		
	今川古状		
	百人一首		
	大和名所図絵		

分類名	書名	巻数	備考
	世話万字文		
	世話千字文		
	年中用文章		
	商売往来		
	宇多伊之小本		
第三	正卜考		
	禁秘抄		
	職員正文		
	令開題集説		
	標注令義解		
第四	土佐日記		
	玉乃小櫛		
	鉄槌		
	磯乃浪		
第五	万葉新採百首		
	古歌集壹百		
	万葉新採百首解		
	同 和歌集		
	同 拔書		
	古今和歌六帖		
第七	喪儀略		
	杉門祝詞集		
	八之巻祝詞傍註		
	五倫口解		
	時勢雜禄		
	音韻仮字例図		
第八	かはやしろ		
第九	古事記伝目録		
第拾五	武用弁略		
	火術家引書		
	鼓吹司陳法式図抄		
第拾六	運筆自在楷子		
	学書千字文		
	上柱国嘉誌銘田頼書		
	宋蘇文忠公書		
	風月往来		
	行書千字文		
	行書後咳赤壁賦		
	蘭亭記		

分類名	書名	巻数	備考
	晋王羲之書		
	東江先生書		
	文豹堂草訣		
	和漢年代歌 東江源鱗		
	顔真卿多宝塔碑文		
	旧日詠艸		
第二十	五經		
	春雄歌		
第二十二	格致余論		
	詩歌論	1	
	世話千字文		
	五体千字文		
	草庵集玉箒		
	小覽畫字引		
	大聖日蓮深探秘伝		
	詠草古風		
	女大学		
	漂流言上記 漂着問答話		
	吳江水韻		
	古本催馬楽譜		
	般若心經		
	書札礼儀拔書		
	唐詩五絶帖		
	新聞記	4	
第二十三	大日本史	20	
	同 目録	1	
	遠江風土記	13	
	筑前国風土記		
	皇典文彙	3	
	正保野史	1	
	元亨釈書	10	

慶応2年磐田文庫書目録・昭和31年寄贈台帳対照表

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
本教 第一第二	日本紀	30			
	続日本紀	40			
	日本後紀	10			
	続日本後紀	20			
	文徳実録	10			
	三代実録	50			
	古事記	3			
	先代旧事本紀	5			
	釈日本紀	28	釈日本紀目録	1	
	古語拾遺	1			
第式 有職類	公事根源秘抄	3	公事根源目録	1	
	令義解	11			
	令義解	10			
	姓氏録	6			
	同 丁引	1			
	職原鈔	2	職原抄参考上下	2	
	大嘗会便蒙	1			
	同 卯日次第	1			
	同 卯日交名次第	1	卯日交名次第	1	
	朝野群載	7	写	7	
	貞観儀式	10			
	律	4			
	拾芥抄	6		6	
	冠位通考	1		1	
	蛭蠅抄	2			
	高橋氏文	1	高橋氏文全 写本		
	時文摘紙	1	写本	1	
	武家方当時装束抄	1			
	冠服着用図	1			
	武家大系図	1			
	和漢名数	1		1	
	水鏡明察	1	破本		
	古道大意	上下 各1			
第四 双紙類	栄花物語	8			
	伊勢物語	2	下	1	
	土佐日記	2			
	竹取物語	1			
	文布	3			
	今昔物語	7			
	紫式部日記傍註	2			
	月並消息	1			
	狭衣	10			
	西山物語	3			
	清少納言枕草紙	7			
	大和物語	5			
	出雲路日記	2			
	徒然草直解	10			
	撰集抄	5			現存台帳に巻数3と4あり
	おくれし雁				
	雁のつかひ	2			
第五 歌書類	万葉集校異	20			
	同 写本	20			
	同 用字格	1			
	同 端詞例	1			

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	古歌集	1	写本	1	
	明倫歌集	5			
	万葉集類句	5			
	六百番歌合	6		6	
	堀川百首	3			
	新古今集	2		2	
	岡之屋集	2			
	菅家万葉	2			
	柳園詠草	2			
	鄙軒	2			
	石清水若宮歌合	1		1	
	鈴虫	1			
	遠江名所歌集	1			
	古今集	2		2	
第六 撰述類	延喜式	50			
	古今銘尽	7			
	延喜式	3			
	耳底記	3			
	長歌詞玉衣	10			
	千歌	1			
	百人一首拾穂抄	1	抜書 写本	1	
	同 改観抄	6			
	同 古説	2			
	同 新抄	1			
	一之宮紀伊集	1			
	加佐祢乃伊呂免	1			
	刀剣躰配	1			
第七 撰述類	神社啓蒙	8	7冊+もう1冊あり	8	
	麻賀之比礼	1			
	葛花	1			
	古学二千文	1			
	群書類従四百九十九	1			
	出雲風土記	2			
	稻荷神社考	2			
	三大考弁々	1			
	天説弁々	2			
	残桜記	2			
	御系図	1			
	御鎮座次第紀	1	全	1	
	御鎮座本紀	1	全	1	
	参河官社私考略	2		2	
	遠江式内神社再拝記	1			
	宮比神御伝記	1			
	国之御柱	1			
	きんのころえ	1			
	仮字本末	4			
	祝詞考	3			
	武蔵国惣社伝記				
	大祓俗解	1	大祓之儀 破本		
	岡之屋祝詞集	3			
	大道或問	1			
	道之栄	1			
	六国史本国事跡抜粹	1			
	愚問六窓	4		4	
	歳時記	1		2	

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	勝間抄				
	清輔奥儀抄	3		3	
	病床漫筆	1			
	豊雑考仁賀歌大中臣	1			
	年々随筆	3	季々随筆 写本		
	山彦冊子	3			
	檀園随筆	2			
	玉賀都万	5			
	和歌会式	1	写本	1	
	御当家服忌令	1			
	出定笑語	2			
	一之宮服忌令	1			
	求夷篇	1			
	服忌令	1			
	御所服忌令	1			
	恐惶新論	1			
第八 撰述類	旋頭歌抄六句歌体弁	1	旋頭花 写本		
	玉小琴	1			
	遠江歌考	1			
	後撰新抄	2	柳園先生抄 続新採百首遠鏡 写	1	
	古今集打聴	20			
	美濃家畏		美濃の家つど	4	
	同 折添				
	尾張家苞				
	都路日記	2			
第九	古事記伝				
第十	和名抄	20			
	新撰字鏡	2			
	漢字三音考	1			
	古言梯	1			
	古言別音抄	1			
	園圃拔菜	2			
	詞玉緒	7			
	言葉八衢	2	詞八衢下	1	
	言葉束緒	1			
	冠辞考	10			
	年中行事歌合	1	年中行事 五十番和歌	1	
	万葉新採三百首	1			
	鈴之屋集	9			
	小野小町家集	2			
	寂蓮家集	2			
	長明家集	2			
	西行家集	4			
	源氏物語	3別1			
第十一	源語湖月抄	60			
第十二	万葉集略解	21		26	
	万葉略解補闕		補闕1(天)、2	2	
第十三	易知祿	108	明鑑易知録7 綱鑑易知録49	56	
第十四	四書正斛	30	巻数同数で重複あり	30	
	文選正文	13			
	四書無点	6			
	易本義	3	易経本義大綱 写本		
	左氏伝秦鼎校本	15			

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	四書五経	21			
	四書五経内訳 (巻数足して21にならない)				
	書経大全巻	10	申学士校正古本官板	10	
	礼記大全巻	21	張翰林校正	21	
	易経大全巻	15	周会魁校正易経大全	15	
	詩経大全巻	4		4	
	春秋集伝大全巻	18		18	
	孟子	8		8	
	中庸	3		3	
	論語	4		4	
	大学	2		2	
	同 写本	1		1	
	詩経集註	7			第16にあり
	易経	6	陳太史校正	6	現存目録に易経大全巻とある が巻数の合っている方に合わせ ました。
第十五	礼記集註	20			
	鶴林玉露	9			
	晏氏春秋	6		5	
	図書解	2			
	元明十八史略	11			
	用字格	1			
	蒙求	3			
	続文章規範	2		2	
	文選傍訓	10	評苑文選傍訓大全	10	
	七書	7			
	鈴録	20	鈴録(水法) 写本 アルモノハ混乱	4	
	兵法雄鑑抄	1	兵法雄鑑抄 写本	1	
	楠公遺書	1	正成遺書写	1	
第十六	杜律集解	4			
	詩経集註	7		7	
	同 古註	5	詩経古註 印刷	5	
	論語標註	2	論語集解標記	2	
	左氏伝古本	15			
	唐鑑音註	6			
	西陽雜俎	10	西陽雜俎続集	10	
	五雜俎	8		8	
	字彙	7	字彙寅集	7	
	書塵類積	1			
	書話抄	1	写本	1	
	米家書訣	1		1	
	書法図	1			
	省字検考	1	省寧検考		
	韻鏡易解	4	増韻鏡易解大全 1-4	4	
	古注千字本	1			
	広千字本	1			
	蝦夷志	1			
	飛騨幽討余録	2			
第十七	国語	4		5	
	郭註莊子	10			
	俳優考	1			
	可成談	2		2	
	訳文筌蹄	1			

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	弁道	1			
	檀弓孟子批点	1	合刻檀弓孟子批点	1	
	産語	2	上 下	2	
	語録字義	1	伊藤仙蔵 写	1	
	朱子詩抄	1	朱子詩抄坤	1	
	鶏林情盟	1		1	
	芳林詩田	3	詩学大成 芳林詩田	2	
	幼学詩韻	1	印刷	1	
	詩語碎金	1	印刷		
	詩林良材	5		4	
	唐詩選講釈	5			
	群玉イロハ韻大成	1			
	帆米雑詩	1			
	易詩書古本	6			
	龍頭四書	8	新版改正龍頭論語	3	
	論語解	1			
	和漢書籍考	1			
	詩式	1	写本		
	詩経余師	8			
	大学ヨシ	1			
	同孝経	2			
	玄微韻鑑	1	指微韻鑑 5巻他1	2	
	遊仙屈	5	巻1-5	5	
	左伝	11	春秋左氏伝	11	別に15あり
	挙要韻会	14	古今韻会挙要	14	
第十八	誦習庵私記	1	写本	1	
	約伝	2			
	葦牙増註	8			
	姓氏禄抄註	1	新姓氏禄抄註 写本	1	
	瑞垣百首	1	美豆加岐百首 写本 破本	2	
	姓氏禄序釈	1			
	史鈔百伝	2	史鈔百傳 写本	1	
	略解補闕	2		1	
	同	2			
	天皇譜	1		3	
	神武記下ノ釈	1			
	同約伝	1			
	百氏百人一首	1	写本	1	
	長歌私編	3			
	中林詠草	5			
	雲聚玉蔭	2			
	柿本短歌解	1			
	四神旗	1			
	神代歴朝略頌文文集	1			
	祈年祭祀詞略解	1			
	続日本紀考	1	写本	1	現存台帳もう1タイトルあり 重複の注記あり
	漢転凡例	1		2	
	新撰姓氏録	3	上 中 下	3	別に写本2(上中)あり
	扶桑拾葉集	2			
	古今遠鏡	6			
	文合	2			
	玉霞	1			
	和歌肝要	1		1	

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	長歌撰格	1			
	ユメヂ日記	1			
	千鳥跡	1			
	閑聖漫禄	1			
	耐軒詩草	2			
	三体筆陣雋語	3			
	孝経 東公書	1	孝経	1	
	続春宴帖	1			
	万葉一句類語	1			
	万葉新採百首	1			
	新三捨六歌仙	1			
	和漢年契	1			
第十九	二十一代集	21			
第二十	類字名処和歌集	4			
	とはね詠草	3			
	秋二百六十番歌合	2			
	新選二葉草	2			
	紐鏡中心	2			
	詩経	2		2	
	桜精伝歌	2			
	易经小笈	1			
	詩韻含英	4			
	千字文ヨシ	1			
	舞車謡	1			
	航米雑詩	1	航米雑詩	1	
	イロハ韻	1			
	唐詩選	2			
	点例	1		1	
	書家必用	1		1	
	古文	1			
	雲上明鑑	2			
	掌中和歌明題	1			
	合類書籍目録	12	大全	11	
	諸家著述目録	5	近代名家著述目録	4	
	童蒙詩式	1	全	1	
	唐宋聯珠詩格	2			
	詩学便覧	2			
	詩工錐鑿	2			
	四書カナ付同無点	4			
	字林	3			
	文選字引	1			
	草庵集	1	草庵和歌集類題目録	1	
	明題和歌集	13			
	にひさぼり	2			
	雅	1			
	万葉集	2			
	和歌古乃山踏 矢部奉納	4			
第二十一	玉篇	11			
第二十三	書法筆法次第	1		2	書法筆法1 同 次第下1
	礼法口伝集	1			
	律令要略	1			
	農業全書	11			
	御当家清和系譜	1			

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	同御家譜	1			
	同 略書	1			
	永正享保中浜松御城近所 旧事聞書	1			
	遠陽軍記目録	1			
	匠家故実録	1			
	東照宮御垂範	1			
	金銀品定	1			
	江府種書	1	江府種書 毛詩鄭箋標註	7	
	御勘定目録順	1			
	評定所公事裁許	1			
	地方見聞録	1			
	算法水之巻	1			
	庭訓往来	2		2	庭訓往来全1 同精注鈔全1
	風月往来	2			
	今川古状	2			
	百人一首	1			
	大和名所図絵	2			
	世話万字文	1			
	世話千字文	1			
	年中用文章	2	上 下	2	
	商売往来	1			
	宇多伊之小本	19			
第三	正卜考	3			
	禁秘抄	3	中下	2	
	職員正文	3	職員令 正文 写本		同 第2あり
	令開題集説	1			
	標注令義解	6			
第四	土佐日記	2			
	玉乃小櫛	1			
	鉄槌	3	巻2 巻4	2	
	磯乃浪	1			
第五	万葉新採百首	4	写本 破本	1	
	古歌集壹百	1	古歌壹佰 写本	1	
	万葉新採百首解	3			
	同 和歌集	1	万葉和歌集	9	
	同 抜書	1			
	古今和歌六帖	1	写本	1	
第七	喪儀略	1			
	杉門祝詞集	1			
	八之巻祝詞傍註	1			
	五倫口解	1			
	時勢雜禄	1			
	音韻仮字例図	3			
第八	かはやしる	5			
第九	古事記伝目録	1			
第拾五	武用弁略	1			
	火術家引書	3	写本	3	
	鼓吹司陳法式図抄	1	写本	1	
第拾六	運筆自在楷子	1			
	学書千字文	1			
	上柱国墓誌銘田頼書	1			
	宋蘇文忠公書 上	1			

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
	風月往来	1			
	行書千字文	1			
	行書後咳赤壁賦	1			
	蘭亭記	1			
	晋王羲之書	1			
	東江先生書	1			
	文豹堂草訣	1			
	和漢年代歌 東江源麟	1			
	顔真卿多宝塔碑文	1			
第十八	旧日詠艸	1			
第二十	五経 小本力ナ付	11			
	春雑歌	1			
第二十二	格致余論	1			
	詩歌論	1	写本	1	
	世話千字文	1			
	五体千字文	1			
	草庵集玉箒	1			
	小覚画字引	1	全 写本		
	大聖日蓮深探秘伝	1			
	詠草古風	1			
	女大学	1			
	漂流言上記 漂着問答話	1			
	呉江水韻	1	印刷	1	
	古本催馬楽譜	1			
	般若心経	1			
	書札礼儀拔書	1	母記憶	1	
	唐詩五絶帖	1			
	新聞記	4			
第二十三	大日本史	20			
	同 目録	1			
	遠江風土記	13			
	筑前国風土記				
	皇典文彙	3			
	正保野史	1		1	
	元亨釈書	10			
磐田文庫書目録に 掲載されていないもの			倭神道大意	4	
			消息往来全	1	
			表向	1	
			詩法大意	1	
			柏堂模子追福 書画会目録	1	
			高光日記	1	
			寂莫草一部	1	
			事格	1	
			詞花和歌集	1	
			拾遺和歌集	20	
			類林愚抄	1	
			神代正語 中巻	1	
			歴代天皇祀宮	1	
			揮毫手本	1	
			閑路寂葉	1	
			続新採百首	1	
			同 全	1	
			古今三註私抄	1	
			諸源壇	1	
			文選無点	1	

磐田文庫書目録			昭和31年台帳記載の書名	現存 巻数	備考
分類名	書名	巻数			
磐田文庫書目録に 掲載されていないもの			豊受宮雑考	1	
			不明書	2	
			消城新聞	1	
			上経	1	
			下経	2	
			相法類編席	1	
			山裳見貌石 里見 巻六	1	
			仙柘枝歌三首	1	
			古文孝徑席	1	
			古文孝徑席	1	
			古文孝徑全	1	
			不明	1	
			布知豆良	1	
			無名	1	
			雑歌	1	現存台帳に雑韻ならあるが 雑歌はない
			古今私抄	1	
			幸行松山村之時 歌二首	1	
			有由縁外雑歌	1	原簿に記載されていない 書籍台帳では 有由縁雑歌となっている
			東歌	1	
			同種類の書	3	
			古今私抄二賀	1	
			一ツ字匂	1	
			余材抄抜粹	1	
			万葉集東歌傍註	1	
			四等官称考	1	
			万葉抜書	1	
			日本紀誦習録	1	
			諸神職江 教諭申渡書	1	
			相聞 書名不明		現存台帳は巻数2だが 原簿に載っていない 書籍台帳には 巻数1となっている
			京都騒乱 風聞写言	1	
			書名不明	1	
			子女心得		
			後新採百首	1	続は2冊あるが後は無い 後撰新抄は違うと判断した
			書名不明		

第3章 淡海国玉神社関係資料

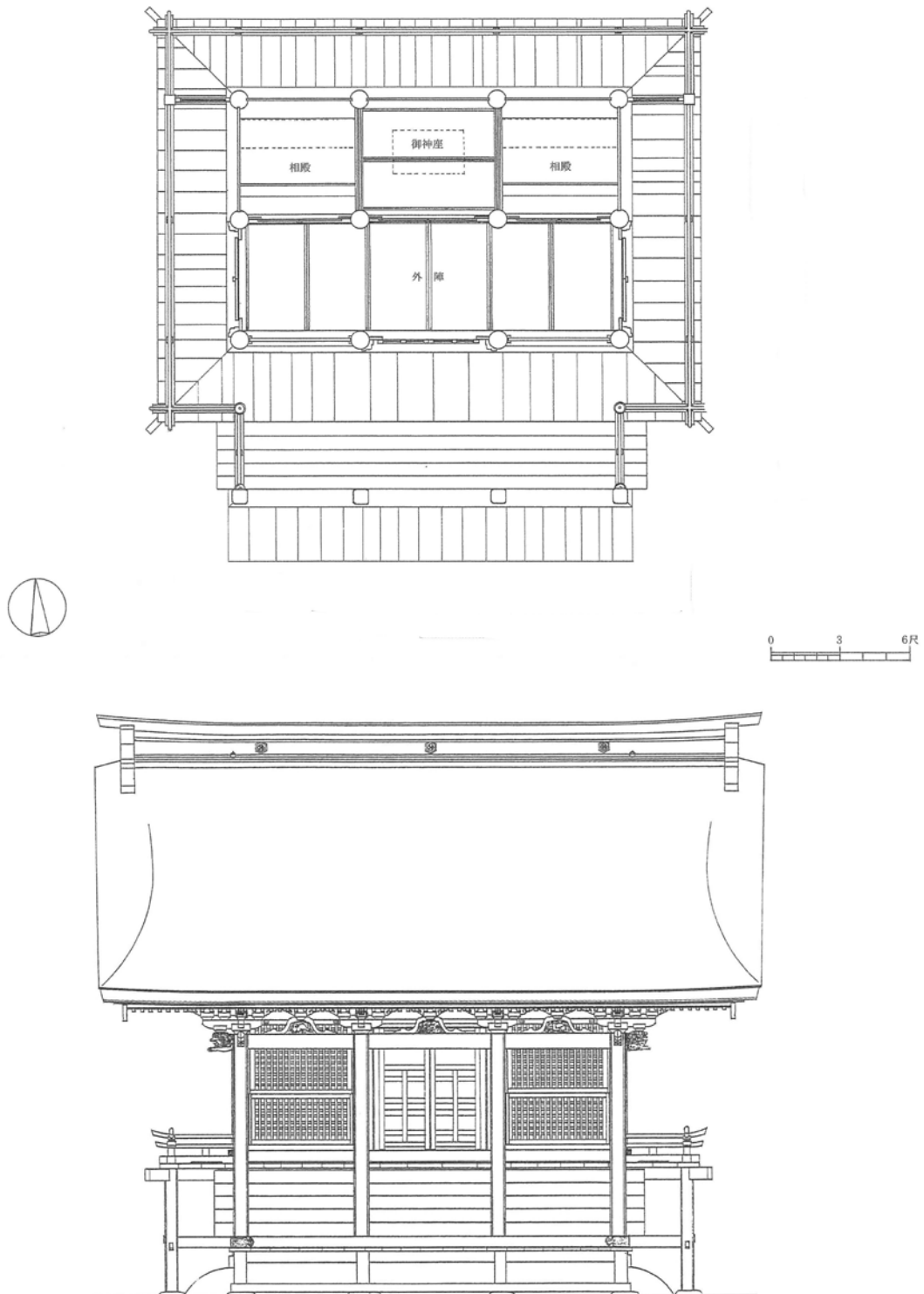


図 淡海国玉神社本殿平立面図

奉寄進擬法
珠一對遠府
岩田郡見付
惣社御寶前
祈所
願主袋井
田代八郎左衛門
明曆三丁酉年
三月如意日
吉次



淡海国玉神社擬宝珠及び銘文

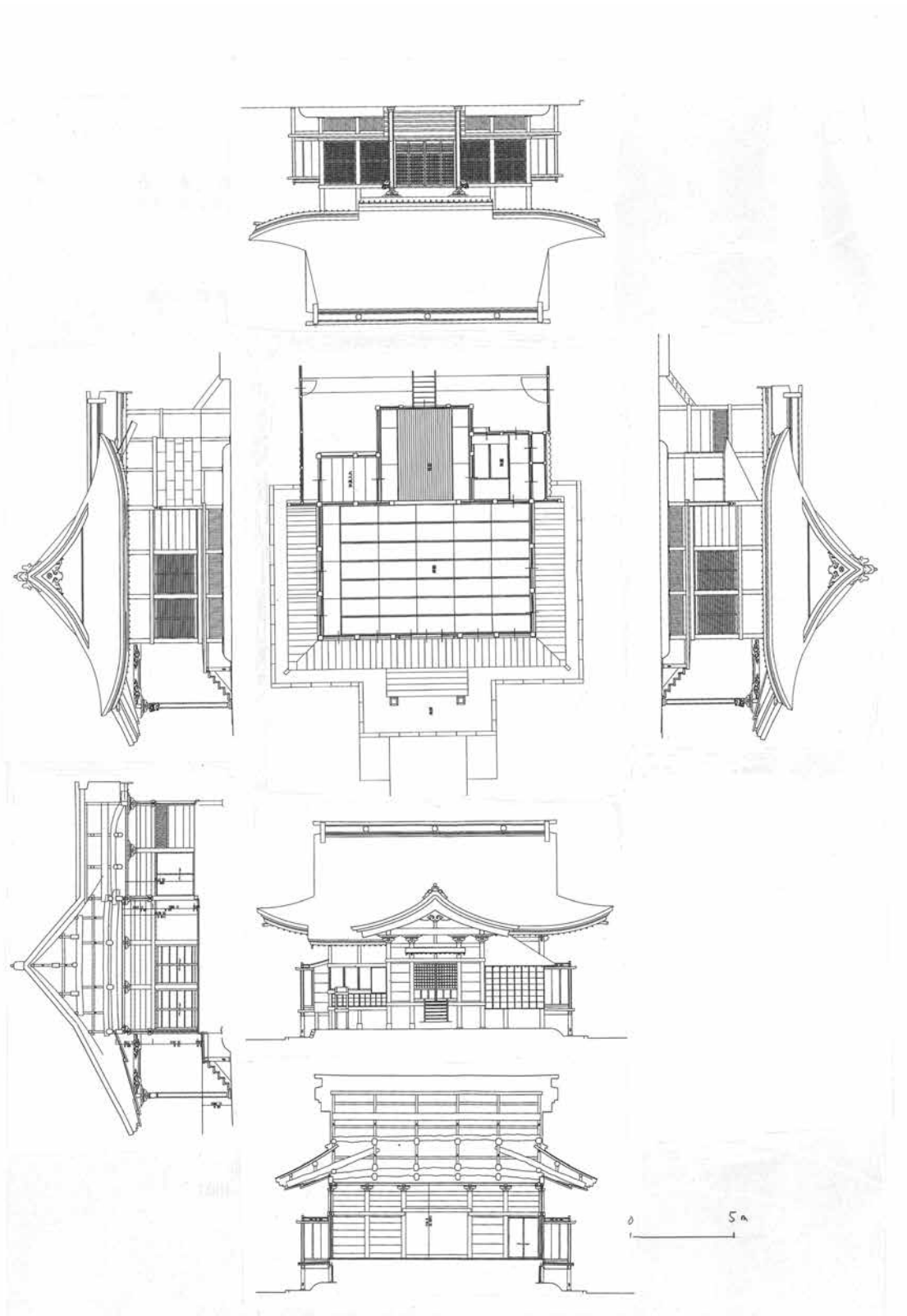


図 淡海国玉神社拜殿・幣殿平立面図

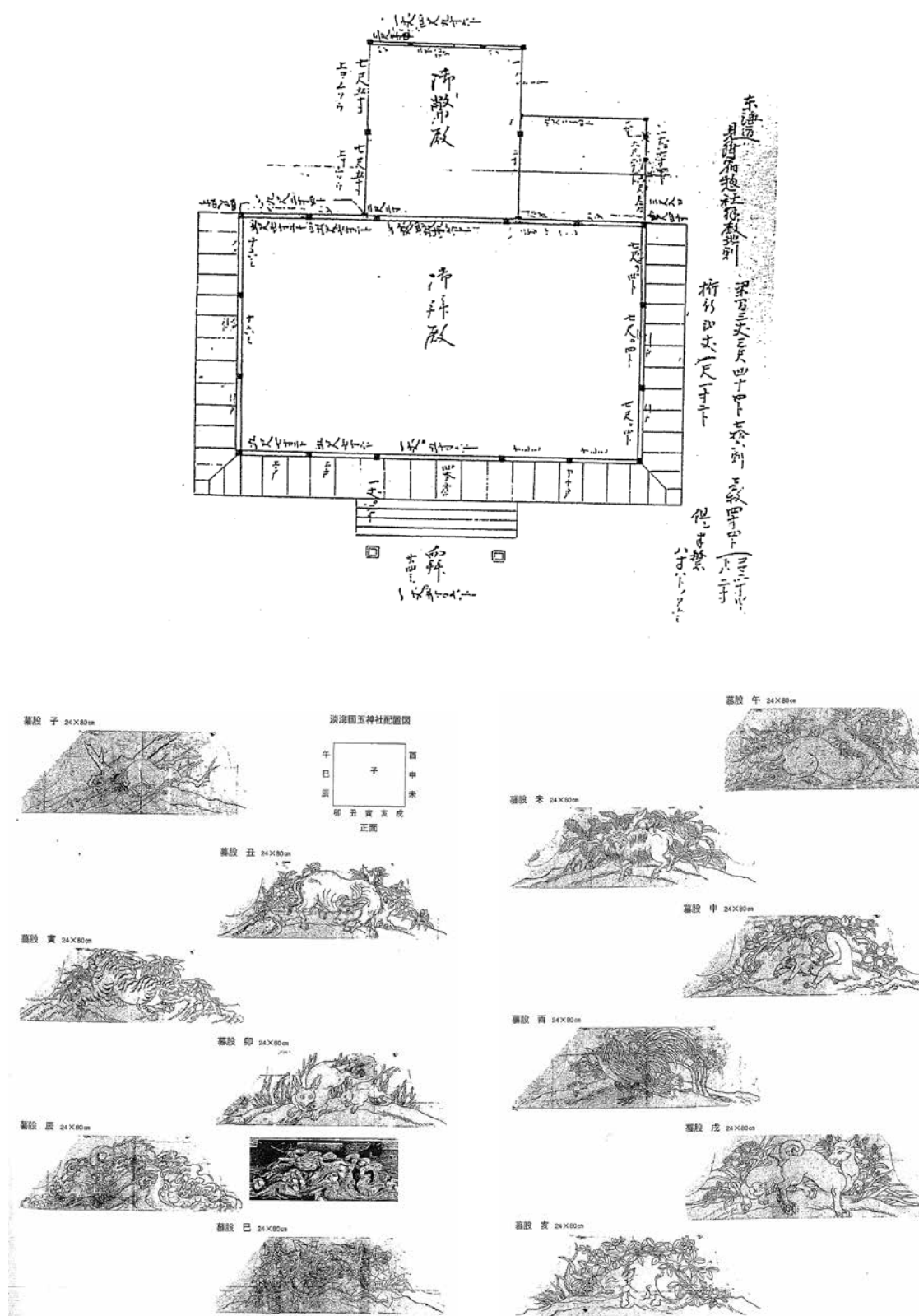


図 淡海国玉神社拝殿・幣殿見取り図及び十二支デザイン図 (立川昌敬作)



表面

築立流若室葛根若八香尔旧乃法違不改此乃拜殿乎新久造仕奉事者上者 ※以下略
神主 藤原朝臣忠直 男 藤原朝臣春野



裏面

棟梁 信濃国諏訪大匠立川豊前藤原昌敬 山名郡貫名
御宮大工 鈴木金三郎昌利 弥三郎 祐七郎 千代蔵
長嶋茂吉興勝 吉蔵 助右衛門 周吉
大鑑 鈴木喜十郎 勘助 庄太郎
世話人 永田清右衛門 本多武左衛門 戸塚源右衛門 馬場町中
文久三年癸亥長月

写真 淡海国玉神社棟札および銘文

第4章 大久保家関係資料

第1節 大久保邸内の建造物等

大久保家の敷地については『日本博覧図』静岡県の部（明治24・25年）に掲載された精密な銅版画によって明治中期における配置がわかっている。以下の項目で述べる主要な建物はすべて記載されている。違っている箇所としては北の蔵の東側に「第一製茶場」と書かれた煙突付瓦葺の建物があったこと、第一製茶場と主屋の間には藤棚風の施設や作業場があったこと、主屋の東側にも2棟の建物が並んで建っていたこと、門前は少し高くなっており、手前に石段があったことなどである。第一製茶場は明治8年（1875）開校式の写真にも写っているが、瓦葺ではなさそうであり、また煙突も見当たらない。主屋東側の2棟も同様に写っており、いずれも土壁の建物で東寄りの1棟は瓦葺のようである。

なお、門の南東の、敷地外のような場所にある建物は門番所や厩、または学校の小使の住居のようなものか。さらに、長屋の西側に並んで2棟建てられている建物は使用人の住居ないし作業所のような役割が考えられる。



銅版画

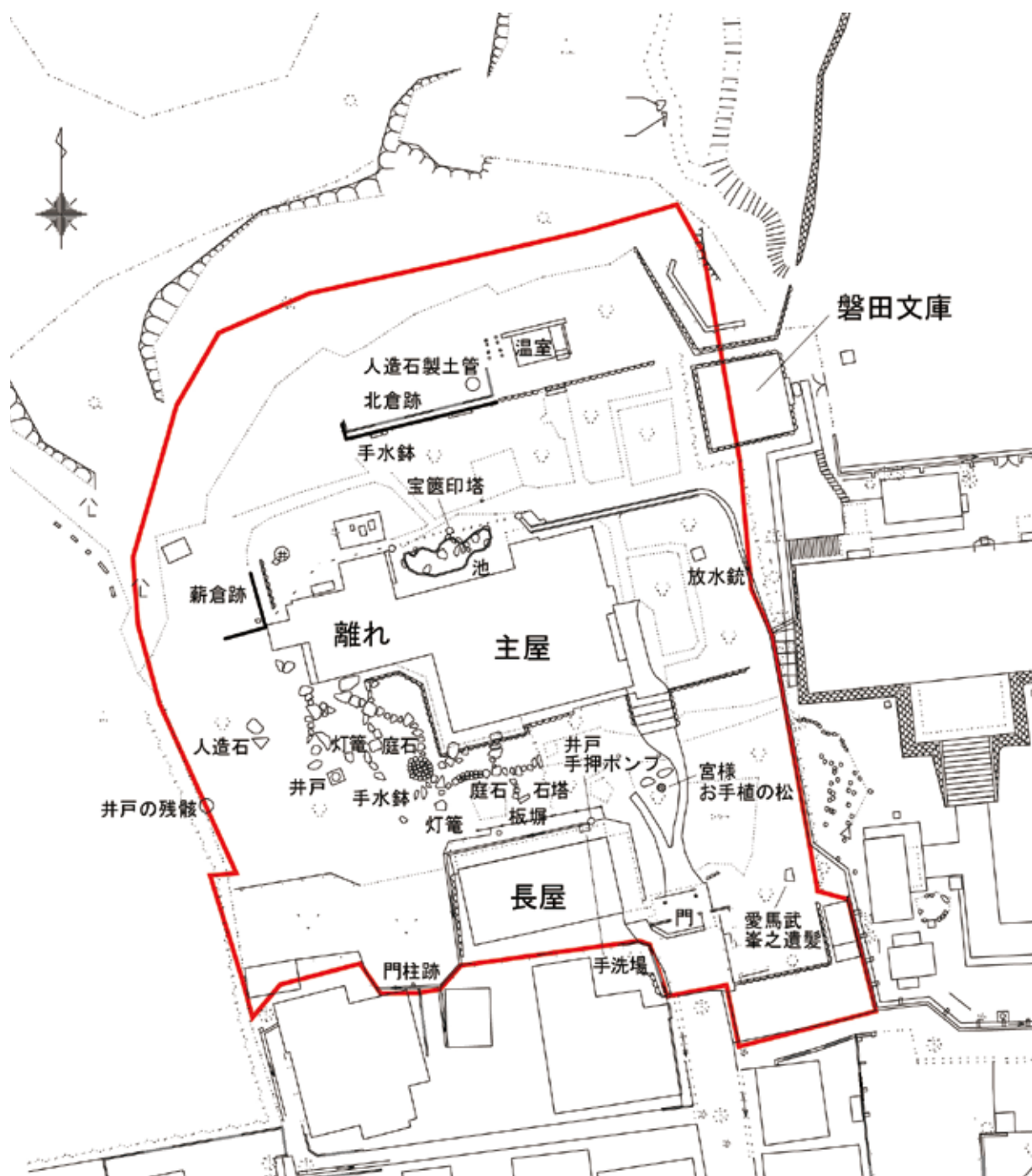
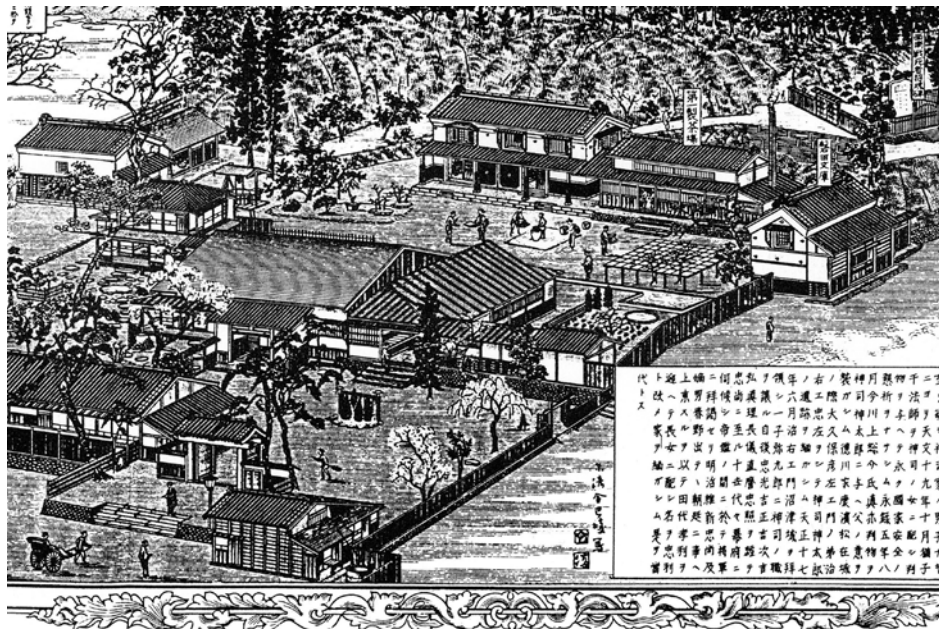


図 大久保家周辺図



銅版画（建物部分拡大）

※以下の文章の一部は平成 15 年 10 月に磐田市文化財専門審議会鈴木敬雄委員が調査した際の所見や、大久保忠邦氏に聞き取り調査を行った結果を含めている。

（１）主屋

木造切妻造平屋建、一部二階建瓦葺であったが、平成 13 年 5 月～7 月に金属波板葺に改修した。銅版画にも瓦葺ではない描き方（檜皮葺か）で描かれている。床面積 154.54 ㎡、二階面積 33.05 ㎡。



大久保邸全景（東から 右端が主屋）

江戸時代後期の建築と伝えられる。部材はやや細く、瓦葺に対応しない材料であったと思われる。チョウナ仕上げの梁などから近世の部材も残存していると考えられる。また大久保家所蔵品に寛政年間に幕府に提出した絵図があるが同一の間取りかどうかははっきりしない。平成 13 年の屋根改修時の記録写真に、棟束に「明治 36 年 9 月上棟 増改築」とある。昭和 19 年（1944）の東南海地震でも傾いたと伝えられ、何回かの改修を受けている。田の字形の平面で外側に広縁が一周する。南側は 8 畳の和室 2 つが並んでおり、西側の部屋は床の間も持つ。

太い根太や部屋ごとに異なるデザインの釘隠しなどの特徴がある。釘隠しの一部は淡海国玉神社のそれと共通する。

現在の玄関は東側の 1 か所のみであるが、本来は南側に正規の玄関があり、現在でも式台が残っている。朝鮮戦争のころ塞いだと伝えられる。銅版画にも主屋中央に玄関が描か

れている。この玄関は神官が正式に出入りするのためのものとされ、子供といえども通行を遠慮しなければならなかったという。もう1か所通用口もあったという。銅版画には主屋東側に片流れの建屋があり、通用口としての使用に利するような役割を持たせていたものであろう。

現在の玄関は三和土で踏み天井、高い框を持つ。玄関上部に二階を増築している。北東部の台所から上がるようになっており、曾祖父（※初太郎か）が書斎として使用するために昭和初期に改修したと伝えられる。

※聞き取りをしたのは忠邦氏なので曾祖父は忠利であるが、忠利は大正7年に没しているためここでの曾祖父は初太郎とした。

欄間には欄間飾りの代わりに檜が飾られている。

中二階には北西の部屋の押し入れから出入りするような構造になっており、隠し部屋としての機能を持つ。

（2）離れ

木造切妻造二階建垂鉛メッキ鋼板葺、一部瓦葺。床面積 60.59 m²、二階面積 17.05 m²。主屋と廊下でつながっている。便所が北側にあり、主屋と共有する。8畳の1室で西側と南側に広縁があり、北側に床の間を設ける。

春野が陸軍演習のために来訪した宮さまの休憩（宿泊）場所とするために増築したと伝えられている（「沿革誌」には大正5年（1916）3月1日から5日に久邇宮（邦彦王 明治6－昭和4 香淳皇后の父、当時陸軍少将・近衛歩兵第一旅団長。なお春野も明治30年[1897]に全く同じ階級・職についたことがある。）が滞在した記録が残る（ただし、春野は前年1月に死去している）。銅版画を見ると、もともと茶室のような建物があつたようである。さらにその北側に井戸小屋とおぼしき施設が見える。南側は庭石などが配置された庭園となっているが、現在も大きくは改変されていない。

（3）その他の構造物等・跡地

a 門 瓦葺、薬医問。礎盤付。間口7.65尺×奥行4.39尺。

b 長屋 木造切妻造平屋建て瓦葺。床面積 85.95 m²。東西に長い妻入りの建物で、現存する。画家福田半香のアトリエ「山静日長楼」もしくは大久保忠尚が開いていた私塾であつた可能性がある。

※福田半香は忠尚の曾祖父・長儀の娘である多美子の子である。

大きくは東西に分かれ、東側は和室3室で構成され、南西の部屋の西側に床の間を造る。西側の一画とは人一人が通れる程度の開口部をもって接続される。

c 蔵跡 「北の蔵」と「西の蔵」の2棟があつた。「西の蔵」は米蔵であつたと伝えられ、木造平屋建て、東向きの妻入りで漆喰仕上げと見える。北側に隣接して薪蔵があつたと伝えられる。現在も高まりが残り、コンクリートや石の一部が残る。「北の蔵」は家財収納用の蔵で、木造2階建て、東西に長く、南向きの平入りで漆喰仕上げの大型の蔵と見える。昭和50年代まで残っていたため写真資料も存在する。窓の格子には銃が使われていたという。現在も高まりが残り。

- d 温室跡 第一製茶場の跡地には半地下の温室が残る。庭全体にランやソテツがあるが、これらは曾祖父（初太郎）が研究していたからだという。
- e 石灯籠 山灯籠と春日灯籠各 1 基がある。春日灯籠は現在倒壊している。
- f 井戸
- g 池 主屋の北側にあり、コンクリート製。初太郎が造ったもので、自身が赴任していた瀬戸内海を模したものと伝わる。
- h 石碑（愛馬武峯之遺髪） 敷地南東隅にあり、花崗岩製。高さ 143 cm、幅 21 cm。大久保春野の愛馬「武峯」については、中村修二氏が大正 9 年（1920）に出版した大久保春野の伝記『大久保春野』によれば以下の通りである。（〔カッコ〕は後補）



「愛馬武峯之遺髪」石碑

頃は〔明治〕四十一年十二月のことなり。

〔大久保春野〕大將は韓国駐劄軍司令官と

して、將に任に朝鮮に赴かんとするや、数度の戦役に従って功勞淺からざる老馬武峯号を従えて、寒氣凜烈なる彼の地に、この上の勞役に服さしむるは、情の忍びざる処なりとて、該馬の養育を地方の有志に依頼せんとせしことあり。時の愛知県知事松井博士の斡旋により、この愛馬は遂に布袋町なる村瀬準次氏の愛護する処となりしが、愈々愛馬と別る日、大將は特に薩摩汁を與えて多年の勞を謝し、老の身の行末を案じて涙を流したりという。かくて金一封に添えて馬につけたりし履歷書を見んに

武峯号履歷

- 1 前所有者 陸軍大將男爵大久保春野
- 1 名称 武峯号
- 1 年齢 明治四十一年（二十歳）〔馬の平均寿命は 25 歳程度〕
- 1 毛色 栗毛
- 1 体尺 四尺九寸五分〔約 1.5 m〕
- 1 馬種 雜種
- 1 産地 下総国
- 1 別徴 珠目正髪中

明治二十六年（月日不詳）購買、明治二十七八年ノ戦役ニ従事シ、満洲ノ野ニ勤勞スルコト一ケ年凱旋後引続キ乗用シ、再び明治三十七八年戦役ニ従イ、満洲ニ馳驅スルコト二ケ年。凱旋後引続キ乗用シ、明治四十一年十二月二十七日村瀬氏へ譲ル。

（中略）

然るに、老の身の主に別れし武峯号は、村瀬氏の手によりて愛育せらるること半歳餘偶々病に罹りて、四十二年八月二十二日遂に死亡せしかば、村瀬氏は直ちに大將に訃電

を發し、二十三日神職を煩わして火葬を行いしに、大将よりは〔手紙 中略〕

後年大将は村瀬氏より送られたる愛馬の遺髪を携えて郷里見附に帰來し、只來山に清素なる別莊を営みけるが、その後丘に愛馬の碑を建て、「大久保大将愛馬武峯之遺髪」と題し、側面に刻したる和歌に

忘れじなその立て髪をふり乱し朝かげしたる沙河のほまれは
と記したりき。大将は又情の人たりしなり。

- i 石碑（堇園君碑） 高さ 180 cm 幅 90 cm。塔の壇公園への登り路の途中にあり、厳密には市有地に建つ。大久保忠尚の顕彰碑である。銘文は P122 参照。なお、かつてはこれに隣接して西南戦争の忠魂碑があったと言われている。この石碑は、現在、市内西貝塚の緑ヶ丘霊園に移築されて現存している。



西南戦争忠魂碑
（市内西貝塚）



主屋
南東から



主屋
東から



主屋
屋根改修以前
平成7年ごろ



主屋玄関 南東から



主屋南側和室
東から



主屋南西和室
南から
床の間に懸かるのは
渡辺小華の作
その右下には北の蔵
にあったというゲー
ベル銃が立て掛けら
れている



主屋北西和室
天井に隠し部屋
がある部屋



主屋南東和室
欄間飾りの檜



同上
釘隠し



主屋
小屋組



主屋
床下



主屋南東
2階増築部分
昭和初期か
初太郎氏書斎



離れ
南から



離れ
南西から



離れ
南側の庭園



離れ 1階
久邇宮邦彦王が
宿泊した室という



長屋
北東から



長屋
西から



長屋内部
東側・東から



門 昭和 50 年代



門 現況



明治期の
第一製茶場跡
昭和初期に造られた
温室の跡



北の蔵跡
南から



北の蔵（現存せず）
昭和 50 年代



西の蔵跡
切妻側（南）から



主屋北側の池 西から
コンクリート製 昭和初期か（初太郎氏）
瀬戸内海を模しているという



井戸



井戸



灯籠





「聖園君碑」

（表面）

董園君碑

董園大久保君碑銘 参議兼海軍卿海軍中将從三位勲一等伯爵川邨純義題額

離鄉千里經歲久遠死後尚使人追慕不已豈偶然哉董園君歿東京門人故旧建碑其鄉
 介人徵余銘余雖不識君亦有所感焉乃捫狀序之曰君諱忠尚幼称初太郎改長門後称
 縫殿助大久保氏董園其号考諱忠照妣青葉氏生君於遠江国磐田郡見附馭家世為淡
 海国玉神社祠官君甫四歲喪父為母氏所育母氏賢而嚴愛養教誨莫所不至君年十三
 入八木美穗氏門脩国学為人温厚謹慎而遇事則勇往果斷平生事母至孝嘗以事降黜
 家班資産頗衰祠亦大壞君深憂之及學成專守儉素數年如一日遂改造祠殿新築文庫
 多納和漢書会幕府末造風俗驕傲民情險惡妬人榮達君采地介幕邑間県官郡吏多忌
 害之而君毅然独立不阿諛亦不抗爭隱忍以待時萬延中家班復旧資産亦稍饒君嘗說
 采地民創儲蓄備荒法衆咸疑反其名自利頗有不平色後觀其有効始悅服明治中興王
 師東征君團結壯士名報国隊使男春野從之而自理其經費尋奉職三河裁判所明年轉
 兵部省至東京鄉人惜別咸有離慈母之恩七年還海軍主計大監叙正六位十三年為海
 軍少書記官所歷職務多所釐革十三年七月罹病九月十八日遂不起年五十六葬青山
 新阡 朝廷賜祭棗金三百円君初在鄉里雖俗務鞅掌而不廢文雅崇神道涉国書旁通
 漢籍好国雅博交都鄙名士又教授生徒遠近子弟薰陶其學德者甚衆鄉里父兄誠子弟
 以君為師表云配增井氏生三男一女女承後長男春野別起家為步兵中佐次官次郎天
 次直三郎出嗣增井氏鳴呼君學德事業如此宜矣鄉里故旧追慕不已建碑以永禋祀之
 也是雖由君質之美學之勉亦得非母氏教誨所致邪乃銘之曰

幼學壯行 入孝出忠 教誨有素 成德建巧 斯母斯子 可伝無窮

明治十八年十一月

東京大学教授正七位南摩綱紀撰 海軍少書記官從六位勲六等鈴木尚寛書

（裏面）

明治式十稔九月十八日建設

建碑發起人

柴田佐十 倉田治五兵衛 古田新六 渡辺武八 前嶋桂三郎 古沢長平 渡辺幸一郎

東京鱸猛麟鐫



男	明	世	為	支	護	聖	蓋	遠	此		
爵	治	世	我	族	國	武	柱	江	天	累	大
大	四	證	家	大	者	天	礎	國	龍	世	久
久	十	功	墳	久	我	皇	也	國	石	之	保
保	一	徳	塋	保	今	勅	寺	分	出	墓	家
春	年	也	之	家	方	造		寺	于		
野	七		鎮	用	新	以		廢	我		
誌	月		希	此	立	擬		址	郷		

銅板に記された墓誌

大久保家累世之墓（東京都港区南青山2丁目・都立青山霊園）

大久保忠尚・春野父子他が眠っている。

明治38年から2年間見付に滞在し、そのときの見聞を『見付次第』にまとめた山中共古は、国分寺の礎石の一つが中泉の川出氏邸で手水鉢として使われていると記しているが、これがその庭石ではないかと推定される。

山中共古「見付次第」明治40年 『見付次第／共古目録抄』後藤総一郎監修、遠州常民文化談話会編2000年

第2節 大久保家所蔵資料

大久保忠尚肖像画

油絵。左上に「O.TADANAO 1905」と記載がある。

大久保美遠子肖像画

油絵。左上に「O.MIOKO 1905」と記載がある。

2枚の肖像画は明治38年（1905）に描かれたものと推定される。美遠子は忠尚の妻で、前年の明治37年に亡くなっている。明治13年（1880）に死没した忠尚と比べ老婦人として描かれている。



大久保忠尚肖像



大久保美遠子肖像

椅子

木製布張り。四脚、コロ付。高さ 120 cm、座高 48 cm。

軽便消火ポンプ

金属製で長さ 131.5 cm、直径 6 cm。

鳶口

長さ 110 cm、直径 3 cm の木製の柄に長さ 14.5 cm の鉄製の引っ掛け部分を嵌めたものである。



大久保春野肖像写真

大礼服を着けた正装の写真である。

椅子

大久保春野写真

大久保春野軍服

大礼服である。

春野所用トランク

長さ 88 cm × 50 cm、厚さ 21 cm。木製のもので、鉄枠、革張りで表面には布が張られている。

ゲーベル銃

長さ 118 cm であるが銃床は復元したものか。



大久保春野所用杖

「台湾産最大万両蔓巻」の注記がある布製袋入り。長さ 91 cm、直径 5 cm。春野が明治 29 年（1896）に台湾掃討を行った際に購入したものと考えられる。和田三造贈呈杖 フランス産の蛇象嵌が施された木製杖。革紐付。長さ 87.5 cm、直径 2.5 cm。和田三造（明治 16 - 昭和 42）は日本の洋画家で、帝国美術院会員、東京美術学校教授、文化功労者。映画「地獄門」（昭和 28 年 [1953] 公開、衣笠貞之助監督、大映製作・配給）で第 27 回アカデミー賞衣装デザイン賞受賞。春野の娘英子と結婚。和田は巳年ではないが春野は巳年であることから、和田が明治 42 年（1909）に渡欧した際に舅のために購入し、贈ったものと考えられる。

大久保春野大礼服



上：和田三造贈呈杖
下：大久保春野所用杖

その他

古文書 絵図等

槍・銃

掛け軸 有栖川宮熾仁親王書

渡辺小華画

大久保春野勲章

蔵解体時の金具等



大久保家所蔵絵図

第5章 各種調査報告

第1節 建物の現況調査

(1) 目視による建物外部の破損状況調査とその原因

平成28年度に目視による状況調査を行った。

a 外部壁面・木部

外部の漆喰壁は維持的な修理により部分的に補修されているが、それ以外の箇所では各面とも汚損や亀裂が散見される。ただし、下地が露出するなどの看過できない破損は生じておらず、全体的に根本修理後の状況を良く保っていると言える。

これらの破損は、経年による僅かな建物の歪みや、下地の乾燥収縮、変形、弛緩、風力や地震力などの外力による変形、振動が主な原因となる。汚損は経年による汚れやカビが主な原因だが、雨樋の破損により壁面に直接雨水が流れるようになり、著しくも変色している箇所もある。亀裂は木摺や筋違などの下地材に沿って生じている箇所や、窓枠の角から斜めに生じる亀裂など下地材とは関係なく生じる亀裂がある。

補修された箇所の破損は比較的目立たないが、下地から塗直すような根本的な修理が施された箇所は少なく、大部分が上塗を塗り重ねるような簡易な修理だったと考えられ、壁が厚くなって石垣や窓枠との散（ちり＝材が不ぞろいな箇所）がなくなり、無理に合わせられているため、壁面が膨らんで見える箇所がある。

窓枠など外部の木部の塗装は全体に退色と塗膜の劣化が進行し、特に窓台や窓枠の下部、額縁など直射日光と雨と直接当たる環境条件の厳しい箇所は剥落が著しい。

石垣は目立った膨らみや変形は生じていない。しかし、一部に割損している積石があり、石垣上に回した基礎石は、層状剥離を起こしている箇所がある。積石の割れは構造的な要因が大きいと考えられるが、目視調査では特定が難しい。

b 内部

各階内部天井には雨漏りの跡がある。窓や塔屋の周辺から台風時などに雨が漏り、各階の床、天井を濡らしたようである。特に一階、二階の紙張り天井は、破損が目立っている。経年による全体の変色と雨漏りによる染み、剥離、皺が著しく、上紙が破れている箇所もある。また、オリジナルとは異なる紙、仕様で張り直されている部分もあって、美観を損ねている。

内部の漆喰壁は外部同様亀裂や汚れが各所に見られ、活用により生じた汚れや傷なども見受けられる。亀裂の主な原因は外部と同じであるが、汚損については外部と異なり、雨染みや利活用によるものが主である。例えば、階段手摺周辺の汚れなどは来館者の手スレによるものであり、建物に重大な影響を及ぼす破損ではないが、活用上やむを得ず生じる必然的な破損と言える。なお、内部の漆喰壁については維持的な小修理による塗り直しなどは確認できなかった。

床は大きな不陸は生じていないようであるが、経年による床板の摩耗、緩み、軋みがあり、

部分的な張り直しや修理がされている。

窓や扉などの建具は開閉が困難になっている箇所があり、雨水の吹き込みについても何らかの対策が必要である。

c 小屋組（屋根の構造、組んである骨組）・屋根及び床下など

3階の小屋組は、塔屋壁面の点検口から内部に入り、天井板の雨染みが著しい塔屋周辺の状況を確認した。雨漏りの明確な位置は特定できなかったが、小屋組と天井板上面の汚損は、塔屋直近ではなく、塔屋柱から0.5 m以上離れた付近に集中しており、塔屋と屋根銅板の雨仕舞に原因がなるのではないことが明らかとなった。屋根面を見ると、塔屋屋根の雨落位置に軒樋の受け金具から落ちた錆が点々と付着しており、小屋内の雨染み位置とほぼ一致することから、屋根勾配が緩いため逆水が差したか、あるいは屋根銅板が電蝕により破損した可能性が考えられた。なお、小屋組や野地板（屋根の下地材）の腐朽は確認できなかったが、雨漏りを生じている箇所では野地板の上面は腐朽が進行している可能性がある。なお、屋根の銅板葺は、塔屋からガラス窓越しに観察しただけなのではっきりしないが、破損などはないようであった。

一階床下は懐（空間）がなく、内部に入れなかったため点検口から状況を確認した。床下地盤は概ね乾燥しており、雨水等が流れたような水性堆積物は確認できなかった。床組材は表面に若干カビのような付着物が見られたが、腐朽は生じていないようであった。ただし、建物の背面側は、後述するように湿潤な状況にあるため、土台等の腐朽が予想される。

（2）建物の保存に影響をおよぼすと思われる周辺状況について

建物は南面傾斜地を切土して高さ2 mの石垣を築き、その上に南面して建つため、正面は非常に日当たりが良い。反対に背面は日当たりが悪く、しかも東西2か所に非常階段が設けられ、中央西寄りに近接してトイレが建てられているため風通しが悪い。

これに堅樋の破損が相乗し、雨水が十分排水されず、常に湿潤な環境となっており、漆喰壁の足元部分がカビと苔により著しく汚損している。外観観察では分らないが、この付近の壁下地や土台、柱の足元が腐朽していることが予想される。

なお、この堅樋は樋受金具のところで穴が開いており、漏れた雨水が樋受金具の柄を伝い、直接壁面に流れ落ち、漆喰壁を汚損し、周辺地盤に水溜りをつくっている。樋の破損原因は鉄製の樋受金具に銅製の樋を使用しているため電蝕を起こしたと推定される。

（3）目視調査結果

解体を伴わない範囲で目視により調査を行った。

内部は各階で天井、壁また開口部まわりに雨染みがみられる。早急な対策が必要である。外部は西面、北面、東面では漆喰壁を塗直した跡や、ひび割れが見られる。石垣の玉石には一部割れが見られるが、大きな破損は見られない。

a 1階

- ・1階床に点検口が1か所確認できた。

床下は懐が狭く、湿気が多く感じられるが、木材の腐朽は確認できた範囲では見られない。

- ・天井紙は破れたり、たわんだりしている部分が見られる。
- ・開口部の天井、まわりに雨染み及びひび割れが見られる。

b 2階

- ・天井紙は破れたり、たわんだりしている部分が見られる。
- ・開口部下に雨染みが見られる。

c 3階

- ・天井板に雨染みが見られる。
- ・天井板に破損および雨染みが見られる。
- ・漆喰壁にひび割れが見られる。

d 塔屋1階

- ・天井板に雨染みが見られる。
- ・小屋裏において塔屋と屋根境界部に雨染みが見られ、軸組、野地板や天井板に雨染みが多数見られる。

e 塔屋2階

- ・開口部下の漆喰壁のひび割れが見られる。
- ・天井に雨染みが見られる。

f 屋根

- ・屋根銅板に塔屋 軒樋受金物の錆による汚損が見られ、電蝕の恐れがある。
- ・玄関屋根の瓦に経年による劣化が見られる。
- ・塔屋屋根の葺足（屋根を葺く際の板や瓦のずらし）が乱れている。

g 外部

- ・石外を構成する玉石に一部で割れが見られる。
- ・玄関手摺下の基礎石の表面が剥離している。
- ・全般的に塗装がはがれている。
- ・外壁が膨らんでいる。塗り直した部分と考えられる。
- ・外壁の一部を塗り直した跡が見られ、またひび割れが見られる。
- ・外壁脚部にカビが生じている。
- ・隅石の色が落ち、外壁に黒い汚れが見られる。
- ・樋から漏れた水により外壁が汚れている。

（４）保存修理工事の方針

史跡旧見付学校は、現況調査により緊急を要する修理や大規模な修理を行わなければならないほど破損していないことが判明した。しかし根本修理から40年余りが経過し、建物内外部の各所で看過できない破損が生じており、維持的な小修理では十分な機能回復が図

れない状態になりつつあることは明らかである。

また、一方で郷土の歴史や文化を学ぶ場として小中学校の課外授業等により活用が図られており、教育施設としての高い安全性も求められる。このため、破損した箇所の小規模な修理を行うとともに構造診断を実施し、地震や台風などの自然災害時における安全性を検証し、問題があれば文化財として適切な補強を施す必要があると考えられる。診断の結果を待たなければ明確な回答は出来ないが、建物の現況から判断すると何らかの補強は必要と思われる。

以上を踏まえ、建物の安全性を確保する耐震補強工事と建物の機能と美観を回復し、文化財的な価値を維持するための保存修理工事を合わせた事業が必要と考えられる。

なお、耐震補強を行う場合、文化財的価値を損なわないよう目立たない補強を行おうとすれば、ある程度建物を解体しなければならない。この場合、どの程度建物を解体する必要があるかによって自ずと修理の範囲が限定されてくるが、補強と直接かかわらない箇所を国庫補助事業で修理する場合は、耐震対策事業ではなく、保存修理事業となるので、補強案がある程度固まると同時に保存修理事業で進めるのか、耐震対策事業で行うのかを選択しなければならない。

（５）工事概要

建物を覆う素屋根を建設し、雨漏りしている屋根の銅板葺を葺替える。外部漆喰塗は修理前に詳細な調査を行って亀裂や剥離状況を精査し、破損状況に応じた修理仕様を定めて塗り直す。剥落が著しい外部の塗装は木部まで搔落し、下地から塗り直す。

内部の漆喰塗と木部塗装は、極力搔落しを行わず、必要に応じた修理仕様を定め塗り直しを行う。１・２階及び塔屋の紙張り天井は、在来に倣って上紙を新たに製作し、すべて貼り直す。

このほか床・天井等木部の破損箇所は補修し、開閉が困難になっている上げ下げ窓は分銅の調整を行い、雨水の吹き込みについては対策を講じる。

（６）耐震診断計画

a 資料調査

これまでに作成された資料を確認し、耐震診断に必要な情報を確認する。工事中の写真や当初図面、これまでの修理時に作成された図面等を整理し必要な情報を得る。

b 構造目視調査

構造部材についての目視調査を行う。柱や小屋梁等の軸組部材や壁の構造性能に関わる破損について目視にて確認する。

建物に不陸が生じていないかの確認を行うために、水平器を用いて不陸調査を実施する。また柱の傾斜を実測する。

c 非構造部材目視調査

非構造部材についての目視調査を行う。壁の漆喰や屋根葺材等の非構造部材の破損について目視にて確認する。

d 構造検討用実測調査

構造検討に必要な図面（構造図）を作成するために、実測を行う。既存の図面を参考に解体を伴わない範囲で、構造図を作成するのに必要な実測を行う。

e 構造図作成

実測結果を用いて、耐震診断に必要な構造図を作成する。

f 壁内部仕様調査（非破壊）

壁内部の筋違いの配置を確認するために、まず赤外線カメラを用いて、壁内の筋違いの位置を調査する。ただし本建物では外壁部に瓦が貼られ、その上に漆喰仕上としている。

そのため瓦が干渉して、赤外線カメラによる調査が難しい可能性がある。本調査前に試験撮影を行い、調査が難しいことが判明すれば、赤外線調査は中止する。

またX線撮影し、軸組の接合金物の有無を確認する。

g 壁内部仕様調査（一部解体）

部分的に壁を解体し、壁、筋違、柱脚部等の仕様を直接確認する。600mm × 600mm の範囲で3か所程度確認する予定である。仕様の判る箇所がある場合や非破壊調査で仕様が判明する場合は、部分解体は中止する。

h 構造実験

外壁は瓦の上に漆喰を塗った例が比較的少ない仕様である。本建物の外壁仕様に合わせた壁試験体を作成し、載荷実験を行って壁の性能を把握し、構造診断に用いる。試験体は3体程度を予定する。

i 構造診断

旧見付学校は重要文化財の指定を受けた建造物ではないが、国指定史跡の指定地内に存する歴史的建造物であることから、文化庁の「重要文化財（建造物）耐震診断指針」（平成24年改正）に基づいて基礎診断を実施する。付近の活断層や過去に生じた地震動について調査を行った上で、構造診断を行う。

本建物は3階建である。高次モードの影響を考慮しづらく、限界耐力計算を適用することが難しい。よって時刻歴応答解析を用いた検討を行う予定である。

時刻歴応答解析に用いる地震波は告示波（建築基準法 告示 1461 号に示される工学的基盤における加速度応答スペクトルに適合する模擬地震動時刻歴）を想定している。この告示波を3波作成する予定である。

- ・ 付近の活断層、過去の地震履歴の調査
- ・ 資料、調査実験結果の収集整理、荷重の算出
- ・ 建造物のモデル化の検討
- ・ 構造解析
- ・ 必要構造性能と保有構造性能の比較

」 補強案作成

構造診断の結果として構造性能が不足する場合は補強案の検討を実施する。補強案は建物の文化財的価値を考慮しながら、必要に応じて複数の案を提示する。

- ・ 構造補強案の策定
- ・ 補強後の構造解析

第2節 植生調査

(1) 調査の目的

旧見付学校保存活用計画作成にあたり、周辺の植生調査を実施し、自然景観の保全及び計画的な整理による改善を図ることを目的とする。

(2) 調査範囲

調査範囲を、下図に示す。



図 植生調査範囲図

(3) 調査方法および調査実施日

対象範囲の植生、巨樹、利活用での支障木、危険木、景観及び眺望阻害などの観点から自然的環境を把握するとともに、文化財、住宅と隣接する樹林地であることから、令和3年10月から12月にかけて防災面の観点からも樹木状況の把握を行った。

(4) 植生調査結果

a 植生調査

現地調査の結果、図に示す通り、旧見付学校などの建物や造成地である「建物等」が全体の約3割を占めた。サクラ類を中心とした花木などが植栽されている「植林地(植栽)」と、定期的に草刈りされている「草地(乾性)」を中心とした植生となっている。

このほか、調査地北西部の塔之壇公園ではシイ類を中心とした常緑広葉樹が優占し、その西側に落葉広葉樹林と竹林が存在する。

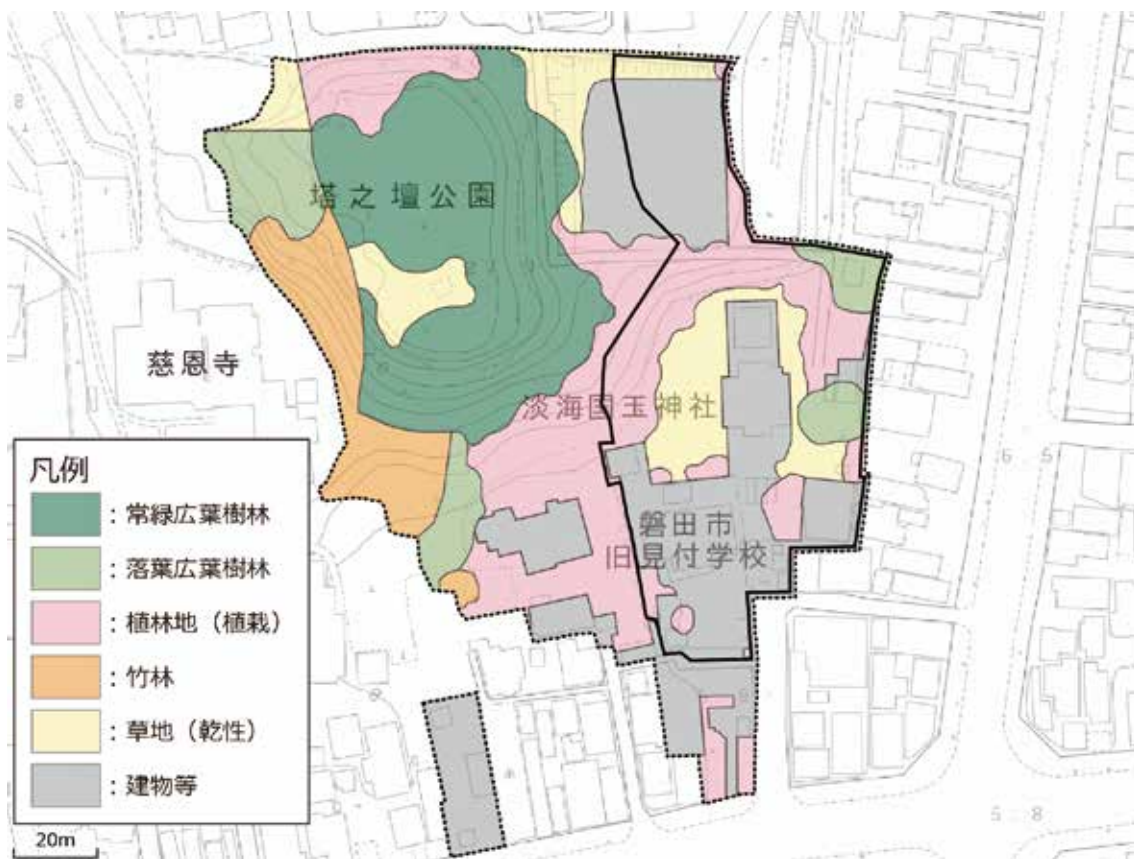


図 相観植生図



①常緑広葉樹林

シイ類の高木を中心とした環境で、自然植生に近い環境となっている。



②落葉広葉樹林

ムクノキ、エノキを中心とした環境で定期的に管理されており、低木（ナンテン・アジサイ等）や草本（ハラン・フラサバソウ・ヤエムグラ）は植栽されているものが多く確認された。



③植林地（植栽）

サクラ類を中心にサザンカ類、アジサイ類、ツツジ類などの花木が植栽されており、スギ、サカキ、ナギなど神社によく植栽されている植物も多く確認された。

草本はハラン、シランなどが確認された。

④草地（乾性）

定期的に草刈りされているため、メリケントキンソウ、マメカツミレ、スズメノカタビラ、ホトケノザ、ナズナ、ウラジロチチコクサなどの草丈の低い植物が多く確認された。

b 見付の名木

「いわた環境マップ」（磐田市 2002 年）をもとに、現地調査を行った。その結果、見付の名木として選定されている樹木が、指定区域および周辺で確認された。見付の名木の確認位置は図 53 に示すとおりである。

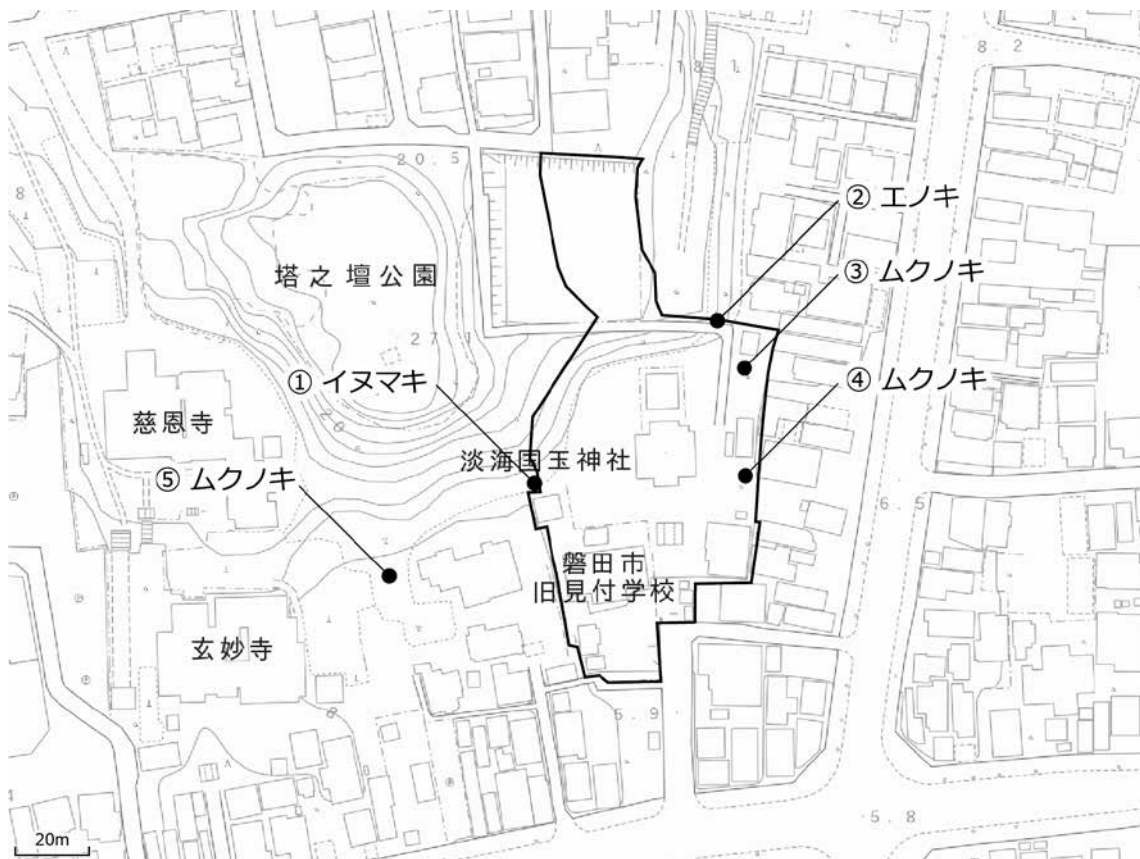


図 見付の名木位置図

①イヌマキ

磐田文庫に面した南側には、擁壁が設置されている。

斜面崩落により樹根が露出しており、倒木の危険性がある。



②エノキ

淡海国玉神社の北東、指定区域の境界部に生育する。

枯損した枝があり、落枝の危険性がある。





③ムクノキ

淡海国玉神社の北東、指定区域の境界部付近に生育する。

枯損した枝があり、落枝の危険性がある。



④ムクノキ

淡海国玉神社の東側、指定区域の東端付近に生育する。

幹の中心部に亀裂があるほか、枯損した枝があるため、落枝の危険性がある。



⑤ムクノキ

大久保邸の西端付近に生育する。枯損した枝があるため、落枝の危険性がある。



c 支障木・危険木調査

（1）支障木

- ①樹根の影響 樹根の伸張や根上がりにより、石積みや舗装のき損などの影響がある。
- ②眺望阻害 樹木などが旧見付学校などの建造物を隠し、眺望阻害などの影響がある。
- ③交通障害 差点部での眺望阻害、根上りによる歩行阻害（車椅子等を含む）などの影響がある。
- ④植物、建物への影響 竹の分布が拡大することにより、植栽された植物を被圧して枯らす、建物内に侵入して建物を痛めるなどの影響がある。

（2）危険木

- ①倒木による建造物のき損 建造物と隣接するエリアは、倒木により文化財のき損につながる可能性がある。
- ②倒木、落枝による事故 人の利用を前提とした文化財の指定区域では、利用者の安全確保のための樹木管理が求められる。

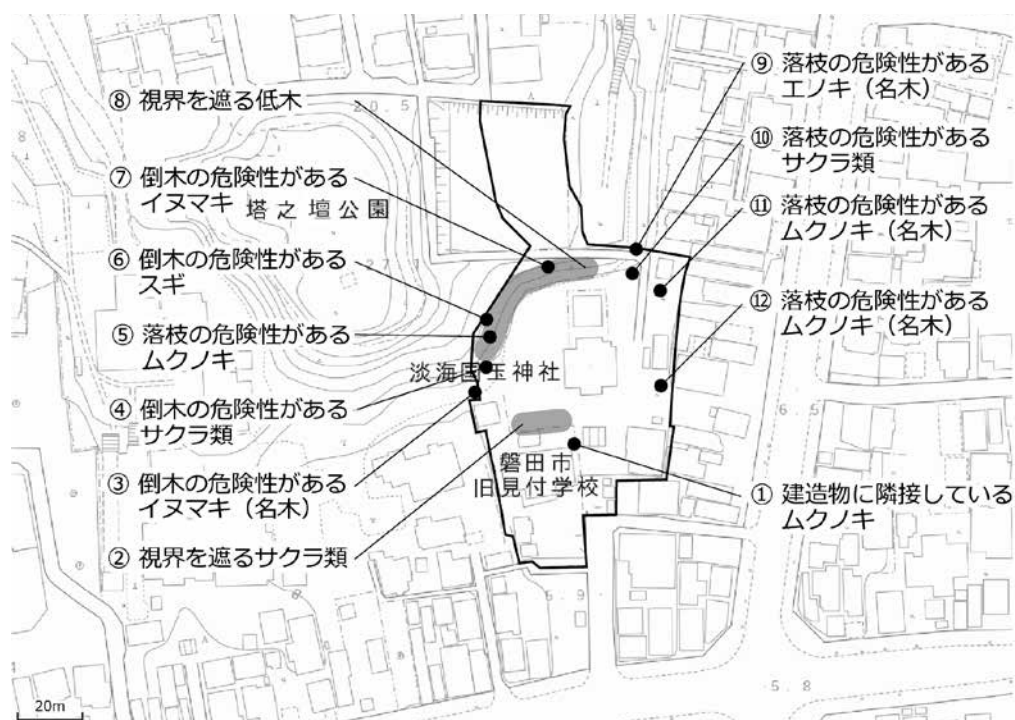


図 支障木・危険木分布図（１）



①ムクノキ

根上りによる舗装の亀裂、石積みへの影響



②サクラ類

サクラ類による眺望阻害



③イヌマキ

倒木による建造物への影響



④サクラ類

倒木・落枝による事故の危険

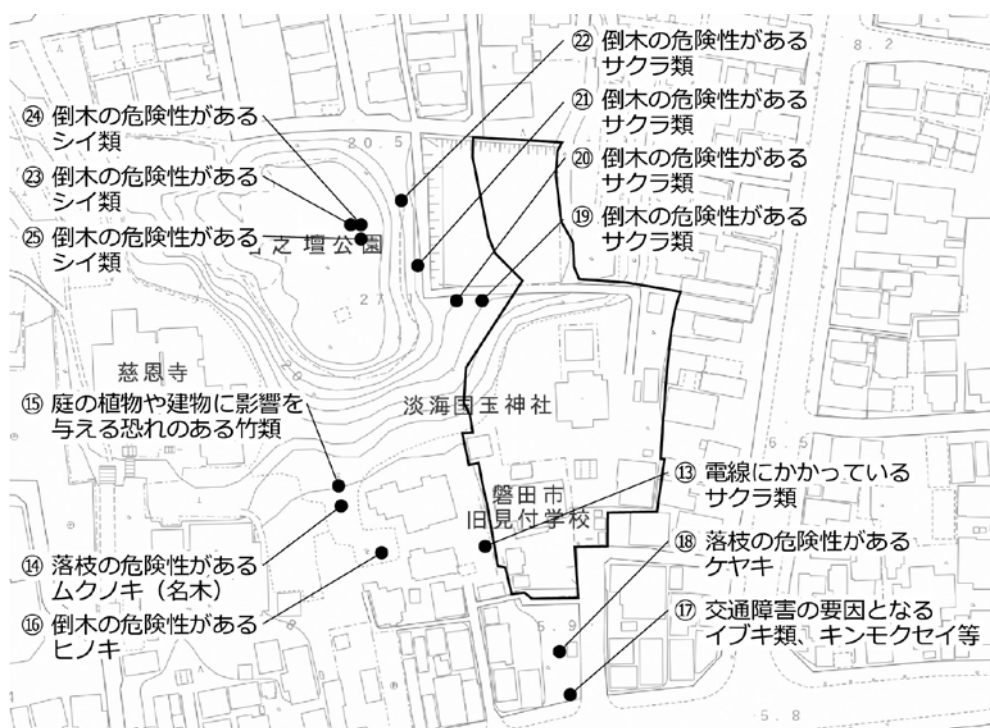
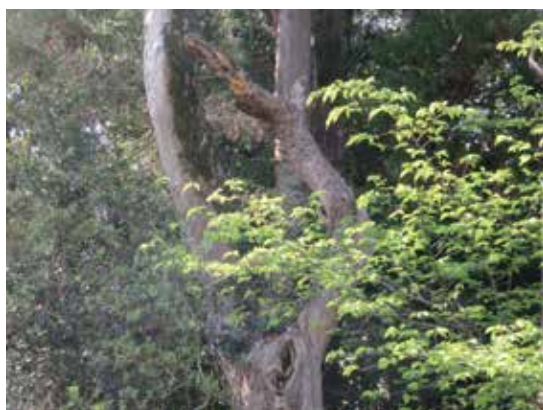


図 支障木・危険木分布図（２）



⑤ムクノキ
落枝による事故の危険



⑥スギ
倒木による建造物の影響および事故の危険



⑦イヌマキ
倒木・落枝による事故の危険



⑧低木
低木による眺望阻害



⑨エノキ
落枝による事故の危険



⑩サクラ類
落枝による事故の危険



⑪ムクノキ
落枝による事故の危険



⑫ムクノキ
落枝による事故の危険



⑬サクラ類
電線に枝がかかっている



⑭ムクノキ
落枝による事故の危険



⑮竹類
庭の植物や建物に影響を与える恐れがある



⑯ヒノキ
倒木の危険性があるヒノキ



⑰イブキ類、キンモクセイ等
交通障害の要因となる



⑱ケヤキ
落枝による事故の危険



⑲サクラ類
倒木・落枝による事故の危険



⑳サクラ類
倒木・落枝による事故の危険



②①サクラ類
倒木・落枝による事故の危険



②②サクラ類
倒木・落枝による事故の危険



②③シイ類
倒木による事故の危険



②④シイ類
倒木・落枝による事故の危険



②⑤シイ類
倒木による事故の危険

d 樹木位置調査

調査範囲の樹木位置は図 56 に示すとおりである。詳細な樹木位置及び樹種については資料編に添付した。



図 樹木位置図

e 大久保邸植生調査

大久保邸の植物について、令和3年10月8日に管理者である伊藤敦之氏にヒアリング調査を実施し、大久保家に伝わるエピソード及び大庭俊司氏が以前に調査した結果を反映した。主要植物の概要は以下の通りである。



①クロマツ（黒松）

明治時代の銅版画には3本の松が描かれているが、2本は枯死し、1本だけ残っている。当邸で最古の大木と思われる。



②ゴヨウマツ（五葉松）

日本の固有種だが東北・四国・九州の山地に生える。盆栽としても人気がある。

大正5年に浜松で行われた陸軍の演習時、久邇宮邦彦王から賜ったお手植えのマツと伝えられている。



③ハマヒサカキ（浜姫榊）

サカキと同じモッコク科で、ヒサカキはサカキより分布が広く、玉串の代用品とされているという（ただし、ハマヒサカキはサカキよりさらに分布が狭い）。浜辺に多い木でこの名が付いている。初冬に白い花が咲き黒い実がなる。この木はハマヒサカキとしては最大級のもの。

本州では愛知県以西と千葉県に分布。



④アコウ（榕）

紀伊半島や四国南部、九州以南など温暖な地方に自生し、街路樹や防風樹としても利用されている。巨樹・古木は国の天然記念物に指定されているものもある。この地に生存しているのは極めて珍しい。

クワ科。実はイチジクに似て食用になる。



⑤ダイオウマツ（大王松）

北アメリカ南部原産の大型のマツで、庭木などとして利用されている。葉は太い枝に密生し、長さ20～40cmの針形で3本ずつ束生し、長く垂れ下がる。



⑥リュウゼツラン（竜舌蘭）

南・北アメリカの熱帯域に自生する。ラン科ではない。葉・花は食用になる。花茎を煮詰めた甘味料はメキシコではテキーラの原料として使われるほか、観葉植物としても利用される。60年に一度だけ花を咲かせて枯死してしまう。開花期は大きいもので高さ10mにもなり数千の花をつける。



⑦カナリーヤシ（一椰子）

アフリカ西海岸側に位置するカナリア諸島原産のヤシで、公園などに植えられている。他で見るヤシと比べて葉が硬くて尖っている。風が吹くと枯れた葉が落下して危険。



⑧カキノキ（柿の木 品種名：テンリュウボウ）

カキノキの園芸品種（静岡県原産）で、各地で栽培され果樹として販売されている。一本の木に甘柿と渋柿が混在しているめずらしい柿の木。一説によると受粉すると種が出来て甘くなり、受粉しないと渋柿のまま種もない。渋柿のほうが多く、部分的に甘いものもある。



⑨ムクノキ（棕の木）

銅版画にも描かれている古い大木。見付の名木に指定されている。実はムクドリやハトなどの大きめの鳥の好物。

f 石垣の植生調査

旧見付学校の石垣に生育している植物について調査した。石垣に樹木が生育して生長した場合、根が石垣を壊す可能性があるため、定期的な管理によって石垣に生育した植物を除去することが望ましい。

石垣の植物には、石垣に対する影響が大きい木本系の植物と影響が少ない草本系の植物があるが、実生の段階でこれらの植物を判断するのは困難な部分もあり、植物が小さいうちに石垣に生育した植物を抜き取りによって駆除することが望ましい。

根が深く侵入して抜き取りが困難な場合は茎・葉部分の刈り取り、若しくは除草剤による駆除などの対策があるが、人が多く集まる場所であることから除草剤を使用する場合は石垣の表面への付着を避け、石垣の中に浸透するような方法で散布することが望ましい。

以下に石垣で生育が確認された主要植物を示す。



①ナンキンハゼ（南京櫨）

中国原産。旧見付学校周辺の街路樹や公園樹として利用されている樹木で、キジバト、カラス、ムクドリなどの鳥によって種子が散布される。高木性であることから生長すると石垣に対する影響が大きい。



②ムクノキ（椋木）

旧見付学校周辺に自生する落葉広葉樹で、種子は甘く、ムクドリ、ツグミ、メジロなどの鳥によって種子が散布される。高木性であることから生長すると石垣に対する影響が大きい。



③マツ属の一種（松）

旧見付学校周辺にも植栽及び自生する樹木で、風によって種子が散布される。高木性であることから生長すると石垣に対する影響が大きい。



④ヒノキ（檜）

旧見付学校周辺にも植栽されている樹木で、風によって種子が散布される。高木性であることから生長すると石垣に対する影響が大きい。



⑤アカメガシワ（赤目櫨）

旧見付学校周辺にも自生する落葉広葉樹で、ヒタキ科の鳥が好んで食べ、種子が散布される。高木性であることから生長すると石垣に対する影響が大きい。



⑥ヤブソテツ属の一種（藪蘇鉄）

旧見付学校周辺にも自生する常緑のシダで、胞子の飛散によって繁殖する。石垣に生育していたため葉の形状が矮小化しており、胞子のうも確認出来なかったことから、ヤブソテツ属の一種とした。草本であることから石垣に対する影響は少ない。



⑦イノモトソウ（井の許草）

旧見付学校周辺にも自生する常緑のシダで、胞子の飛散によって繁殖する。草本であることから石垣に対する影響は少ない。



⑧ニチニチソウ（日々草）

マダガスカル原産の園芸植物で、人などによって種子が媒介される。日本では一年生草本であることから石垣に対する影響は少ないと思われる。

キョウチクトウ科で毒性のあるアルカロイドが含まれる。



⑨シラン（紫蘭）

ランの一種で4月から5月に紫紅色の花が咲く。環境省のレッドデータにおいて準絶滅危惧種（NT）に指定されているが、園芸種としても広く栽培されており、各地で園芸用の個体が生育している。本個体も周辺の花壇からの種子の飛散によって定着したと思われる。



⑩ツボクサ（壺草）

セリ科の植物で心葉形の葉身。花期は夏で、淡紅紫色の花弁を付ける。見付学校周辺にも生育している。周辺からのほふく茎によって石垣に侵入した可能性がある。



⑪ドクダミ（葎）

ドクダミ科の多年草。古くから薬草として利用されている植物で見付学校周辺にも自生している。地下茎若しくは種子の飛散によって石垣で繁殖している可能性がある。



⑫ムラサキカタバミ（紫片喰）

南アメリカ原産の植物で、幕末に鑑賞用として輸入され各地で栽培された個体が帰化して繁殖している。鱗茎によって非常に旺盛に繁殖する。春から初夏に桃色の花が咲く。見付学校周辺にも自生している。



⑬カニクサ（蟹草）

フサシダ科に属するツル性のシダ植物で、中部地方以南のアジア地域に広く分布する。胞子の飛散によって繁殖する。ツルに見えるのは葉で、その葉が長く成長していく。茎は地下にある。見付学校周辺にも自生している。

g 斜面崩壊及び外来種

指定区域と隣接する西側の斜面では土壌が流亡し、一部でオーバーハングしている箇所が確認され、斜面下部の磐田文庫や民家などへの倒木による影響が想定される。また、塔之壇公園入口付近の階段の一部に崩壊が確認された。塔之壇公園からの雨水が階段上を洗掘し、土壌流亡によって階段の一部が壊れたのではないかと推測される。

斜面崩壊および階段の崩壊箇所、および外来種であるメリケントキンソウが確認された位置は、図 57 に示すとおりである。

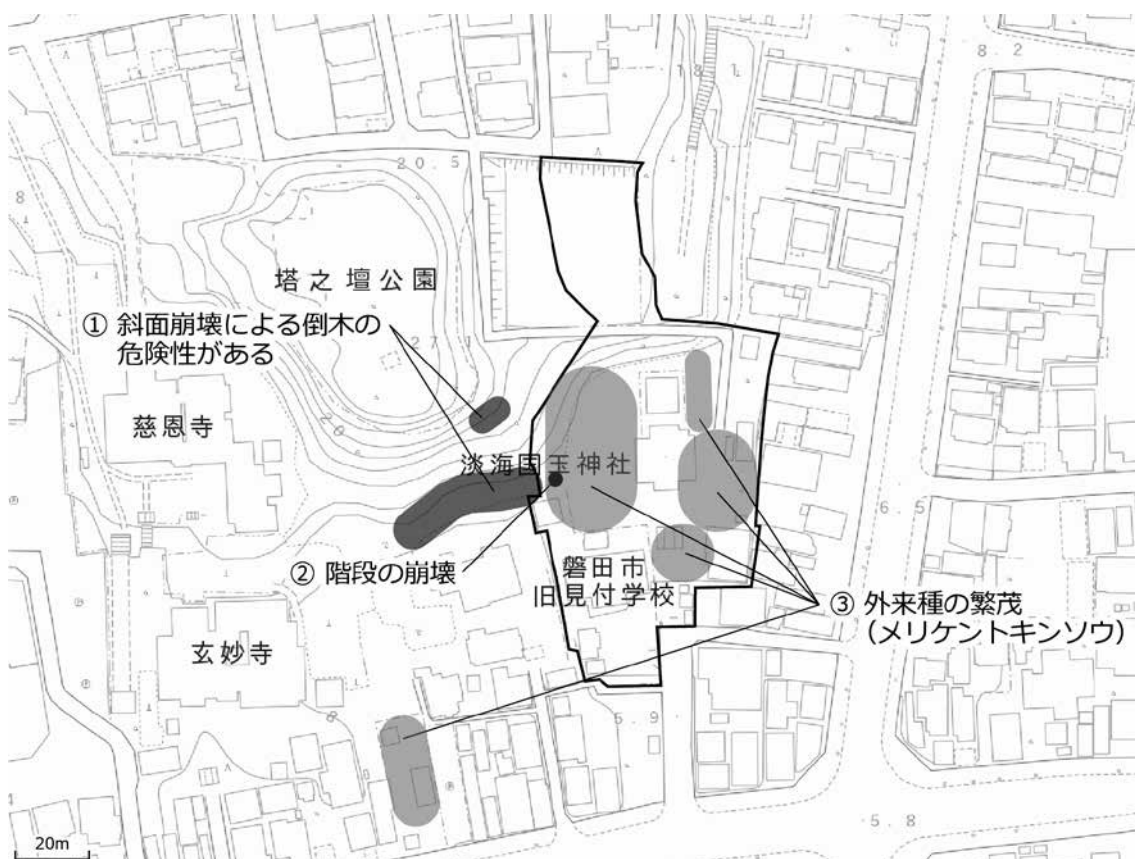


図 懸念箇所位置図

①土壌流亡による倒木の危険

斜面に位置する樹木の根元が洗堀され、倒木、斜面崩壊の危険がある。



倒木危険箇所（１）・（２）

②階段の崩壊

階段に沿って窪んだ地形であり、雨水による土壌流亡によって階段の一部が壊れたのではないかと推測される。そのため、排水路を設けるなどの対策によって、洗堀を防止できる可能性がある。



倒木危険箇所（１）・（２）

③メリケントキンソウ（一吐金草）

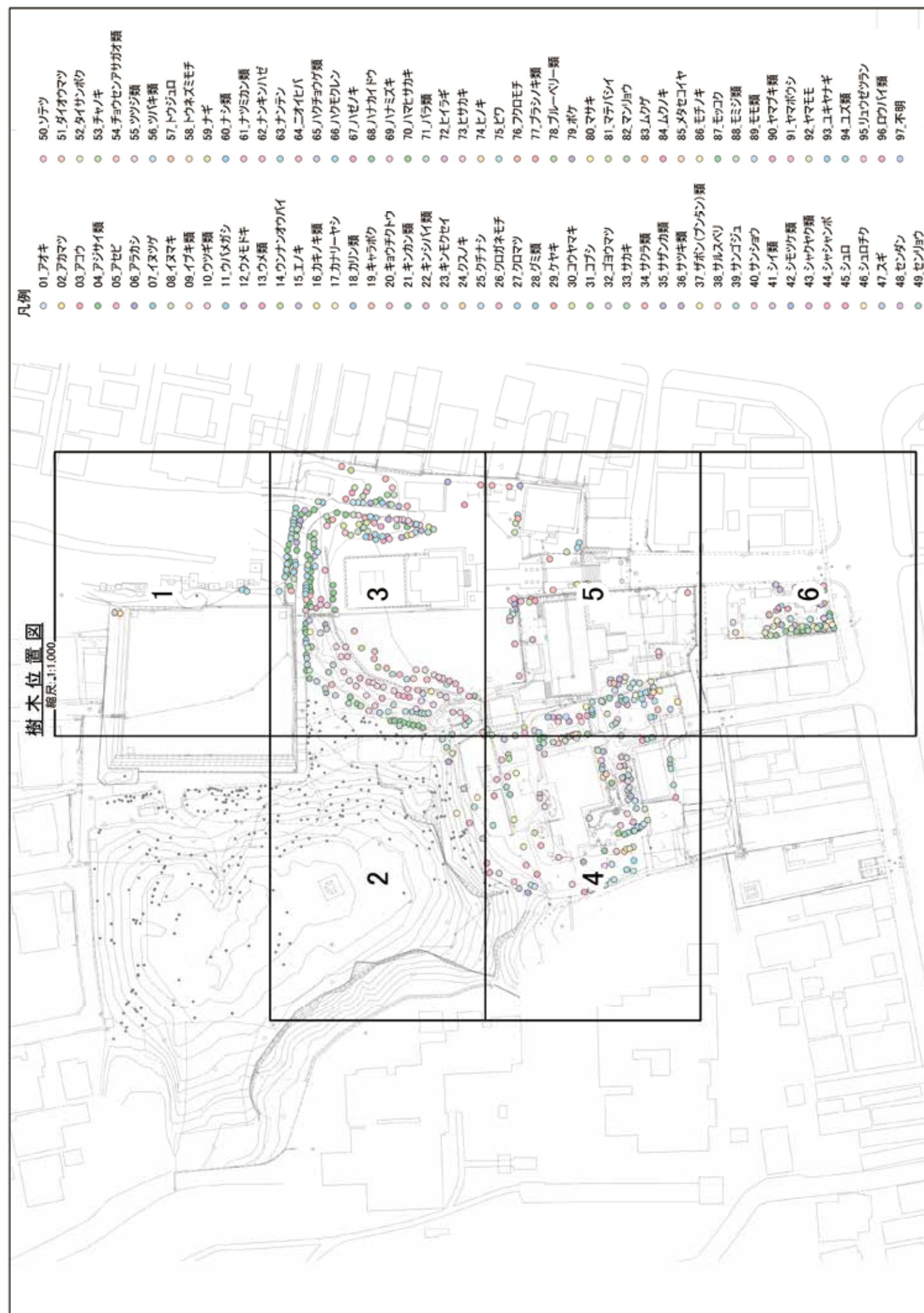
南米原産。キク科の一年草で、草丈は５～１０ｃｍ、地面を這うように生える。

４月に花が咲き、５～６月に種実がなる。外来生物法の「特定外来生物」ではないが、種実には硬く鋭いトゲがあり（無毒）、怪我をするおそれがある。



メリケントキンソウの花 メリケントキンソウの実

県内でも公園等で確認されている。淡海国玉神社周辺の草地などにおいて、メリケントキンソウが一面に繁茂しており、林縁部などの草丈が高いところでは、確認されなかった。



- 凡例
- 02_アカマツ
 - 41_シイ類
 - 56_ツバキ類
 - 63_ナンテン
 - 75_ビワ



1 / 6 ページ

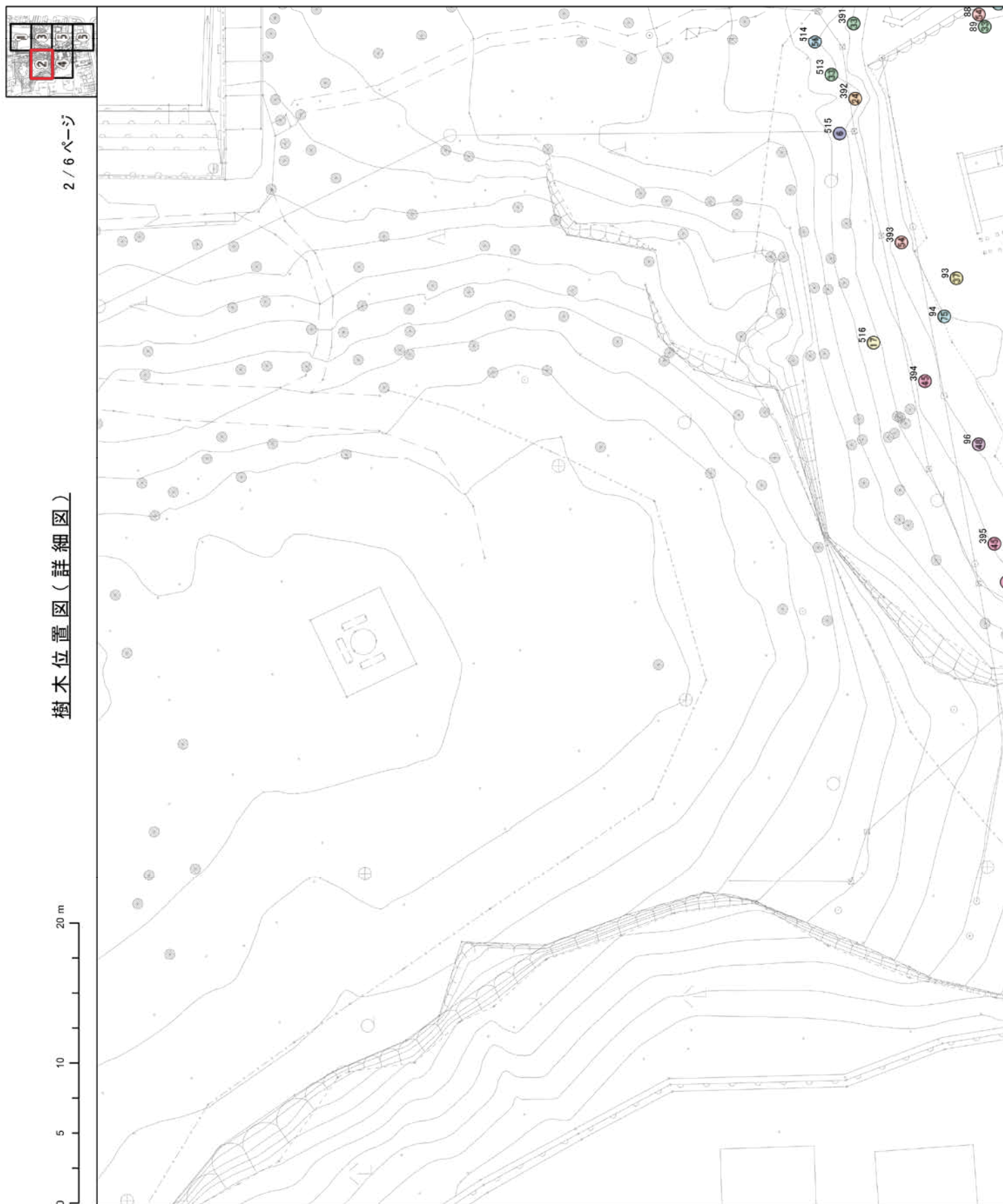
樹木位置図（詳細図）

0 5 10 20 m



注) O内の数字は「種名No.」、O外の数字は「樹木No.」を示す。

- 凡例
- 06. アラカシ
 - 17. カナリーヤシ
 - 24. クスノキ
 - 33. サカキ
 - 37. ザボン(フンタン)類
 - 39. サンゴジュ
 - 45. シュロ
 - 48. センダン
 - 54. チョウセンアサガオ類
 - 56. ツバキ類
 - 75. ビワ



注) ○内の数字は「種名No.」、○外の数字は「樹木No.」を示す。

凡例

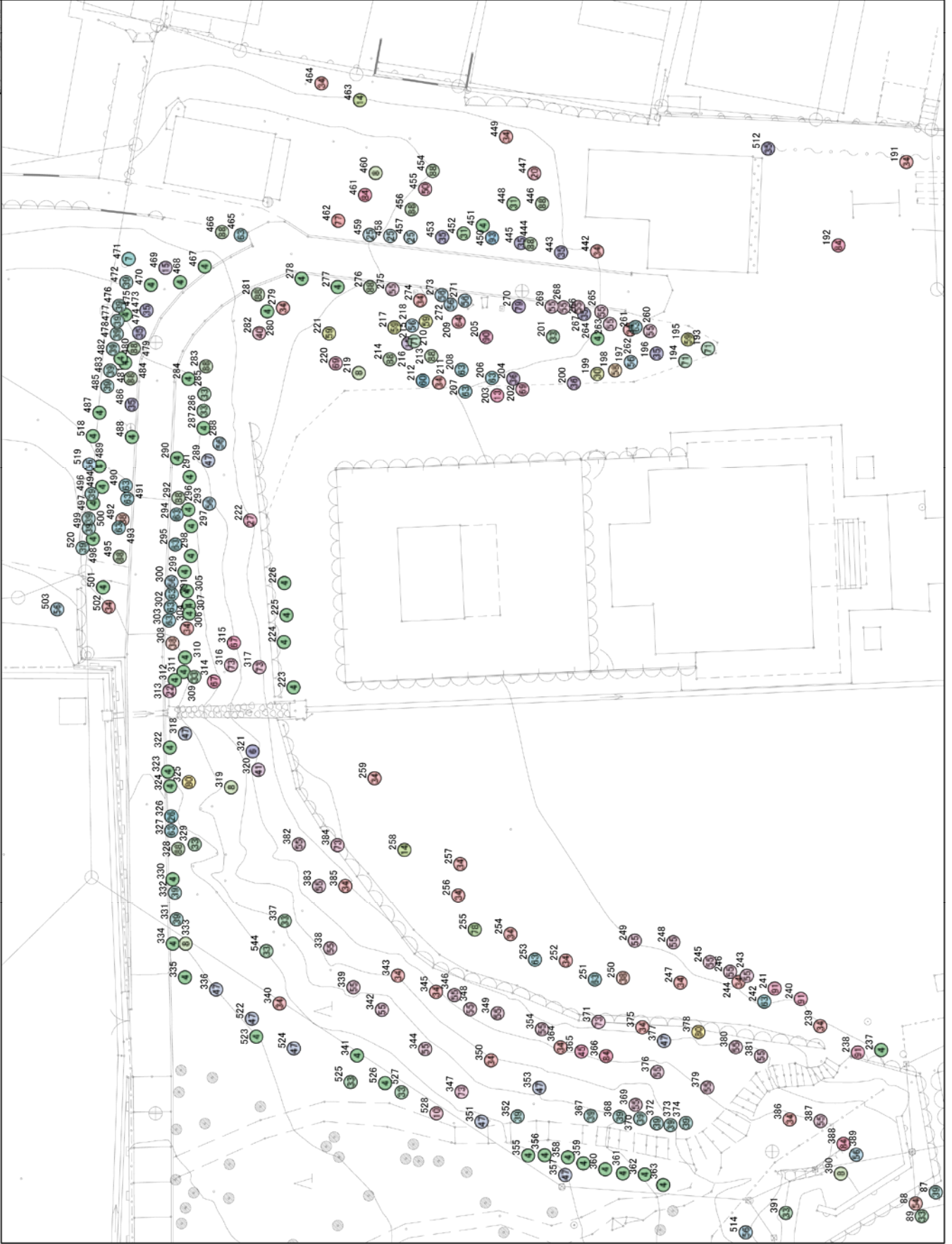
- 04. アジサイ類
- 06. アラカシ
- 07. イヌツゲ
- 08. イヌマキ
- 10. ウツギ類
- 13. ウメ類
- 14. ウナンナウバイ
- 15. エノキ
- 20. キョウチクトウ
- 22. キンシバイ類
- 25. クチナシ
- 26. クロガネモチ
- 28. グミ類
- 30. コウヤマキ
- 31. コブシ
- 33. サカキ
- 34. サクラ類
- 35. サザンカ類
- 36. サツキ類
- 38. サルスベリ
- 39. サンゴジュ
- 40. サンショウ
- 41. シイ類
- 45. シュロ
- 47. スギ
- 50. ソテツ
- 54. チョウセンアサガオ類
- 55. ツツジ類
- 56. ツバキ類
- 58. トウネスミモチ
- 59. ナギ
- 60. ナジ類
- 63. ナンテン
- 64. ニオイヒバ
- 67. ハゼノキ
- 69. ハナミズキ
- 71. バラ類
- 73. ヒサカキ
- 77. プラシノキ類
- 78. ブルーベリー類
- 79. ポケ
- 80. マサキ
- 84. ムクノキ
- 88. モミジ類
- 90. ヤマブキ類
- 91. ヤマボウシ
- 93. ユキヤナギ



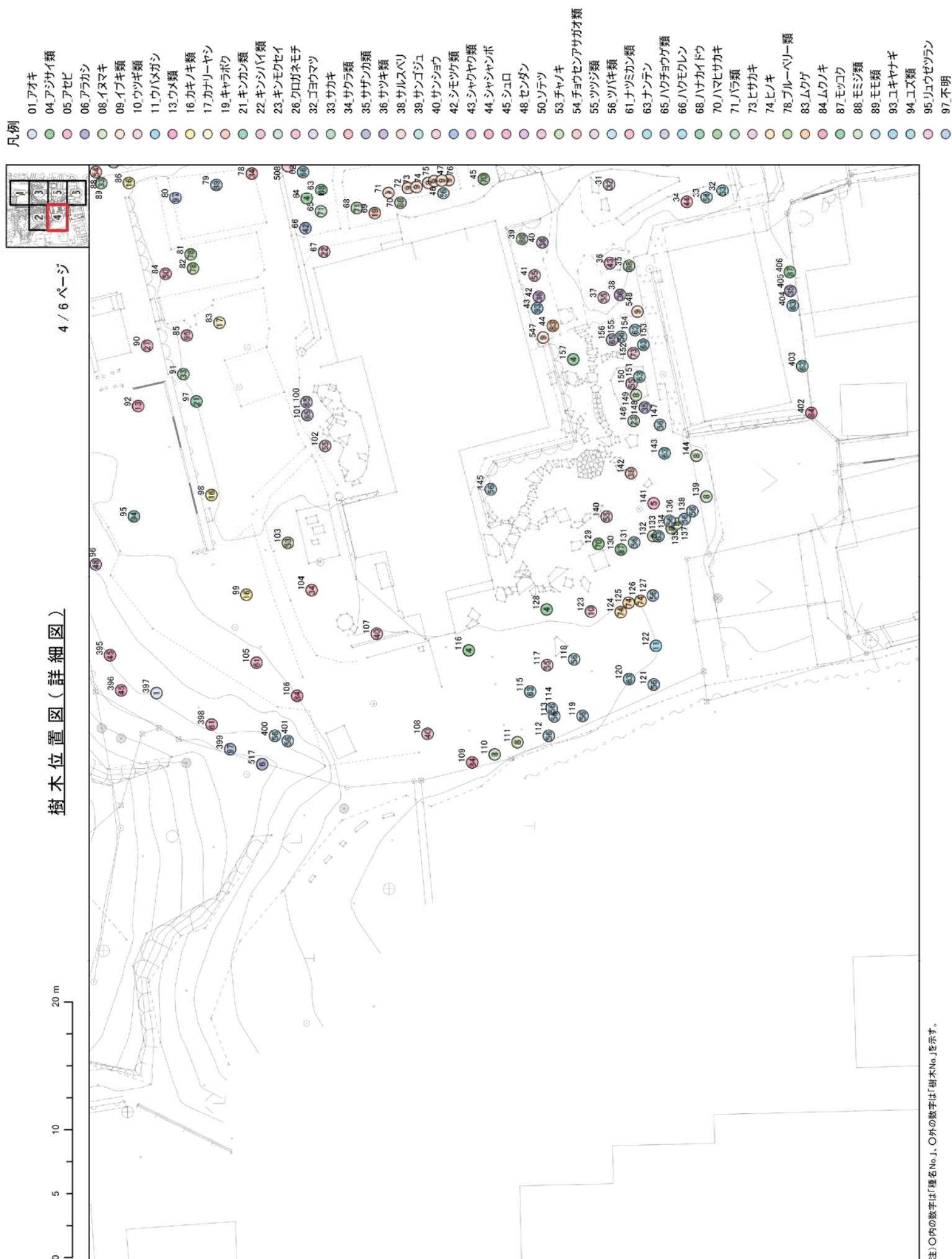
3 / 6 ページ

樹木位置図（詳細図）

0 5 10 20 m



注：○内の数字は「種名No.」、○外の数字は「樹木No.」を示す。



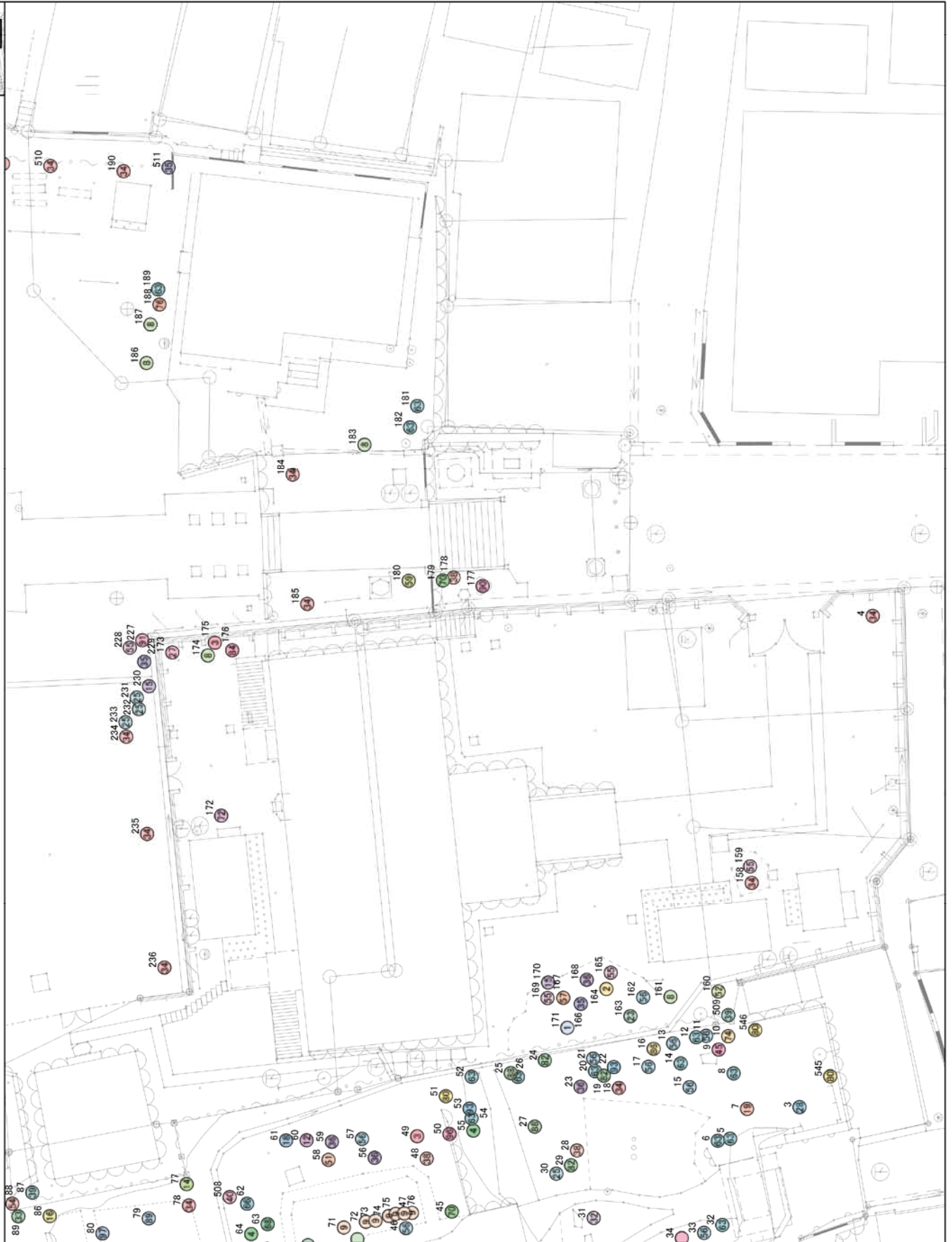
凡例

- 01_アオキ
- 02_アカマツ
- 03_アコウ
- 04_アジサイ類
- 08_イヌマキ
- 09_イブキ類
- 12_ウメモドキ
- 14_ウナンナウハヤ
- 15_エノキ
- 16_カキノギ類
- 18_カリン類
- 19_キヤラボク
- 23_キンモクセイ
- 25_クサナシ
- 26_クロガネモチ
- 27_クロマツ
- 32_コヨウマツ
- 33_サカキ
- 34_サクラ類
- 35_サザンカ類
- 36_サツキ類
- 38_サルスベリ
- 39_サンゴジュ
- 40_サンショウ
- 44_シャヤンボ
- 45_シユロ
- 51_ダイオウマツ
- 52_タイサンボク
- 54_チヨウセンアサガオ類
- 55_ツツジ類
- 56_ツバキ類
- 57_トウジユロ
- 59_ナギ
- 63_ナンテン
- 66_ハクモクレン
- 68_ハナカイドウ
- 70_ハマヒサカキ
- 71_バラ類
- 72_ヒイラギ
- 74_ヒノキ
- 76_アコウモチ
- 80_マサキ
- 82_マンリョウ
- 84_ムクノキ
- 86_モチノキ
- 88_モミジ類
- 89_モモ類
- 90_ヤマブキ類
- 91_ヤマボウシ
- 93_ユキヤナギ
- 96_ロウハヤ類
- 97_不明

樹木位置図（詳細図）

0 5 10 20 m

5 / 6 ページ



注：○内の数字は「種名No」、○外の数字は「樹木No」を示す。



樹木台帳(集計)

■種名別

種名 No.	種名	集計(本)
1	アオキ	2
2	アカマツ	2
3	アコウ	2
4	アジサイ類	68
5	アセビ	1
6	アラカシ	4
7	イヌツゲ	5
8	イヌマキ	19
9	イブキ類	11
10	ウツギ類	2
11	ウバメガシ	1
12	ウメモドキ	1
13	ウメ類	2
14	ウンナンオウバイ	3
15	エノキ	4
16	カキノキ類	3
17	カナリーヤシ	2
18	カリン類	1
19	キャラボク	2
20	キョウチクトウ	1
21	キンカン類	1
22	キンシバイ類	2
23	キンモクセイ	4
24	クスノキ	3
25	クチナシ	7
26	クロガネモチ	3
27	クロマツ	1
28	グミ類	1
29	ケヤキ	1
30	コウヤマキ	1
31	コブシ	2
32	ゴヨウマツ	1
33	サカキ	13
34	サクラ類	39
35	サザンカ類	14
36	サツキ類	14
37	ザボン(ブント)類	1
38	サルスベリ	7
39	サンゴジュ	22
40	サンショウ	4
41	シイ類	2
42	シモツケ類	2
43	シャクヤク類	1
44	シャシャンボ	1
45	シュロ	5
46	シュロチク	2
47	スギ	9
48	センダン	1
49	センリョウ	3
50	ソテツ	2

■樹形別

樹形	集計(本)
高木	160
生垣	8
中木	313
低木	54
低木寄植	13
合計	548

■種名別

種名 No.	種名	集計(本)
51	ダイオウマツ	1
52	タイサンボク	1
53	チャノキ	1
54	チョウセンアサガオ類	2
55	ツツジ類	43
56	ツバキ類	39
57	トウジュロ	1
58	トウネズミモチ	1
59	ナギ	6
60	ナシ類	1
61	ナツミカン類	2
62	ナンキンハゼ	2
63	ナンテン	41
64	ニオイヒバ	1
65	ハクチョウゲ類	4
66	ハクモクレン	1
67	ハゼノキ	2
68	ハナカイドウ	1
69	ハナミズキ	3
70	ハマヒサカキ	3
71	バラ類	5
72	ヒイラギ	1
73	ヒサカキ	6
74	ヒノキ	4
75	ビワ	2
76	フクロモチ	1
77	ブラシノキ類	1
78	ブルーベリー類	3
79	ボケ	1
80	マサキ	5
81	マテバシイ	2
82	マンリョウ	3
83	ムクゲ	1
84	ムクノキ	8
85	メタセコイヤ	1
86	モチノキ	1
87	モッコク	2
88	モミジ類	21
89	モモ類	1
90	ヤマブキ類	3
91	ヤマボウシ	4
92	ヤマモモ	2
93	ユキヤナギ	4
94	ユズ類	1
95	リュウゼツラン	1
96	ロウバイ類	1
97	不明	2
合計		548

第3節 石垣調査

(1) 三次元計測実施内容報告書

【目的】

建物直下の基壇である石垣部分の健全性の評価を目的とする、詳細な三次元による計測を令和2年度に実施した。

また、激甚化する災害の備えとして、万が一の被災に備え、復旧の際の参考として用いる事が可能な、三次元データの記録保存も目的としている。

各三次元データは、基準点の測量を併せて実施して公共座標での管理を行った。

【スキャン前準備】

移動可能な物はスキャン前に移動を行った。

計測に必要なマーカー 精度の検証に用いるマーカーを貼付しトータルステーションにて座標を取得した。



【スキャン作業】

レーザーでのスキャン作業は、基準点測量を行った後に球体ターゲットを設置し、取得点群データから既知点情報の定義を可能とした。



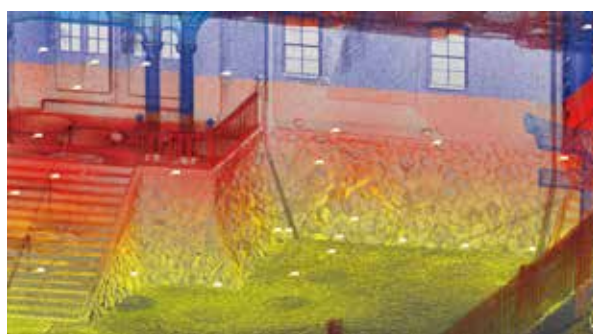


高所からのスキャン作業状況



低所からのスキャン作業状況

高所、低所スキャン位置（三角がスキャン位置）点群色段彩



【位置合わせ（レジストレーション）】



平面機械位置 点群キャプチャ画像
（三角がスキャン位置）



俯瞰機械位置 点群キャプチャ画像
（三角がスキャン位置）

【成果レポート】

分解能設定：10 m @ 12.6mm

スキャン数量：91 スキャン

カラーデータの取得：HDR

基準球（ターゲット）誤差平均：3.7mm

合成誤差平均：2.92mm

合成結果レポート 一部抜粋（データ内 PDF 収蔵）

スキャン毎に表示色分けを行い、水平位置で断面表示を行い誤差や配置のエラー確認を行った。

データのズレなどのエラーが無い事を最終確認した。

Project report

Date: 日 3 28 2021 16:01:31
Build with: Z+F LaserControl 9.0.3.28978
Project: 202102hwata1
91 of 91 scan positions used for registration.
91 of 91 scans registered.

Registration results of the targets, with respect to the total station data.

3 of 17 enabled targets whose deviations are greater than the defined threshold 7.0 mm

Total number of targets	17
Number of disabled targets	0
Average Deviation	3.70 mm
Standard Deviation	3.47 mm
Maximal Deviation	10.99 mm

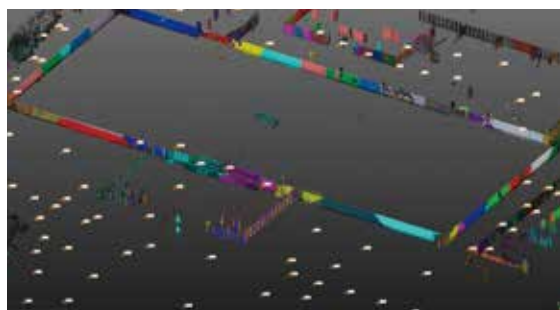
Registration results of the targets (91 scans).

0 of 17 enabled targets whose deviations are greater than the defined threshold 7.0 mm

Total number of targets	17
Number of disabled targets	0
Average Deviation	2.92 mm
Standard Deviation	2.02 mm
Maximal Deviation	6.49 mm

Quality standard deviation of the cloud to cloud registration

0.333 mm



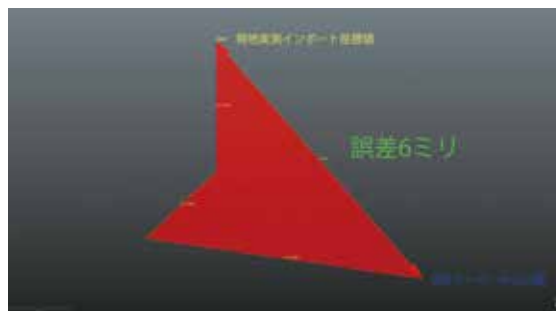
【合成処理後の検証点の確認】

現地石垣部分に、南側3点北側2点の点群で視認可能なコーナーターゲットを貼付しスキャンを行った。

コンピューター上で展開された点群データ上のターゲットの中心座標と、現地でトータルステーションを用いて実測した座標値の誤差をそれぞれに確認を行った。



検証点1 点群での確認



検証点1 誤差の表示

	検証点 1	検証点 2	検証点 3	検証点 4	検証点 5
誤差（ミリ）	6 ミリ	3 ミリ	16 ミリ	6 ミリ	10 ミリ

仕様書では 20 ミリ以内の規定範囲にいずれも収まった

【ノイズ処理及び分類作業】

仕分け前



分類した樹木など非表示



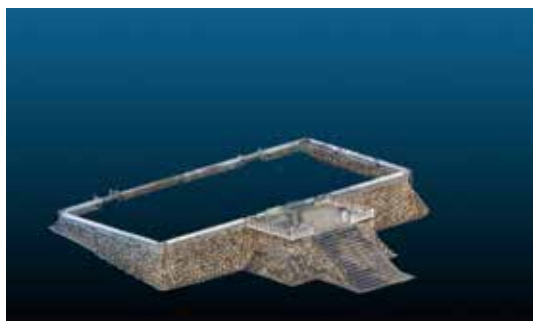
柵や詰所建物など非表示



建物部分非表示



石垣部分のみ



建物裏側から 仕分け前



樹木など非表示



付帯外階段 トイレなど非表示



建物部分非表示



石垣部分のみ



【三次元画像解析】

石垣の面的な観察（のちに必要となるトレース図）の作図に必要なオルソ画像の作成を目的として、三次元画像解析も併せて実施した。

【使用機材】

カメラ本体：SONY 社製
α 9 フルサイズセンサー

レンズ：ZEISS BATIS
18MM F2.8

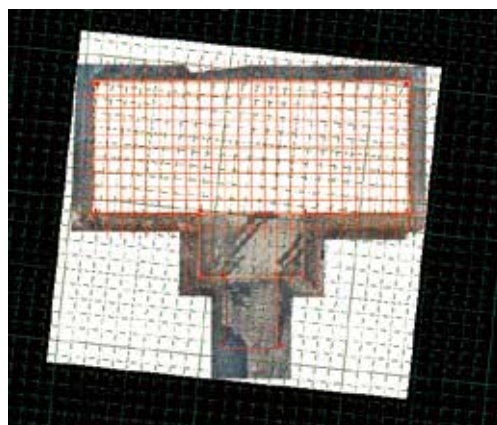
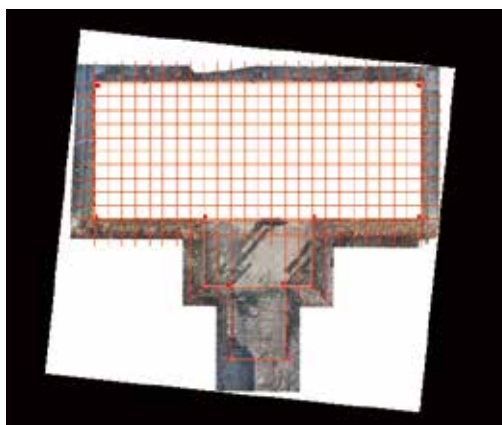
撮影数量：2,423 枚 RAW

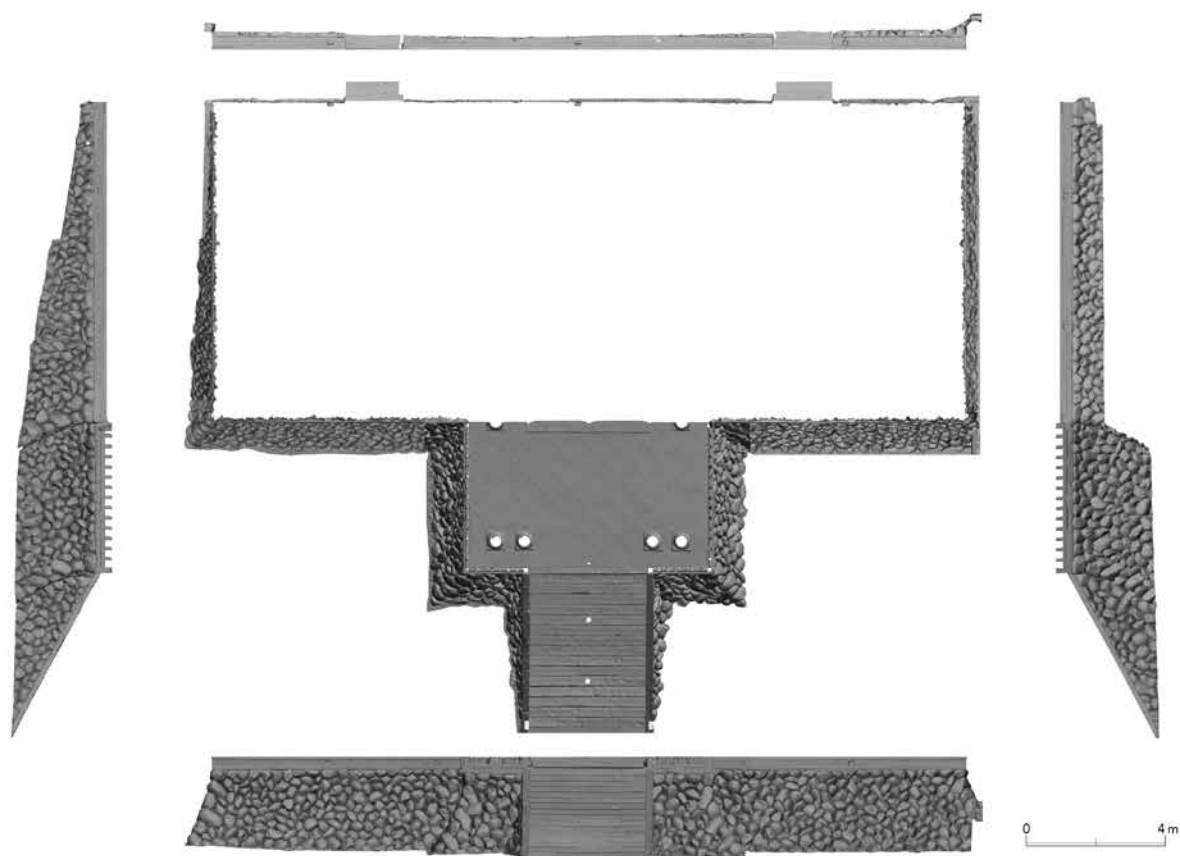


RAW 現像処理には adobe 社 LightRoomClassic を使い JPEG 形式にて書き出し処理を行った。三次元画像解析に必要な、ターゲット（対空標識）各立面に 4 点以上の配置を行いトータルレーションによる実測を行った。（解析成果レポート添付）

平面直角座標（緑色グリッド）から、約 6 度斜めに建築されているが、建築当時は磁北を基準としていたものと思われる。

仕様書に基づき、各石垣の立面ごとに SP を設定した（赤色グリッドは 0.909 m ピッチ）





オルソ画像（平面図と四面の立面図）

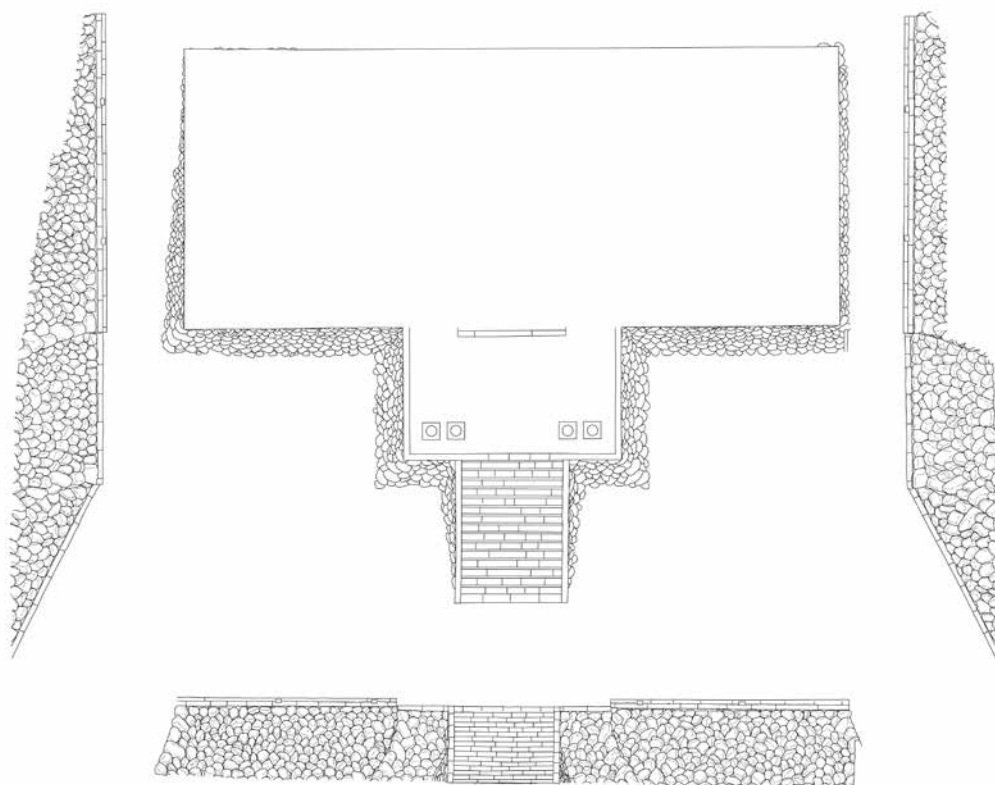


図 オルソ画像の浄書図面

（２）目視調査

基礎について、目視によりひび割れや破損等の劣化調査を令和３年度に行った。

石垣

もっとも下部の石は石垣よりやや外側で、現地表面と同一面まで埋められており、石垣の一部であるとわかるものは少ない。やや細長い石を建物のラインに沿って並べている。大きさはその上の石垣の最下段目に当たる石と比べて明らかに見劣りがするが、下部の状況はわからない。また基礎石の下部について

は平成 28 年度の消防設備改修工事中に撮影された写真に南東隅の石の下部にさらに大型の石が埋置されていることがわかるので、少なくとも 80 cm 程度の掘り込み地業を施していると考えられる。

現状ではこの基礎石を最下部として積み重ね、石垣を構成していることがわかる。石の長軸を上下として、斜め上に突き刺すように積まれていると思われる。石は 30 ～ 40 cm 前後のものが多く、選択性が認められる。角部分などに 60 cm 程度や 80 cm を超えるものもわずかに用いられている。昭和 49 ～ 51 年度の解体工事の図面を見ると、最上段の石の上には小石が載せられ、その上に乗る基礎石の安定化を図っていることがわかる。



昭和 49 ～ 51 年度石垣上部検出状況



石垣上端検出状況



石積み の 例



平成 28 年度工事立ち合い写真
に写った石垣下部の石

石表面の剥離は建築以前か以後か断定できないため、観察の対象外とした。ただし、少なくとも1点は剥離した部分に隣接した場所も今後剥離の可能性があり、明らかに建築以後に剥離したと思われる石があった。

石垣に影響を及ぼす形で破損している石は認められない。破損面がある石のほとんどは隣接する石と接しており、石積みにあたって加工した痕跡と理解できる。ただし、7点（赤色箇所）の石で他の石と接していない部分で破損した痕跡のあるものがあり、建築以後に破損したと考えられる。

また、多くの石にはひびが認められた。ただし、石のほとんどは堆積岩で、層理が多く見られるため、建築以後に顕在化したものかどうかは判断できない。

これらについては図 59 に位置を示した。

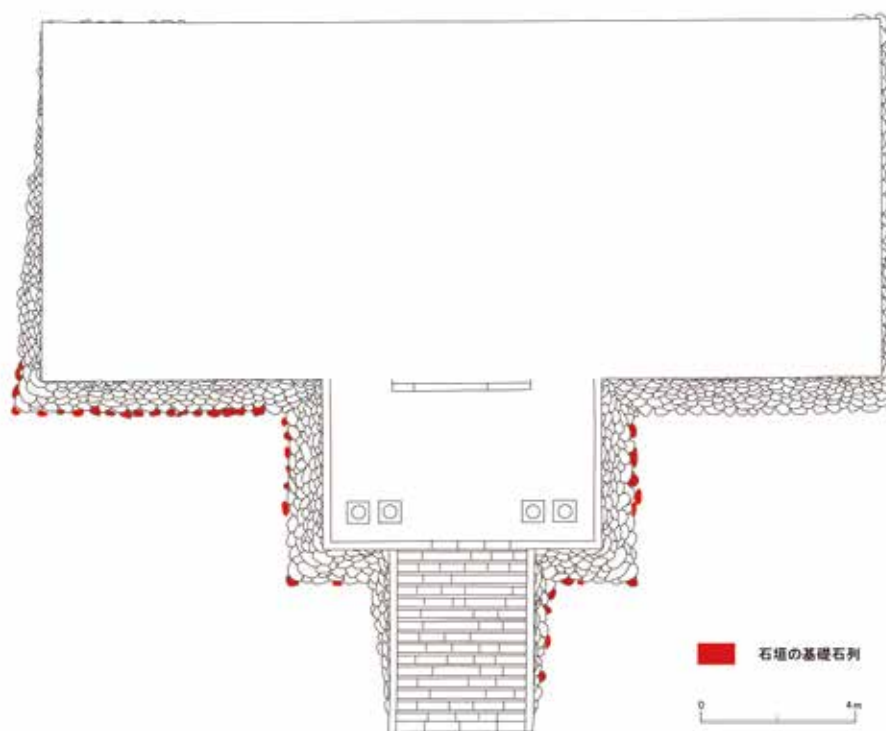


図 現状で確認できる基礎石列

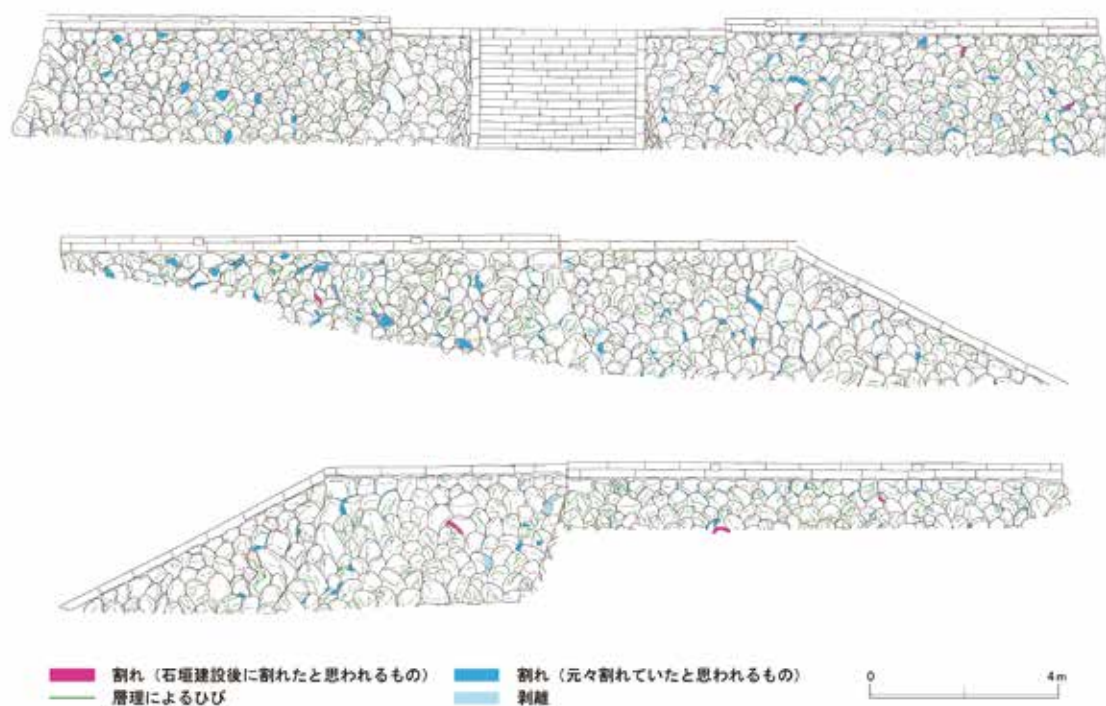


図 石垣構成礫の破損状況



基礎石列



基礎石列



破損石



破損石

石の隙間には一部にセメントや三和土で埋められた痕があるが、ごく一部である。それ以外の場所では草本類の繁茂が多く認められる。大半はシダやカニクサなどのシダ類である。

石のずれや膨らみなどは認められなかった。



破損石



植物の繁茂状況



植物の繁茂状況

基礎

石垣上に凝灰岩の棒石を並べたものである。石垣の石は、基礎石と接している面がなるべく平坦になるよう、また小石を補填して荷重が偏らないよう丁寧に配置していることがうかがえる。石のいくつかで脆弱化、砂粒化した箇所が見られる。凝灰岩の建築物には多く見られる現象である。

石段

建物の基礎石を基準とすると、東側の袖石は下に向かって西に約 1.5° 傾いている。これが建築時のものか、その後の経年変化によるものかはわからない。幅 21 cm、高さ 15 cm で長さは 83 cm のものが最も長い。同一企画の棒石を切断して調節しながら設置したものであろう。袖石も同じである。西側の袖石はほぼ垂直になっているが、南西最下段の石がわずかに傾き、ずれているのが観察できた。おそらく経年によって劣化したものと考えられる。

石段の石は硬く風化しにくい安山岩であるが、中段付近の石の一部でたわみが認められる。2 段程度であるが、直下の地盤が沈下した痕跡と思われる。表面はいくつもの滑らかな凹みを持つ面となっており、長い年月の間に多くの人々の通行によってできたものであると考えられる。なお、最下段の石のみは凝灰岩（大谷石）で、後補かと思われる。



石段袖石南西のずれ

第4節 地盤調査

（１）地形・地質概要

磐田市は静岡県の西方に位置し、天竜川が太平洋に注ぐ左岸、太田川が注ぐ右岸に位置している。天竜川は、長野県八ヶ岳にその源を発し南に流下し、河口付近では扇状地・それに続く三角州を形成する。太田川も同様な地形を形成しており、調査地はこれら河川が形成した複合扇状地地形の上にある。さらに古い扇状地地形は現在河岸段丘（台地）として認められ、見付付近は河岸段丘の最も南縁に位置している。旧見付学校の北西側が斜面となっているのはこの河岸段丘の段丘崖にあたっているためである。

調査地は、段丘崖とそれに続く新しい時代の泥炭地（細粒土層）が分布している箇所にあたる。

これら地形を形成する自然現象は古い土石流である。したがって構成する地質は、礫・砂を主体とする水成碎屑物（砂礫）である。また、複合扇状地では、自然堤防並びに後背湿地の形成も伴うために、薄層の細粒土層を混入していることもある。渡辺二三彦が提示した太田川低地の地形分類図には、泥炭地が存在することが記載されているが、渡辺はこれが海水準が現在の位置に落ち着く前の縄文海進期（約 6,000 ～ 6,700 年前）の後背湿地堆積物であると述べている。

国土地理院地図によれば、旧見付学校の南側の標高は +6.3 m であり、北側は +8.6 m である。

渡辺二三彦 1995 「静岡県袋井市南部、太田川低地の地形発達史」『季刊地理学』47—2

（２）調査概要

調査期間：令和2年2月3日～ 2月10日（現場作業）

調査目的：本調査は、旧見付学校の耐震補強設計のために、地盤の状況を把握することを目的として実施した。

調査内容：①調査ボーリング 計2孔 L=22.51 m

②標準貫入試験 計22回

③スウェーデンサウンディング試験 n=7箇所 $\Sigma L = 20.54\text{m}$

（３）調査実施方針

調査仕様

- ・地盤の深度方向の地質構成と工学的性状を把握するため、調査ボーリング並びにスウェーデンサウンディング試験を実施した。

調査位置

- ・調査ボーリングは、調査地周辺の地形を作ったと考えられる南北方向に測線を設定し、断面状況の把握につとめた。

ボーリング掘削深度

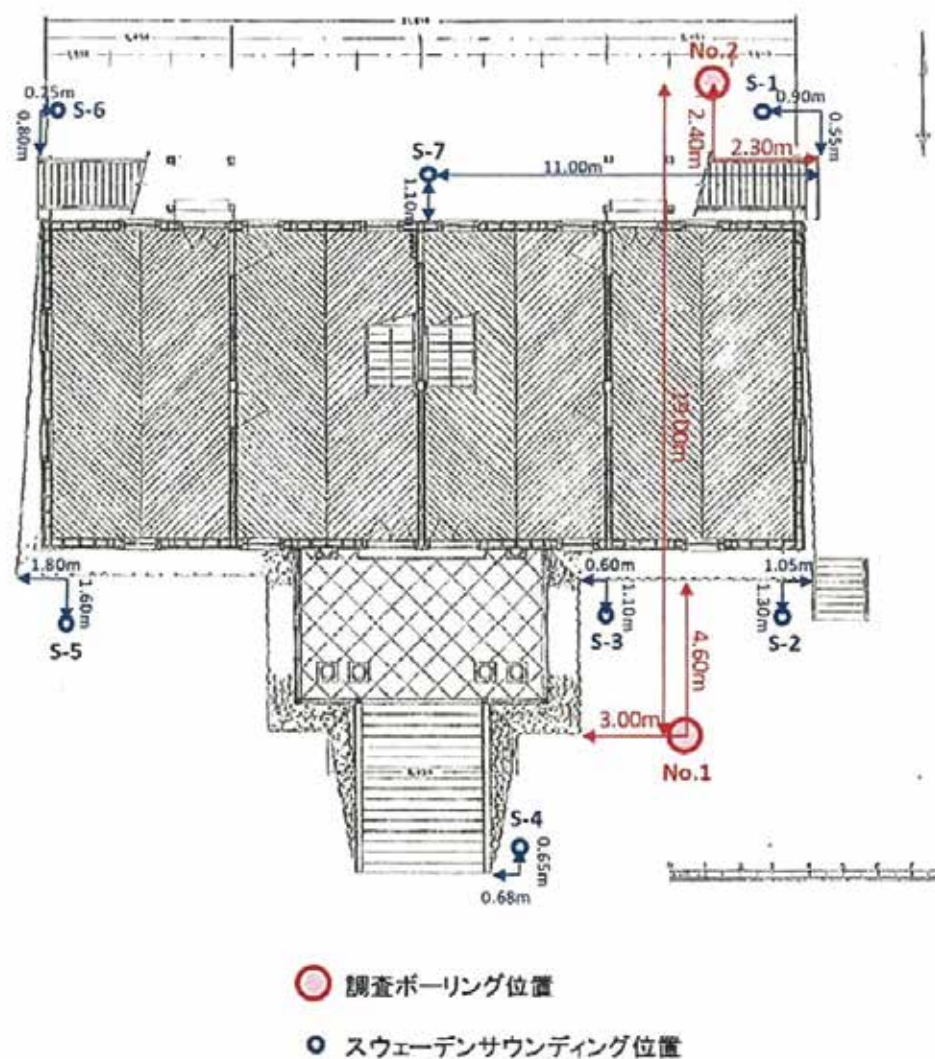


図 調査地点図

- ・ボーリングは、近隣データを参照し、N値が 50 以上となる地層を 5 m 把握するという方針で臨んだ。

標準貫入試験

- ・標準貫入試験は、掘削深度 1 m 毎に実施し、打撃回数上限を 50 回とした。

スウェーデンサウンディング試験

- ・近隣データから、表層に分布していると思われる軟弱層（細粒土層）の厚さを把握することを目的とし、旧見付学校の周囲にどのように分布しているかを把握するために建物の四隅及び長軸の中間地点、玄関付近等に配置した。

（４）調査方法

１ 調査ボーリング

ボーリングは、ロータリー（スピンドル型）ボーリングとした。この方式は、ロッド（肉厚鋼管）の先端に取り付けたビットに機械力による回転と給圧を加え、地盤を切削・粉碎しつつ掘進する方式である。その際発生する掘屑（スライム）は、掘削用循環流体（泥水・清水）の循環により孔外へ排出する。また掘削孔壁の安定は、泥水使用による孔壁への泥膜形成、またはケーシングパイプ（鋼管）の挿入により計られる。

さらに、ロータリー式ボーリングのうちのハイドロリックフィード式を用いた。本方式は、スピンドルの上昇・下降を原動機により発生された流体（オイル）の圧力・方向の調整により行うものである。構造が複雑であるが、省力化とともに、大きな給圧や高速回転が得られるなどの特徴がある。

掘削中は機械音・泥水圧等の機械反応に留意し、併用した標準貫入試験試料の観察等により土層の変化を判定した。

２ 標準貫入試験（日本工業規格：JIS A 1219）

ボーリング孔を利用し、地盤の代表的な硬軟を把握し、構成土質を確認する目的で、標準貫入試験を原則として深度 1 m 毎に行った。試験方法は以下の方法による。

- ①ボーリング孔を試験開始深度まで掘削し、孔底のスライムを排出する。
- ②ロッドの先端に SPT サンプラーと呼ぶ専用器具を装着し、孔底まで下ろす。ロッド上端にはアンビルとガイドロッドを取り付ける。
- ③質量 $63.5\text{kg} \pm 0.5\text{kg}$ のドライブハンマーを、ガイドロッドを通してアンビルに載せる。この時、ドライブハンマーの重さだけで貫入する場合はその貫入量を記録する。
- ④ドライブハンマーを $76\text{cm} \pm 1\text{cm}$ から自由落下させてアンビルを打撃し、SPT サンプラーを孔底地盤に貫入させる。最初の 15cm は予備打ちとし、次の 30cm を試験打ちとする。試験打ちは 30cm 貫入に要した打撃回数を N 値として記載する。
- ⑤試験終了後、SPT サンプラーを引上げ、分解してスプリットバレル内に詰まった試料土の観察を行う。観察後、試料土をビンに入れ、土質標本とする。または土質試験用の試料としてビニール袋等に密封し、試験室に搬送する。
- ⑥N 値は地盤性状の代表的な指標とされる。一般的な目安を下の表 2-3.1 および表 2-3.2 表に示す。

３ スウェーデンサウンディング試験

スウェーデンサウンディング試験の原理は、錐状鋼体の地盤への静的貫入抵抗より、その硬軟若しくは締り具合を把握するものであり、装置が簡便で人力で運搬できる特徴がある。なお近年では機械化・自動化が進んでいる。本調査では手動式を使用する。

１）試験装置

試験装置は、ハンドル、ロッド（綱製 $\phi 19\text{mm}$, $L=500, 800, 1000\text{mm}$ ）、スクリュースポイント、載荷用クランプ（ $5\text{kg}:50\text{N}$ ）、載荷用おもり（铸铁製 $10\text{kg}:100\text{N} \times 2$ 個、 $25\text{kg}:250\text{N} \times 3$ 個）、

底板、工具その他からなる。

2) 試験手順

試験の手順は以下のとおりである。

- ①長さ 0.8 m のロッド先端にスクリーポイント（長さ 0.2 m）を取付け、ポイント上端から 50cm のところにクランプ下面を合せて載荷用クランプを固定し、底板を通して調査地点上に立てて支える。地表面近くに測定のための基準面を設ける。
- ②このままでロッドが地中に貫入するかどうかを確かめ、貫入する場合は貫入が止まった時、基準面からロッドの次の目盛線までの長さを測って貫入量を求め、荷重 50N(5kgf) に対する貫入量として記録するとともに貫入状況を観察記録する。
- ③順次荷重を増加して、②の操作を繰り返す。荷重の段階は、50N(5Kgf)、150N(15Kgf)、250N(25Kgf)、500N(50Kgf)、750N(75Kgf) 及び 1kN(100Kgf) である。
- ④載荷用クランプが底板に達したら、おもりを取り除き、ロッドが足りなければ継ぎ足し、クランプを 50cm 引き上げて固定し、③の操作を行う。
- ⑤ 1kN(100Kgf) でロッドの貫入が止まった場合には、その貫入量を測った後、そのままハンドルを取付け、ハンドルに垂直方向の力が加わらないように回転し、次の目盛線まで貫入させるのに要する半回転数を記録する。なお、これ以後の測定は 25cm（目盛線）ごとに行う。ハンドルの回転方向は右回りとし、半回転ごとに一時停止する方法を取りこれを一回と数える。
- ⑥回転貫入の途中で貫入速さが急激に増大した場合には、直ちに回転を停止して 1kN(100kgf) の荷重だけで貫入するかどうかを確かめる。
- ⑦スクリーポイントが硬い層に達し貫入量 5cm あたりの半回転数が 50 回以上となる場合、又はハンドルの反発力が著しく大きくなる場合、大きな石などにつき当り、その上で空転する場合には測定をやめる。
- ⑧試験下限深度は原則として貫入不能までとするが、⑦または軟弱層の場合は監督員との協議により決定する。
- ⑨測定が終わったら重りを降ろし、引き抜き装置によって全ロッドを引き抜き、数を点検してスクリーポイントの異常の有無を調べる。

3) 試験結果の整理方法

自沈貫入部では、貫入時の載荷荷重 W_{sw} (N、kN) とこれに応じた貫入長、及び貫入時の状況（速度）について記録する。回転貫入部では、貫入量 L に対応する半回転数値 N_a より、次式を用いて貫入量 100cm（1 m）当たりの半回転数 N_{sw} を換算する。

$$N_{sw} = 100 / L \cdot N_a \quad L = 25\text{cm} \text{ の場合は } N_{sw} = 4N_a$$

ここに N_{sw} = : 貫入量 1 m 当たりの半回転数（半回転数／m）

N_a = : 半回転数（回）

L = : 貫入量（cm）

（５）調査結果

１ 調査ボーリング結果（地層構成・N値）

ボーリングにより判明した地層の特徴と土性について述べる。下の表に各地層の諸元とN値を対比させて示す。

表 地層層序表

地質年代	地層区分		下限深度 (標高m)		調査地の土質	換算N値		上段平均N値
			No. 1	No. 2		No. 1	No. 2	下段標準偏差
現世	盛土等		9.95	9.79	砂利・礫混じり粘土	—	2.6	2.5
						—	2.4	0.1
完新世	後背湿地堆積物		8.2	8.24	粘土・砂質粘土	6.4	5.5	6.0
						—	6	0.5
更新世	段丘堆積物	相対密度 中位の	5.1	5.49	粘土混じり砂礫	27	25.5	22.6 6.9
						29	10	
						24	20	
		相対密度 中位の 密な	-0.16	0.24	粘土混じり砂礫 ～玉石混じり砂礫	50	57.7	83.0 33.5
						53.6	68.2	
						65.2	83.3	
						71.4	107.1	
						100	53.6	
						136.4	150	

1) 各地層について

①盛土等

分布状況 No. 1 0.00 ～ 0.15 N値：未実施

No. 2 0.00 ～ 2.70 N値：2.6 ～ 2.4

土質的には、敷砂利・礫混じり粘土からなる。人工物（敷砂利・コンクリート・煉瓦）を含み、現世の堆積物である。No. 2 について、色調・含有礫（種類）により2層に区分した。下位には明白な人工物は認められないが、角礫～円礫までを混入しており、人為的な活動の結果にもたらされた盛土と考えるのが妥当と判断した。混入する礫の影響でN値は3程度になるが、実質的には軟らかい粘性土である。凝灰質粘土状を呈する部分があるが、下位の粘土が攪拌されて混入しているものと考えられる。

②後背湿地堆積物

分布状況 No. 1 0.15 ～ 1.90 N値：6.4

No. 2 2.70 ～ 4.25 N値：5.5

色調は褐～暗褐～淡褐を呈する、粘土～砂質粘土火山灰を含んでいると思われ有色鉱物・白色鉱物・岩滓を含んでいる。凝灰質粘土状を呈する部分を有する。有機質な部分を含んでいる。格子状の堆積構造が認められ、自然環境の中で堆積したものと判断される。

③扇状地堆積物（中位）

分布状況 No. 1 1.90 ～ 5.00 N値：24.0 ～ 29.0

No. 2 4.25 ～ 7.00 N値：10.0 ～ 20.0

φ 2 ～ 50mm 大の亜角～亜円礫を90%程度混入し、マトリックスは粘土分を含む粗細砂よりなる。礫の岩石種は、硬質砂岩・粘板岩・チャート・花崗岩・安山岩等で天竜川上流域に分布する岩石を多く含む。全体には含水中位であるが、No. 2 でマトリックスが含水高く、べちゃべちゃする部分がある。締りは中位程度であり、ばらつきが認められる。地質概要でも述べた扇状地地形を構成する堆積物で、調査地北側に分布が認められる段丘を形成する堆積物である。

④扇状地堆積物（密）

分布状況 No. 1 5.00 ～ 10.26 N値：50.0 以上

No. 2 7.00 ～ 12.25 N値：50.0 以上

特徴は③扇状地堆積物を同様であるが、密に締まっていることが特徴である。下位では、最大礫径が200mm大の玉石を混入している部分が認められる。

2) 地層の分布状況

地層の断面状況については、別図地質断面図に示すとおりである。前頁の表4-1.1に示すように、最も表層に砂利・礫混じり粘土からなる最も新しい盛土が確認された。No. 2 では、混入する礫・色によって2層に区分したが、人為を感じさせる土砂である。N値特性としても、混入礫の影響で大きく評価され6程度と近似している。その下位には、後背湿地堆積物としての粘土が分布する。土質状況は若干異なるが、試料の状況も似た状態で

ある。有機分を含んでいるところがあり、渡辺二三彦（1995）では、こうした有機分から年代を算出したと考えられる。最も下位には、段丘（扇状地）堆積物が確認された。更新世段丘であるものの、両孔ともに上位には密実でない部分を確認された。砂礫を基本としており、No. 2 下位では玉石を相当量含む状態である。No. 2 の 5 ～ 6 m 付近は試料がべちゃべちゃであり、含水量が非常に高い部分を含んでいる。

下表に一般的N値の目安を示す。

表 砂の相対密度

N値	相対密度
0 ～ 4	非常に緩い
4 ～ 10	緩い
10 ～ 30	中位
30 ～ 50	密な
50 以上	非常に密である

表 粘土のコンシステンシー

N 値	コンシステンシー
0 ～ 2	非常に軟らかい
2 ～ 4	軟らかい
4 ～ 8	中位
8 ～ 15	硬い
15 ～ 30	非常に硬い
30 以上	固結

2 スウェーデンサウンディング試験結果

試験結果については、後掲スウェーデンサウンディング試験結果にデータシートとした。以下の方法で地耐力の検討を行った。

1) 国土交通省告示第 1113 号に準じる方法

建築基準法施行令（昭和 25 年政令第 338 号）第 93 条の規定に基づく、国土交通省告示 1113 号に準じて地盤の許容応力度を求める。ただし、地震時に液状化の恐れのある地盤の場合または基礎の底部から下方 2 m 以内の距離にある地盤に、スウェーデンサウンディング試験の荷重が 1 kN 以下で自沈する層が存在する場合もしくは基礎の底部から下方 2 m を超えて 5 m 以内の距離にある地盤にスウェーデンサウンディング試験の荷重が 500 N 以下で自沈する層が存在する場合にあっては、建築物の自重による沈下その他の地盤の変形等を考慮して建築物または建築物の部分に有害な損傷、変形及び沈下が生じないことを確かめなければならない。

【算定式】

$q_a = 30 + 0.6 N_{sw}$ …… 告示式 q_a : 地盤の許容支持力 (kN/m²)

N_{sw} : 貫入量 1 m あたりの半回転数 (回 / m)、上限値は 120 とする。

なお、本業務は整地工事等による地盤の許容支持力の評価を目的としていること、また、貫入深度が 2 m 以内の地点について評価できないことなどから深度ごとに q_a を算出する。

2) 地盤工学会の提案式による方法

地盤工学会「地盤調査の方法と解説」より、平板載荷試験により求めた許容支持力 q_a と W_{sw} 、 N_{sw} との関係式が提案されている。 W_{sw} が 1 kN 以下の荷重で貫入した場合と、回転によって貫入した場合の算定式を以下に示す。

【算定式】

- ・ 1 kN 以下の荷重で貫入した場合

$$q_a = 30 \cdot (W_{sw})^2 \quad (\text{kN/m}^2)$$

- ・ 回転によって貫入した場合

$$q_a = 30 + 0.8 N_{sw} \quad (\text{kN/m}^2)$$

q_a : 許容支持力 (kN/m²)

W_{sw} : 1kN 以下で貫入した場合の荷重 (kN)

N_{sw} : 貫入量 1 mあたりの半回転数 (回 / m)

3 地下水について

ボーリング孔を利用して自然地下水位の把握を試みた。一般には、無水掘削を行い孔内水位として確認する。

しかし、粘性土・砂質土の場合には、無水掘削が可能であるが、調査地のように砂礫の場合には無水掘削ができない。

以下に地下水位の観測状況を記載する。

No. 1

2/3 2 mまで無水掘削。孔内水位無し。以深送水掘削。6.43 mまで掘削後水位 GL-0.85 m。

2/4 作業前水位 GL-2.60 m。10.26 mまで掘削後水位 GL-1.19 m。

2/5 作業前水位 GL-2.80 m。

No. 2

2/5 3.48 mまで無水掘削。孔内水位無し。掘削後作業後水位無し。

2/6 作業前水位無し。4.45 mまで無水掘削。孔内水位無し。以深送水掘削。

6～7 m 掘削時循環水全透水。7.41 mまで掘削後水位 GL-0.80 m。

2/7 作業前水位 GL-3.65 m。12.25 m掘削後水位 GL-2.05 m。

2/8 作業前水位 GL-3.75 m。

No. 1について、上部の粘土層中には、自然水位無し（確定）。2/3～2/5にかけて水位は下降しており、砂礫の中は透水帯と考えられる。掘進時に循環水（泥水）が少なくなる（逸水）ことは観測されるが、多くなること、薄くなるということは観測されない。これら総合して、下位の砂礫の中には地下水位は存在しないと考える（推測）。

標準貫入試験で採取した土質試料について、湿潤状態ではあるが、水中から引き揚げられた状況ではなく、地下水位無しとしたことと符合する。

No. 2について、上部の粘土層中には、自然水位無し（確定）。2/6～2/8にかけて水位

は下降しており、砂礫の中は透水帯と考えられる。掘進時に循環水（泥水）が極端に少なくなることが観測され、ケーシングの挿入と濃い泥水の送水によって水位を維持した。以後、循環水が多くなること、薄くなるということは観測されない。これら総合して、下位の砂礫の中には地下水位は存在しないと考える（推測）。

標準貫入試験で採取した土質試料について、6 m及び7 m試料は含水が非常に多く、べちゃべちゃしている。しかしマトリックスには、粘土分が含まれており、上位の粘土もNo. 1 に比べて含水状態が高いので、こうした影響もあると考えられる。他深度は湿潤状態ではあるが、水中から引き揚げられた状況ではない。これら総合して、砂礫の中には地下水位がないとしたことには大きな矛盾はないものと考えられる。

表 スウェーデンサウンディング試験結果（１）

地点	深度 (m)	W s w (k N)	N s w (回)	長期許容応力度 (q a)	
				国土交通省	地盤工学会
S - 1	0.25	1	8	34.8	36.4
	0.5	1	64	68.4	81.2
	0.75	1	40	54	62
	1	1	44	56.4	65.2
	1.25	1	8	34.8	36.4
	1.5	1	4	32.4	33.2
	1.75	1	300	120	270
	2	1	64	68.4	81.2
	2.25	1	12	37.2	39.6
	2.5	1	12	37.2	39.6
	2.75	1	0		30
	3	1	12	37.2	39.6
	3.25	1	12	37.2	39.6
	3.5	1	12	37.2	39.6
	3.75	1	8	34.8	36.4
	4	1	16	39.6	42.8
	4.25	1	40	54	62
	4.5	1	48	58.8	68.4
	4.75	1	44	56.4	65.2
	4.88	1	769	120	645.2
S - 2	0.25	1	104	92.4	113.2
	0.5	1	80	78	94
	0.75	1	12	37.2	39.6
	1	1	12	37.2	39.6
	1.25	1	4	32.4	33.2
	1.5	1	8	34.8	36.4
	1.75	1	0		30
	2	1	24	44.4	49.2
	2.08	1	1250	120	1030
S - 3	0.25	1	52	61.2	71.6
	0.5	1	52	61.2	71.6
	0.75	1	12	37.2	39.6
	1	1	16	39.6	42.8
	1.25	1	8	34.8	36.4
	1.5	1	8	34.8	36.4
	1.75	1	8	34.8	36.4
	2	1	48	58.8	68.4
	2.25	1	48	58.8	68.4
	2.48	1	435	120	378

表 スウェーデンサウンディング試験結果（２）

地点	深度 (m)	W s w (k N)	N s w (回)	長期許容応力度 (q a)	
				国土交通省	地盤工学会
S - 4	0.25	1	108	94.8	116.4
	0.5	1	12	37.2	39.6
	0.75	1	12	37.2	39.6
	1	1	12	37.2	39.6
	1.25	1	12	37.2	39.6
	1.5	1	8	34.8	36.4
	1.75	1	20	42	46
	2	1	40	54	62
	2.01	1	10000	120	8030
S - 5	0.25	1	8	34.8	36.4
	0.5	1	8	34.8	36.4
	0.75	1	8	34.8	36.4
	1	1	20	42	46
	1.25	1	400	120	350
	1.5	1	516	120	442.8
	1.75	1	680	120	574
S - 6	0.25	1	88	82.8	100.4
	0.5	1	36	51.6	58.8
	0.75	1	12	37.2	39.6
	1	1	16	39.6	42.8
	1.25	1	0		30
	1.5	1	0		30
	1.75	1	4	32.4	33.2
	2	1	12	37.2	39.6
	2.25	1	0		30
	2.5	0.75	0		16.9
	2.75	1	12	37.2	39.6
	3	1	24	44.4	49.2
	3.25	1	12	37.2	39.6
	3.5	1	136	111.6	138.8
	3.62	1	833	120	696.4
S - 7	0.25		20	42	46
	0.5		40	54	62
	0.75		28	46.8	52.4
	1		12	37.2	39.6
	1.25		32	49.2	55.6
	1.5		8	34.8	36.4
	1.75		4	32.4	33.2
	2		32	49.2	55.6
	2.25		36	51.6	58.8
	2.5		72	73.2	87.6
	2.75		20	42	46
	3		44	56.4	65.2
	3.25		20	42	46
	3.5		16	39.6	42.8
	3.72		455	120	394

（６）まとめ

本建物の地盤はN値が高く、支持層が砂質土であるため、比較的硬い地盤であることが明らかになった。支持層が砂質土であるため、地下水位も見られない。また、切土上の粘性土は、層厚が薄く、建物前面の石垣については沈下の可能性が低いものの、側方移動の可能性が残る。そのため、石垣前面の資料を採取し、室内試験による土の特性を調べる必要がある。

本建物の前面はほぼ切土上にあるが、側面及び背面は切土上に粘性の高い土にて盛土を施して建設している可能性があるため、盛土の含水が高くなっている。

（７）不陸調査

建物の床面における不陸調査を実施した。壁面は大壁仕上げのため柱は露出していない。このため、露出する方杖により柱位置を特定し床面からのレベルを計測した。道具は、レーザー墨出し器を使用し床板上端からのレベルを柱ごとに計測した。

計測した数値は、南側中央付近の一番高い箇所を基準（＝ 0）として整理しており、それを下に図示した。

建物床面における不陸調査の結果、一番低い箇所は北側中央部の柱で -29 mmの数値が確認できた。また、全体の数値から、北側が低くなる傾向が見られた。

今後は、建物直下の地盤の状態を確認し、不陸の原因を確認する必要がある。



図 不陸調査結果

史跡旧見付学校附磐田文庫保存活用計画
～愛される「見付の五階」をめざして～
(資料編)

発行日 令和6年3月15日
編集・発行 磐田市教育委員会
静岡県磐田市国府台3番地1